

(シ)

及び皇室を敬みます。(二)人のため世のため國のため
に盡します。及(一)健兒は忠孝を勵む。(二)健兒
は心身共に清い」との掟があり又各國の少年團は國
際的に結連し大會を持つてゐる。これに對し、ソビ
エツトロシア及獨逸等には、共產主義の赤色少年團
(ピオネール)があつて勞働者農民の階級的少年團と
して資本主義の少年團に對立してゐる。日本でも現
に農民の間にはピオネールの組織があり、今後益々
對抗的に發展しようとしてゐる。(ピオネールの項を
見よ)

消費 (シヨールヒ)

消費とは物の有用性(使用價值)を實現せしむる
ことで二通りある。例へば、(一)食物を喰ふことは
消費であるが同時に勞働力の生産である。これは消
費であると共に生産である。(二)商品を生産するに
當つて人々は機械原料、補助原料、勞働力等を消耗

一五四

する。これは生産であると共に消費である。(一)の
場合を消費的生産、(二)の場合を生産的消費といひ
普通消費と言つた場合は(一)の消費的生産即ち生活
資料の消耗を指す。

消費組合 (シヨールヒクミアイ)

商人の仲介的利潤を廢棄し、消費者の生活を擁護
するため勞働者農民が、直接生産者から物資を購入
し分配するための組織である。消費組合の起源は一
八四四年ロツテデールの市の二十八人のフランネル工
の組織したものが始めて、英國を始め獨、佛等先進
資本家國に發達し日本にも大正十二年頃から起り現
在では關東消費組合聯盟を始め全國では百以上の消
費組合とその聯合體が存在し、勞働者農民の資本家
階級に對抗する有力な武器の一つとなつてゐる。併
し消費組合は資本主義の初期には比較的發達するが
帝國主義時代には大資本家の獨占的經營によつて壓

商品 (シヨールヒン)

例され勝ちである。(協同組合の項参照)
交換(買賣)を前提とし、賣ることを目的として生
産された品物及勞働力を商品といふ。資本主義は歴
史的な商品生産社會である。商品には使用價值と交
換價值——従つて價値の二重性があり、この二重性
は勞働の二重性(個々の有用勞働と抽象的一般的人
間勞働力)に基づくものである。又、商品は交換行
程において貨幣に轉形されて資本に轉化され、再び
新しい商品となつて資本に再轉化され、かくて資本
の蓄積(其の項参照)行程を続ける。一般的には商
品が生産されるためには、(一)生産機關の私有——
即ち私有財産制の存在、(二)全産業の分業化と剩餘
生産物が存在すること等である。而して手工業者等
が生産する商品は單純商品であつて、賃銀勞働者が
存在しないため剩餘價値の掠奪が存在せず價値と價

格は一致してをり、資本制生産の商品は賃銀勞働者
の存在を前提とし剩餘價値の掠奪が目的であり、價
値と價格とは離れる。

小ブルジョア (シヨール)

中間層と言はれ社會は益々ブルジョア階級とプロ
レタリア階級に分裂し對立してゆくが、其間にあつ
て何の階級にも屬せず、共通の利害も統一性もない
社會層を小ブルジョアといふ。封建的殘存としては
手工業者、小商人、職人、自作農が存在し、資本主義と
共に新たに發生した俸給生活者、下給技術者、官公
吏等も亦中間層で前者を舊中間層と言ひ後者を新中
間層と言ふ。舊中間層の手工業者、自作農、小商人
は大資本から壓迫され没落の運命にはあるが、生産
手段及資本を私有してゐる點で資本家階級の利益と
運命に接近し、それ自身として歴史の車輪を逆に廻
さうとする反動的傾向を持つ。新中間層は雇傭契約

によつて資本家階級の下に雇はれ勤務に服しこの點では抑取され支配されてゐるプロレタリアの利益及運命に接近してゐるが、直接的生産過程から遊離し且つ労働者に對する支配階級の抑取と支配のための機關に備はされてゐる労働者と對立してゐる。併し新中間層は殆んどインテリゲンチヤであつて歴史の推移の必然性と自己の運命を感知してプロレタリア運動の中に身を投じ或は運命を共にしようとする者が増加するが、無氣力であつて合法的改良主義であり、社會民主主義の物質的基礎を構成する。要するに小ブルジョア階級は夫々條件は異なるが何れも片足は資本家階級に、片足はプロレタリア階級に突つこんでゐて、民主主義獲得の闘争にはプロレタリアと協力するがプロレタリアが勢力を獲得し獨裁政治を樹立せんとするや民主主義を守つてブルジョアと協同し、反革命となるか又はファシズムに走る。

シヨオビニズム

社會排外主義又は單に排外主義と譯され、社會愛國主義とも稱す。社會民主主義者や改良主義者、自由主義者等が、國家間の問題や戦争が起きると、「祖國を守れ」「外敵を撃て」「階級闘争を煽る國賊を非れ」等との叫びを上げて愛國主義の本質をムキ出し、て来る者をシヨオビニストといふ。歐洲大戰の勃起と共に第二インターナショナル及び各國の社會民主黨、社會黨、労働黨、及び右翼労働組合は在來の戦争反對の主義を裏切つて「祖國を守れ」のスクロガンの下に帝國主義ブルジョア階級の掠奪戦争を支持しプロレタリア革命を裏切つた。獨逸のシャイデマン、ノスケ、エーベルト、英國のヘンダーソン、トーマス、アメリカのゴンベリス、佛國のジュオー、ゲード、ロシアのプレハノフ等は其の代表的人物で大戰後の世界革命の時期に獨逸の革命的指導者ローザ、及リ

イブクネヒトはシャインデマン等の政府によつて虐殺され、ロシアのメンセウイキは反革命として出現し、イタリー、オースタリー、ハンガリア等のプロレタリア革命を破壊し鎮壓したのも亦社會民主主義者達であつた。要するに排外主義は社會民主主義の延長であつて、そのまた延長は社會ファシストである。

シヨツプ・スチユアート運動 (——ウन्दー)

工場委員會運動と譯す。「工場委員會」の項を見よ。

職業紹介所 (シヨクギョーシヨーカーイシヨ)

社會政策の一つ。昔の「口入屋」の仕事を市町自治體が無料で行ふもので明治四十四年に東京で三箇所設立され、一九一九年の第一回國際労働會議の決議に基づき日本でも大正十年に職業紹介法が實施され、失業者の増大と關東震災の結果等から現在では大都市は勿論全国的に存在してゐる。之を政府資本

家は失業救済事業と稱してゐるが、實際は具體化した労働市場であつて労働組合に管理權がなく又組合員の失業者への便宜もなく、反對に雇主に自由選擇と賃銀値下の便宜を與えるための機關である。

職業的黨命家 (シヨクギョーテキカクメイカ)

生命と一身の利害を革命的運動と其組織(××黨)のために捧げてゐる前衛。一九〇三年レーニンがロシア社會民主黨第二回大會で「黨は黨の組織に参加し黨員たる義務を遂行し黨の規則を守る人を以つて組織す」といふ規約を決定する時の討議に用ひた言葉が起原である。

職業病 (シヨクギョービョー)

資本主義の非人間的抑取と過勞の結果生れた病氣で紡績労働者の肺病、脚氣、海員のデーゼル病、鑛山のヨロケ、肺、十二支腸病、交通労働者の脚氣、神系衰弱、印刷工の鉛毒等はこれで労働條件の劣惡、

保健設備の不完全等が原因である。

職業婦人 (シヨクギョーフジン)

資本主義は家庭から多くの婦人を奪つて婦人労働者たらしめたが又、會社、商店、病院、娯樂場等から官公省、工場等に到るまで多くの女事務員や婦人勤務者を働かせるに至つた。この女事務員等や婦人労働者に對して職業婦人といふ。日本の職業婦人の数は現在の約三十萬人位である。

職業別組合 (シヨクギョーベックミアイ)

職業別組合は多くギルドから發達したもので同一産業に屬し乍ら舊くは大工、左官組合とか、最近では司厨同盟、硝子工組合、染物工組合等といふ風に職業別に組合を作つたのを職業組合といふ。其の缺點は組合と組合が職業的利害を異にして對立し、或は不熟練工を排斥したり狭い職業意識に捉はれて階級的利益を裏切り廣範な團結とインターナショナル

ズムを拒否するものであり、又帝國主義時代の如く階級闘争が激化し資本はトラスト、カルテルに結合して武装を装へてある條件の下にあつては職業組合は敗北か左もなければ御用團體化するものである。

工場 (シヨクバ)

工場は大經營の仕事場又は職業別の作業場であつて、生産點の末端で、労働者は工場で働き闘争するのである。

工場大會 (シヨクバタイカイ)

大工場、或は大經營では全労働者が會合出来なかつたり仕事を異にするので工場大會を開いて其の職員の委員や代表者を選出し或は大體の意見や要求を決定し、又は工場全體の闘争方針を其の工場で具體化して闘かふ。各工場が一所になつて大會を開いて決議し闘争するのを従業員大會といふ。

工場代表者會議 (シヨクバダイヒョーシヤカイギ)

工場内の各工場から工場大會又は委員會によつて代表者が選出され、この各代表者が集まつて仕事のことや、工場主側と交渉したり、闘争を遂行したりするのを工場代表者會議といふ。工場委員會と同様であるが、工場委員會よりは労働者に判り易いし且つ労働者の自主的な對抗的な機關で大衆闘争の武器である。次に各工場の代表者の會議が工場代表者會議 (其項参照) で、職代、工代は生産點を基礎とした大衆闘争の機關であると共に、將來工場管理及労働者ソビエツトに發展する基礎である。

植民地 (シヨクミンチ)

資本主義は原料の産地、市場の獲得及剩餘資本を投下して高度の利潤を擧取するために非資本主義國を武力及資本の力を以つて自國の支配下若しくは屬國として特別政治を行つて植民地とする。英國のインド、オーストラリア、日本の朝鮮、臺灣の如きが植

民地である。之は強國相互の分割支配を意味し未分割地の掠奪戦争によつて行はれたが、一應分割され且つ資本が帝國主義の段階に進むに従つて資本の輸出 (其項参照) による再分割が行はれる。例へば支那及弱小國に對する列強の資本侵略戦の如きがこれである。かゝる國を半植民地又は列強の植民地といふ。植民地民族は政治的自由と権利は一切剝奪され奴隷と同様であり経済的には強國の労働者に比して二分の一乃至十分の一位の低劣な賃銀で酷使され、且つ支那の如きは自國のブルジョアと他國の帝國主義者の二重の支配と搾取を受けてゐる。だがそれだけに帝國主義ブルジョアに取つては植民地の獲得は死活の問題で、そのためには帝國主義戦争を準備し植民地革命運動を必然ならしめる。

植民地解放運動 (シヨクミンチカイホウウンドン)

植民地革命運動のこと、(一)植民地には資本が

投資され工場や交通機關や市場が作られて資本主義化する。(二)資本主義化した植民地は本國（並に各帝國主義國）の壓迫に堪え兼ねて獨立運動を起す。(三)植民地プロレタリアは急速に増大され、本國からの獨立と全世界の被壓迫民族の解放を要求し、且つ植民地革命運動をプロレタリア革命運動へ押し進めて行く。(各植民地の運動は夫々の項を見よ)

所得税 (シヨトクゼイ)

所得とは普通收益の意味で國家所得と個人所得とがあるが個人所得に對する課税を所得税といふ。地代、金利、企業利得、商業收益及俸給賃銀等の一切の取得に對して日本では年一千圓以下を免稅點として課税してゐる。之に對し無産者は免稅點の引上げと高率累進所得課税を要求してゐる。

指令 (シレイ)

インストラクシヨンの項を見よ。

進化論 (シンカロン)

生物進化論の事で、ラマルクとダーウインの生物進化論が代表的である。舊來生物の種は神の創造によるもので地球に生成して以來變化しないものと考へられてゐたが、一八五九年ダーウインに依て生物が單細胞状態から自然淘汰、適者生存等の外界への適應によつて漸次複雑な有機的の生物に進化し、人間の如き高等動物までに發展進化したことが明らかになつた。ダーウイン説は生物の漸進的進化の方面が強く現はされてゐるので、ド・フリユースは種の突變説を主張してゐる。又ダーウインの進化論を其の儘社會に適用することは、自然成長的改良主義であつてブルジョア擁護論である。

新カント派 (シンカントハ)

カントの思辨哲學はファイテ、シユリンダ、ヘーゲルを経て一八三一年以後觀念論は全く崩壊し、實

證主義及唯物論の全盛期となつた。一八六〇年、ヘーゲル派の中から先づ「カントに還れ」の叫びを上げ再びカントの觀念論の流れを汲まうとした。フィッシャー、リープマン、ラング、ファイヒンガール等がこれである。其後コーヘン、シユタムラー、ナトルプによつて新批判哲學が唱導され、又他の一派としてはギンデルバンド、リツケルト等の西南學派、リル、フォルレンダー、シユタウデンガ、アドラー等が擔頭し、現在ではリツケルト、アドラー等が代表的な新カント派である。最近における新カント派の特徴は、(一)唯物辯證法の代りに史的觀念論、(二)階級闘争論の代りに理想主義による階級協調、(三)プロレタリア獨裁に對して國家の超階級性、(四)社會革命の代りに理想に基づく社會改良等を唱へてプロレタリア運動の中に毒素を振り撒いてゐる。ベルンシュタインの修正派社會主義、ロシア及獨逸に

時ハピコツた經驗批判論及び最近の社會民主主義の哲學的基礎は凡てカント哲學を取り入れてマルクス主義を曲至したもので勞働階級の最悪の敵である。

新經濟政策 (シンケイザイセイスク)

一九一七年十一月革命によつてプロレタリアートが政權を獲得したソビエツト・ロシアは、一九二一年ロシア共產黨第十四回大會において、在來の戰時共產主義を廢し、新經濟政策を採用して、共產主義社會の建設事業に進んだ。戰時共產主義時代はブルジョアの經濟的制度的制度を凡て破壊し、反革命派の破壞に最大の努力が拂はれ其經濟政策は(一)大土地を沒收し、工場、鑛山、鐵道、運輸等の生産機關を國有に移し、(二)農民から穀物を徴發し、交換賣買を一切禁止、(三)在來の貨幣制度を廢止するため紙幣を濫發し零に等しからしめた。斯くしてソビエツト政權は強固に樹立されたが、生産方面——特に

農業は未だ社會化されず團體農業經營は行はれず、爲に農民は穀物の徵收に反對し、且つ一九二二年の大飢饉で農村は全く疲弊しパンと薪炭が缺乏しソビエツトの經濟活動も阻害されるに至つたので、レーニンの主唱の下に新經濟政策を採用し、(一)穀物徵收し殘餘は自由に交換賣買を許し、(二)こゝに一定の制限の下に商業が許され、(三)工業も基本的大工業以外は、一定の制限の下に個人企業が許され一部分個人による労働者の雇傭が許された。新經濟政策の採用に對しては各國の資本家は共產主義の資本主義への降服であると逆宣傳し、ソビエツトロシア内にもコロンタイ等の労働者反對の運動もあつたが、レーニンは之等に答へてプロレタリアが政治上の權力を掌握し大工業と運輸機關を掌握し根本的には私有財産制が廢止されてゐるので決して資本主義に降

服するものでなく、逆にロシアの如き農業國では一定の制限の下に資本主義的生産過程を経て農業及手工業的小企業を團體農業經營と大工業生産に發達せしめなければならぬもので、之は共產主義的建設への前道であると力説し、新經濟政策は大多數の支持の下に實施され、今日に至つては着々と共產主義の建設事業が進められ五ヶ年計劃の成功となつて現はれてゐる。

シンジケート

主として英國に發達した獨占的企業形態で、有價證券引受組合の形式を執り、シンジケート銀行及信託會社に依て資本を結合して投資し、企業及販賣を共同して統制し獨占的に經營する。米國のトラスト、獨逸のカルテルと同様な機能を持つてはゐるが、寧ろカルテルの發達した形態である。

新黨組織準備會 (シントートンシキジュンピカイ)

昭和三年四月十日労働農民黨は田中政府によつて解散を命ぜられたが、直ちに大山、細迫氏等は新黨組織準備會を形造つて暴壓反對其他の闘争を遂行して來た。この時雜誌「労働」派の鈴木(茂)猪俣氏等は本部の方針に反對し別に同年七月無産大衆黨を組織した。新黨準備會はこれらに對して官許無産黨として排撃すると共に昭和三年十二月に結黨大會を舉行せんとするや政府は暴壓し大會は即時解散を命ぜられ新黨準備會も解散された。新黨準備會は直ちに半非法的に政治的自由獲得労働同盟を結成して活潑に日常的大衆闘争を遂行して來たが、準備會解散直後水谷一派は労働大衆黨を組織して分離し、政變労働同盟は暴壓の中によく政治的大衆闘争及市町村選舉戦に戦ひぬいて來た。併し、昭和五年の四・一六事件以來再び内部に合法政黨組織論が盛頭し、昭和五年八月大山、細迫氏は新労働黨の結黨を提案し

同年十月労働黨(其項参照)を結成した。政變労働同盟は新労働黨組織に反對して闘争して來たが労働黨結成の直後自から戰術的に解散した。

信託狀 (シンニンジヨ)

無産者階級の團體(黨、組合等)が其代表者を大會等に派遣する場合に發するもので二種ある。(一)はマン・ダイトと言つて國際會議等に派遣する國際的な代表者に持たしてやるものと、(二)内國に於ける大會等に出席する代議員に發するものでこれを普通信託狀といふ。又代表者の資格により決議權を持つつのと發言權のみとの別がある。マン・ダイトも信託狀も、一定の様式があり又代表者を派遣した團體(又は支部等)の一定の捺印を必要とする。

新聞紙法 (シンブンシホ)

出版法と共に労働者農民に對する言論、出版の抑壓法であつて、明治四十二年に發布されたもの。骨

子は時事問題、政治、労働問題等を掲載する定期刊行物(新聞、雑誌)は発行の十日以前に保證金を納付して官廳に届出をすること。更に発行の都度内務省に二部、管轄官廳及地方區裁判所検事局に一部宛納付し、内務大臣の掲載禁止事項に従ひ、正誤の取消の義務を負ひ、以上に違反したときは處罰され且つ掲載事項の如何によつては朝憲素亂罪、治安維持法違反、不敬罪等に問はれ、責任者は處罰され、出版物は發行禁止、差押、發賣撤布禁止に處せられ得るようになつてゐる。

新マルサス主義 (レンマルサスシユギ)

産兒制限のことを新マルサス主義といふ。マルサスは人口論に於て制慾によつて人口過剰を防ぎ制限すべしと説いたのに對し、制性慾は不自然であつて比較的害悪少く有効なる避妊法によつて産兒を制限せよと説く。最初の主唱者はミル父子である。(産

兒制限參照)

深夜業禁止 (レンヤギョーキンシ)

深夜業禁止とは十六歳未満の幼年男女労働者の午後十時(特に官廳の許可あれば十一時)より午前五時迄の深夜業の労働を禁止する法案で國際労働會議の決議により日本では大正十五年の工場法の改正により昭和四年六月から實施されるに至つた。日本の紡績工場等は從來徹夜作用を行はしめて來たが、この規定の實施によつて、各資本家は十一時間交替制を八時間半交替制に替へ、日曜公休制を月二回の交替による公休に変更し、他方増産によつて労働を強化し、産業合理化策を立て、深夜業禁止を擧げの合理化策として行ふに至つた。

信用組合 (レンョークミアイ)

中農や小商工業者等が、共同の責任を以つて組合(又は購)を作り一定の掛金を積んで組合員の金融を

計り、又は政府其他の低利資金を借入れたりして金融を計る機關が信用組合である。産業組合法の適用を受ける。(産業組合の項を見よ)
眞理 (レンリ)
眞理なるものは普遍的な必然的な法則であつて、各時代には其時代を支配する特有の必然的な法則がある。故に眞理は具體的で、且つ發展するもので抽象的な眞理は存在しない。
侵略主義 (シンリヤクシユギ)
軍國主義、帝國主義は他國及植民地を侵略する。
帝國主義時代の侵略主義は、資本家、軍閥、社會排外主義者が一體となつて行ふ。
示威運動 (ジイウンドー)
デモンストレーションの譯。メーデー、ストライキ、反戦、立憲反對等の示威運動の如く、労働者農民が大衆的な行列、集合によつて敵を威迫し壓服せ

んとする大衆行動。もと軍隊で敵を威嚇する動作に用ひた軍事用語。

自警團 (ジケイダン)

大正十二年九月の關東大震災に際し、XXXXは「朝鮮人襲來、社會主義者の陰謀云々」の流言を放ち民衆を惡煽動し、自衛の名の下に各町區に自警團を組織し、反動的暴力を鮮人及社會主義者に對して振はしめた。これはXXXXが労働者農民に對してファシスト的暴力を組織的に大規模に行使した最初のものである。

自作農制度 (ジサクノリソウテイ)

政府が地主擁護のために案出した農村政策である。小作爭議の激發による地價の下落や地主の經濟的不安を減少し、食糧の開墾を去勢するために、小作人に低利資金を融通し小作人に地主の土地を買取らしめて自作農としよらうといふのである。併し、今日自

作農は農商務省の調査によるも一ケ年約百八十一圓六十三錢の缺損を受け年々一萬月宛は減少しそのうち六割は小作人となる現状であつて、假りに小作農が土地を買つて自作農となつたところで、金利は支拂へず、土地は直ちに借金のカタに取上げられることは分りきつたことである。従つて自作農制定は小作人の利益のためではなく、反對に地主が土地を高價に賣つて、それを他の企業に投資せしめるための地主救済案であつて、反つて小作人は一層窮乏化せしめられる。

事故なしデー (ジコナシデー)

「安全デー」を見よ。

時代錯誤 (ジダイサクゴ)

「アナクロニズム」の項を見よ。

自主的工場委員會 (ジシユテキョージョーイインカイ)

「工場委員會」の項を見よ。

實質重價 (ジツシツチンギン)

貨幣で支拂はれた貨銀額にて實際に購買しうる生活資料の分量を云ふ。貨銀は二割増額され名目貨銀は上つても物價が五割騰貴すれば實質貨銀は逆に低下する。

實證主義 (ジツシヨージユギ)

經驗的に與えられた現象のみが學的知識の内容となりうるものとなし、「吾人は現象の他何物をも知らず……其本質並に窮極の原因は吾人の知らざる所である」と説いたフランスのコントに始まる哲學的理論である。しかし、吾々は一の現象から他の現象へと貫ぬく必然的な法則、現象の背後にかくれてゐる本質を知りうるのであつて實證主義の誤謬は明かである。

ジノヴエフ書簡事件 (ジノヴエフシヨカンジケン)

一九二四年十月英國労働黨内閣は議會を解散し總

選挙を行つたが其際保守黨は當時のコミンテルンの執行委員長ジノヴエフの英國共產黨宛なる書翰を機關紙上に大々的に發表した。それは武裝反亂を勸告したもので英國保守黨が偽造したものであることが後で明らかになつたが、そのために保守黨は勝利し内閣を組織した。各國の資本家達は斯かる好手段を平氣でやつてのけてゐるのである。

ジャーナリズム

ブルジョア新聞及雜誌が、流行を追ひ興味本位の非學問的な場當り式の新奇な記事批評などを掲げることが、それを輕侮的にジャーナリズムと云ひ、ブルジョア新聞雜誌記者及斯る型の人をジャーナリストといふ。これは資本主義の營利主義に基礎を置くもので丁度呉服店が次から次へと絶えず新しい柄の衣服を作つて流行品として賣出すのと同様で、新聞記事の背後には大資本家が控えてゐる。従て、ジャーナリ

ズムは「經濟上の特權を擁護することを目的とし日々の報章を供給する事業及行動である。」

弱少数民族 (ジヤクシヨージンゾク)

帝國主義強國によつて排取され抑壓されてゐる植民地、半植民地の民族。被壓迫民族とも言ふ。朝鮮、支那、印度、エジプト民族等はこれで、必然に民族革命運動が盛頭しプロレタリア革命運動に結合される。

十一月革命 (ジユージイチガツカクメイ)

一九一七年十一月のロシアプロレタリア革命。露曆で十月なので十月革命ともいふ。三月革命(其項参照)以後政権はブルジョアとの聯立政府である社會革命黨のケレンスキー内閣の手にあつたが、戦争と食料の缺乏問題を全く解決し得ず日和見政策で其日を通し臨時政府に對する大衆の反抗は高まつて來た。斯かる狀勢の下にボルセビキは七月暴動に

失敗したが労働者、農民、兵士の絶對的支持を得て「戦争反對」「プロレタリア×××××」をスロイガンに掲げて猛烈な勢でプロレタリア政権の樹立を目ざして進み、十月末にはベトログラード労働ソビエツトにはトロツキーが議長に舉られ、トロツキーを首班とする軍事革命委員会が成立し、ベトログラードの兵權の大半を奪ひ労働者は武装を整えた。ケレンスキーの臨時政府は十一月六日迄に各地の士官學校に命じてソビエツト攻略の舉に出でたが翌十一月七日軍事革命指揮の軍隊はベトログラードの電信局、發電所、国立銀行、中央電報事務局、橋梁、停車場を占領し又バルチックの水兵は冬宮を陥れ、ケレンスキーは逃亡し閣員は逮捕され、首都ベトログラードは労働ソビエツトの手に歸した。他方七日の夜から開かれた全露ソビエツト第二回大會は一切の權力をソビエツトに移すことを決議し、レー

ニンを主席とするソビエツト政府が組織され、これを人民委員会と稱した。翌日のソビエツト政府は土地、財産の沒收と、即時戦争中止案を決定し外國に戦争中止を提議し、こゝに無産者革命は緒をついた。其後ソビエツト國內は反革命派が反亂を起し内亂狀態であつたが赤軍と労働者農民の武装によつて反革命を鎮壓し、戦時共産制を施行してプロレタリア政権を獲得し今日のソビエツト・ロシアを建設した。

「横断組合」(ジューダングキアイ)

「横断組合」の項を見よ。

重商主義 (ジューノシユギ)

マーカンチリズムの譯。十六世紀より十八世紀の中頃迄で即ち資本主義の勃興期に歐洲を支配した經濟思想。封建社會に代つて國家が經濟生活の主體となり、新大陸の發見と、植民や海外貿易によつて貨幣を獲得し國富を増大せんがために、自由貿易に反

對し、國家權力を以つて輸出を奨励し、關稅政策によつて輸入の制限を極度に付した。即ち商業資本主義の保護政策が重商主義である。

重農主義 (ジューノシユギ)

フィジオクラツトの譯。重商主義に反對してフランスのケネー等によつて主張された思想で經濟生活を自然現象と見なし、自由放任主義を唱え且つ土地を以つて唯一の富の發生原因となし、農業のみが眞の生産者であるとなした。

住宅問題 (ジュータクモンダイ)

「借家人運動」の項を見よ。

自由 (ジュー)

人間は一定の社會的生産關係に入り、一定の社會組織の下に生活する限り個人の絶對的自由は存在しない。従つて自由とは「必然を認識することであり」歴史的必然性を認識して變革的行動をすることであ

る。現在では××的プロレタリアこそ「必然の王國から自由の王國へ飛躍」しうる唯一の社會階級である。又人間の意志が一定の自然的社會的關係によつて制約されてゐる以上意志の絶對的自由は存在しない。カントは獨斷的に意志の自由の存在を前提として道徳を説いてゐるが、必然を認識し行動に移すところを最高の「道徳」である。従つてプロレタリアが××を掌握する過程及プロレタリア國家權力が必然的に存在する時代にあつても亦個人の絶對的自由は存在しない。

自由主義 (ジューシユギ)

リベラリズムの譯。資本主義は所有の自由、雇傭の自由、排取の自由、營業の自由、職業の自由、交換の自由、貿易の自由、住居の自由等凡ての經濟的、政治的自由を基礎として發達しうるもので、封建的社會の專制的支配に反抗し是を倒し議會政治を確立

し民主主義のブルジョア社会を實現した。我國の明治初期の自由民権の主義も亦これである。併し今日の如く資本主義が高度に發達し獨占の時代に到ると共に、經濟的自由は獨占となり、政治的自由は大資本の專制的支配となり労働者農民から自由を剝奪して自から自由主義を廢棄する。併し小ブルジョアは過去の自由の時代にあらがれて自由主義を唱え、彼等の絶望的反抗の聲となつて現はれて来るが全く有名無實のものとなる。他方労働者農民は大資本の專制的支配に反対し政治的自由を要求して戦ふが、これは自由主義ではなく、又あつてはならぬもので、労働者農民の革命的階級闘争として戦はれるのである(政治的自由獲得の項を参照せよ)。従つて自由主義はブルジョアの初期における封建的勢力に對する闘争の武器、資本主義發達のための武器であつて、歴史的な概念であり、今日では死滅した思想である。

自由競争 (ジュニキョーソウ)

初期資本主義社会に於ける營利のための無制限的競争のこと。各資本家間の(一)生産の競争、(二)商品の價格及販路の競争、(三)貿易の競争、(四)金利、地代、勞賃の競争等がこれで資本主義はかゝる競争によつて發達し、需要と供給は調節されると説く。自由競争は資本主義生産の無政府状態の結果であつて、そのために中小資本は競争に破れ倒壊し或は大資本に併合され、恐慌は襲來し、資本は益々集中して大資本の獨占時代を出現した。帝國主義時代になると、大資本家間には自由競争は廢棄され、カルテル、トラストによつて生産及販賣は協定され、獨占的に經營され、金利、地代、勞賃も協定され、又海外貿易は保護關稅政策によつて制限されるに到る。最後に、自由競争は、各國の大資本家間との間の市場獲得と投資の競争となつて現はれ、帝國主義戦争を

準備する。

自由貿易 (ジュニボーエキ)

アダム・スミスによつて唱へられ、初期資本主義時代には行はれてゐたが今日では帝國主義の保護關稅政策によつて廢棄されてゐる。自由貿易の主張は、(一)關稅を撤廢し貿易を自由に放任すべし、(二)各國間に分業が發展し、有利な産業に各國共特殊化する、(三)自由競争を保護し、(四)消費者は國內の大資本家の獨占的價格による搾取から脱することが出来るといふにある。併し、帝國主義ブルジョア階級の國內の獨占市場が浸略されるので自由貿易論は現實無視の空論と化した。

自由戀愛 (ジュニレンアイ)

社会の因襲、制度、法律によつて男女の戀愛——結婚が防げられず、婦人を(一)封建制度の強制的結婚制度から解放し、(二)婦人の經濟的獨立を促し、

(2)

自由聯合組織 (ジュニレンゴウシキ)

労働組合の自由聯合としては、各組合は絶対に自主權を持ち聯合體は單なる連絡機關に過ぎず加盟組合を少も拘束せず、何か問題のある毎に集まつて相談し全部の賛成が無い問題は決定しないアナキスト及アナルコサンヂカリストの組織形態である。中央集權に對立する小生産者の思想に基づく組織で、

資本に對する闘争力は微弱であり、常に敗北を運命づけられ革命的黨及組合の中央集権的組織と集中的闘争に反對し、反動化する傾向を持つ。日本に於ける自由聯合の組織として全國勞働組合自由聯合會（別項を見よ）がある。

自由職業 (ジュニョクギョ)

雇傭關係に依らず、自己の自由意志によつて働き報酬を取つて生活する職業。文士、著述家、書工、辯護士、醫者等。小ブルジョア層である。

自由勞働者 (ジュニョウドーシヤ)

一定の職業と一定の雇主、一定の職場を持たない日傭勞働者のこと。通常立ん坊、日傭、出取、人足、人夫がこれ。毎日自由に勞働市場に出て一日定めの日當で働くルンペン・プロレタリアが多い。(一)常に半失業状態に晒され、(二)罷工破りに雇はれ、(三)雇賃は請負人(親方、人夫頭)を通じて行はれ頭

をはねられ、(四)勞働條件は最も劣悪で何等の扶助規定もなく、木賃宿や長屋に合宿し職を追ふて浮浪するのが常である。最も貧困ではあるが一定の職場から遊離してゐるために工場勞働者の如く規律性、組織性、闘争力が缺けてゐる革命的でなく時として反動にさへなり勝ちである。しかし自由勞働者の組合が組織され、工場勞働者の運動と協力し失業反對等の大衆的闘争を行ひ、罷業破りに反對して立つ事によつて階級闘争の舞臺に上る。

僱傭供給の法則 (ジュニョーキョーキョーノホリック)

自由競争時代における古典派經濟學の理論。需要が多くなれば物價が騰貴し利潤が多くなるので競争者が現れ、資本が斯る生産に集まつて生産過剰になるまで續けられ過剰に陥れば物價は下落し利潤が少なくなるので自由競争によつて勞働資本が驅逐されて再び元に還り、需要と供給は放任して置けば自然

と調和されると説く。しかし帝國主義の獨占時代には適用されないことは明かである。

上部構造 (ジョーゴソ)

上部構造とは社會の經濟的構造を土臺として其上に築かれた政治組織、法律制度、教育、學問、宗教、藝術、言語、イデオロギー等一切の物的、人的、觀念的な社會的實在をいふ。(唯物史觀の項を見よ)従つて社會の「經濟的基礎の變化につれて、巨大な上層建築(上部構造)の全部は或は徐々に、或は急激に革命せられる」。これは、上部構造(主に政治的法的的機構)は一度成立するや遂に、經濟的構造を權力的に維持し支配せんとする傾向を持ち、經濟的土臺が變化すると自然と變革されるものではなく、反對に階級闘争によつて必然的に革命されるとの謂である。

剩餘價值 (ジョーヨカチ)

マルクスが創設した理論の一つ。勞働者は自分の勞働力を賃銀の形式で資本家に賣渡し、資本家はこれを生産手段に備かせて商品を作る。今、社會一般的生産力を以つてすれば、勞働者の一日の生活資料は五時間を以つて生産されるとする。この五時間勞働の價格が二圓だと假定する。さて資本家が百圓を投資しうち八十圓は原料及機械の損料(即ち不變資本)に費し、二十圓を以つて勞働力の購買(可變資本)に費し、一日十時間勞働で二圓の賃銀の契約で勞働者十人を雇ひ、一日に百二十圓に相當する價值を生産すると假定する。此の場合最初の不變資本の八十圓は、百二十圓のうちに移轉されて再現するに過ぎないから、四十圓だけが勞働によつて新たに生産された價值部分である。所がこの四十圓のうち賃銀として支持つたのは二十圓だけであつて残りの二十圓は資本家の利得となる。即ち十人の勞働者は各

十時間労働のうち五時間分だけは生活資料の價値に等しい労働賃銀二圓宛を回収するために働き、残りの五時間分宛——十人では合計五十時間は、資本家のために無償で働いたのである。各労働者が無償で働いた五時間分の労働を剰餘労働といひ、剰餘労働を代表する生産物を剰餘生産物といひ、剰餘生産物の價値を剰餘價値といふ。資本家はこの剰餘價値の無償没収（搾取）のために資本を投じ生産するのであつて、より多く搾取するために、(一)十時間労働を十二時間労働又はそれ以上二十四時間以内迄に延長する、(二)労働を減少して搾取する部分を多くする、(三)機械を精巧にして多くの労働者を結合して生産能力を増大し必要労働部分を減少し剰餘労働部分を増大する、(四)労働を強化して労働力を多く發揮さす等によつて剰餘價値の生産を高め搾取率を増大するのである。

剰餘價値率 (ジョーヨカチツツ)

資本の生産行程によつて、資本家は 労働者(80圓)十五圓(20圓) + 労働者(30圓)の商品價値を獲得したと假定する(前項の例を見よ)。この場合新たに生産された價値部分は可變資本の二十四圓と剰餘價値の二十四圓、計四十圓に相當する價値部分である。剰餘價値率とは此の可變資本に對する剰餘價値の割合——即ち 労働者(20圓) + 労働者(30圓)であつて、この場合の剰餘價値率は一〇〇パーセントである。資本家は百パーセントだけ労働者から搾取するのである。尙、剰餘價値率は利潤率とは異つてゐて、利潤率といふのは 労働者(20圓) + 労働者(30圓) + 労働者(20圓) + 労働者(30圓)であつて、この場合利潤率は二十パーセントである。資本が高度に發達すると、益々不變資本に投ずる資本部分が増大し、可變資本部分が相對的に減少するので資本家の利潤

率は低下するが、剰餘價値の搾取率は反對に益々増大するのであつて、労働者はこの點で資本家にゴマ化されぬようにせねばならぬ。又資本の剰餘價値の生産が増大すれば剰餘價値の搾取率も比例して増大することは勿論である。(剰餘價値の項を参照せよ。)

人口問題 (ジッコロモンダイ)

普通人口問題とは資本主義社會に於ける人口の量的(數の大小)及質的(性別、年齢、生死強弱等)の現象の變化——従つて資本家、地主の數が減少し労働者、貧農の數が増大し、労働者階級の内部にあつても失業者が増大し、婦人青少年の労働者がヨリ多く雇傭され、労働者の生命は貧困と労働の強化のため短縮されるに至つたような現象を意味する。要するに、資本制生産關係の状態を人口の上に反映したもので、人口問題とは各階級間の量的質的相互關係の變動、及各階級の内部的構成の變化の現象をい

ふのである。(人口論の項を参照せよ。)

人口論 (ジッコロン)

マルサスの人口論を指す。マルサスに従へば「人口は無制限性慾の下では幾何級數(2, 4, 8, 16, …)を以つて増殖し、生活資料は算術級數(2, 4, 6, 8, …)を以つて増加する」もので、人口の繁殖力の方が生活資料の増加力より遙かに大であるから貧困、疾病、戦争、罪惡、晩婚、禁慾等によつて、人口の過剰を調節しなければならぬといふのである。この人口論はブルジョア社會の人口の法則を理論化したもので資本家が労働者を搾取し、大衆を貧困と病苦の状態に呻吟せしめつゝある資本主義の現状を合理化するために、以來盛んにブルジョア學者によつて傳導されるに至つた。併し、人間は自然物として自然的法則の支配を受けるが、それは社會を形成し社會の歴史的方則の支配を受けてゐるもので、抽

象的な人口法則は存在せず、一の時代には其の時代特有の人口法則を持つものである。従つてマルサスの理論は、生産力の非常なる発展にも拘はらず生産機關の私有によつて生産諸力の發現を阻害してゐるところの資本制社會の人口法則であつて、人口の過剩とは剩餘労働者——失業者群の増大を意味するものである。即ち資本制生産は、労働生産力が發展し資本が蓄積すればする程、不變資本部分は増大し、労働者の賃銀部分たる可變資本は相對的に低減する。だから資本家に雇はれて生活資料を得る労働者数は相對的に益々減少し、生活資料から引離された産業豫備軍は益々増大するのである。

人身賣買 (ジンレンバイバイ)

封建時代の野蠻な奴隷賣買が代表的な人身賣買で奴隷は牛や馬と同等に物として扱はれ賣買された。資本主義の社會に残存してゐる娼妓、及前借年期制

雇傭労働等は一種の人身賣買制である。人道主義 (ジンドーシユギ)

ヒューマニズムの譯。人類は自然において平等であるから互に敬愛し仲よく助け合ひ、階級闘争や戰爭は人道に反するから避け、「隣人を愛せよ」「汝の敵を愛せよ」と説教するのが人道主義である。宗教家、御用學者等が労働者貧民の階級闘争を去勢するため人道主義を撒き散らすのであつて、實際には支配階級の御用を務めてゐるのである。

人民委員 (ジンミンイイン)

コムミツサルの譯。ソビエツト聯邦の政府委員のこと。日本の大臣に當る。

人民委員會 (ジンミンイインカイ)

ソビエツト・ロシアの政府のこと。ソビエツト・ナロードヌイ・コムミサロフの譯を略稱して人民委員會といふ。ロシアの政治機關の最高機關は全露ソビ

エツト大會であつて、大會は中央執行委員を選任し中央執行委員會は中央常任執行委員を選任する。この常任執行委員會が人民委員會を組織し、議長一名と十八人の人民委員で構成され外務、労働監督、陸海軍、内外商業、労働、交通、郵電、財政の各部門委員會及最高經濟會議、中央統計院を人民委員會が分掌し統轄してゐる。

新反對派 (レンハンタイヘ)

全聯邦共産黨内に於ける最近の幹部反對派。一九二〇年來のシャブニコフ、コロンタン等の「労働者反對派」及トロツキの反對派を舊反對派と呼び、一九二五年以來ジノビエーフ、カーメネフ等がスターリン等の幹部派に反對し、且つトロツキ等とプロツクを形成し、共産主義左翼と右翼とが一所になつて、全聯邦共産黨及コミンタンの幹部の政策を攻撃し、黨の統制の擾亂及攻撃の陰謀を企てた。これ

を新反對派と呼び一九二七年黨籍を除かれ、ジノビエーフ、カーメネフ等は黨に服従を誓つて其後復黨を許され、トロツキ等は追放されて新反對派は粉砕された。

失業委員會 (シツギョーイインカイ)

失業反對運動を大衆的に進行する爲、失業者及失業の危險に晒されてる労働者の代表(各工場代表者)及組合の代表者等を以つて構成する常設的闘争機關である。(一)七時間労働制の實施、(二)失業中の手當及失業保険の獲得、(三)失業中の家賃、借金、瓦斯水道電氣料等の支拂の免除、(四)失業者のために新規事業(國家又は自治體等の)の企劃實施、(五)兵役による解雇反對、除隊後の復職等々の要求を獲得するために闘争し、失業反對の大衆闘争を組織し指導するのである。

【ス】

水平運動 (スイハイウインドー)

千數百年以來エタと稱せられ、侮辱され、蹂躪されて来た全國三百萬人の特殊部落民——水平社の解放運動である。大正十一年頃よりデモクラシーの思想に刺激され、特殊部落民を經濟的、政治的、社會的に普通平民と同一水平線上に向上せしめんとする運動となつて現はれたが、刺冠旗を揚げて徹底的の亂彈を以つて闘争する自主的な點と、労働者階級の運動と結合し被壓迫民族解放として闘争すべき事を自覺するに至つた點が、在來の部落改善運動とは根本的に意義を異にしてゐる。従つて、今日では水平社の獨立的組織と闘争によつて目的を達せようとするのでなく、逆に水平社同人が労働者農民の組織と階級闘争に積極的に参加し、プロレタリア運動の發展

と共に被壓迫民族解放運動を達成せんとするようによつて進展して来た。

水平社 (スイハイシヤ)

全國三百萬人の特殊部落民の民族的團體を水平社と言ひ、特殊部落民全體をも水平社といふ團體名を以つて言ひ表はすようになつた。水平社が組織されたのは大正十年三月奈良縣柏原の水平社で、この運動は忽ち全國的となり、十一年三月には全國各地の水平社の聯合體として全國水平社が京都に創立大會を擧げた。當時の綱領は「(一)特殊部落民は部落民自身の行動によつて絕對の解放を期す。(二)部落民は絕對に經濟的自由と職業の自由を社會に要求し其獲得を期す。(三)人間性の原理に覺醒し人類最高の理想に向つて突進す」と言ふにあつた。この運動の現はれとして各地に流血の事件が續出し、最も代表的な衝突は奈良縣水平社と國粹會支部との對立で

あつた。又水平社の内部には無産階級として政治運

働へ参加せよとの勢力が優勢となり、大正十二年には水平社青年同盟が組織され、十四年には水平社無産者同盟の組織を見、全國水平社の綱領も第三項は十五年には「吾等は賤視觀念の存在理由を識るが故に明確なる階級意識の上にその運動を進展せしむ」と變更され、農民組合、労働組合及プロレタリア黨の運動中に積極的に参加するに至つた。

スウエツテイニング・システム

「青血制度」を見よ。

樞密院 (スウミツイン)

憲法第五十三條により「天皇ノ諮詢ニ答ヘ重要ノ國務ヲ審議ス」る機關。従つて法律や條約は樞密院の批准を経てはじめて有効となるようにしてあるのである。

スカップ

「罷業破り」の項を見よ。

スツツトガルト決議 (——ケツギ)

一九〇七年第二インターナショナルはスツツトガルト大會で「戦争勃發の危機に對しては、當該諸國の労働階級及び其議會代表は國際社會黨事務局の援助の下に一致の行動を採つて戦争を防止する義務を有す。萬一戦争勃發の際は、即座に之を終熄せしめ其の全勢力を戦争に反對する闘争を組織すべき義務を持つべし」といふ非戦決議である。當時バルカンを中心として歐洲は大戦の危険が迫りつゝあり、又第二インターナショナルはカール、ローザ等の革命派の主張が採用されて非戦決議となつたのであるが大戦勃發と共に第二インターナショナル及各國社會黨は此決議を裏切り一片の反古と化したのである。

ステートメント

聲明書と譯す。或團體の主張、方針、態度等を公

然と大衆に明かに發表する文書。
ストライキ

同盟罷工と譯す。労働者階級の特有の闘争手段。
ストライキの行はれる場合は次の如し。(一)労働條件の維持改善、(二)解雇反対、(三)ロックアウトに
抗争、(四)團結罷業の確立、(五)組合及労働者
委員会等の壓迫に對する闘争、(六)争議應援の同情
罷業、(七)治案維持法及労働抑壓法令の撤廃、(八)
帝國主義戦争反対、(九)一切の經濟的、政治的要求
現實のための闘争、(十)革命期に於ける工場××及
びプロレタリア権力××のため等。又ストライキは
要求が經濟的で闘争の對手を個々の資本家に止める
時は之を經濟的ストライキと呼び、政府又は資本家
階級を相手として政治的要求によつて戦ふものを政
治的ストライキといふ。(經濟的、政治的ストライキ
の項参照)又、同一産業、同一資本系統の全労働者

がストライキを起す場合を産業別ゼネラル・ストライキ(産業別ゼネ・ストと略稱)と呼び一定の地域的労働者のストライキを地域的ゼネ・ストと呼び、政治的、全國的なストライキを政治的ゼネ・ストといふ。(尙學生の同盟休校をもストライキと呼ぶこともある。)次に經濟的要求に基づくストライキのみに極限する者は改良主義で、非階級的であり、マルクス主義のストライキ闘争は政治的闘争の一部分として經濟的ストライキを激發するのであつて、マルクス主義者は經濟的ストライキを通じて大衆を××的に教育し訓練し改良主義者の手から大衆を獲得するのである。

ストライキ戦略 (——センリヤク)

ストライキ戦略は、プロレタリアートの革命的戰略に從屬し、個々のストライキ戦術の基準であると共に、それ自身「××の法則」を持つものである。

(A)全客觀的狀勢(政治的、經濟的)を充分把握すること、(B)敵の勢力の結成、結束力、勢力關係を知ることに、(C)攻撃の一般方針(見通し)を作り、最も適當な機會を選ぶこと、(D)味方の勢力關係、特にストライキの動員計劃を立てストライキ指導部及宣傳宣傳委員會等を編成し、提出すべき要求を統一し、且つ廣範に大衆の中に煽動を開始し闘争慾求を激發すること等はストライキ開始の前提條件である。ストライキに當面しては、(一)敵の中心を突き且つ弱き一環を攻略すると共に運動の側面攻撃と集中攻撃とを適應的に結合すること、(二)敵の攻撃のうち最も味方にとつて危険なものを去勢すること、(三)絶えず言論、ピラ、ニュース等によつて廣範にアジを行ひ一切の機會を充分に利用すること、(四)争議團を緊張させ常に新しい希望を持たせ、従業員大會、示威運動等次から次へと闘争に動員すること、

(五)敵及敵の勢力に對する一つのストライキには程度があることを理解し適當なる時には争議を打ち切り(六)必要な場合には機を逸せず退却し妥協して味方の勢力の潰滅を防ぐこと、(七)資本家との協定は妥協以外の何者でもないことを知り常に攻撃の準備をすること、(八)資本家との協定は一切秘密になさず公然と行ひ、關係者に報告すること、(九)争議を繼續すべきか打切るべきかに就いては一般投票をとるといふようなことは決してしないこと、(十)決定的瞬間に於いて豫備軍として必要地域の労働者及農民小市民等を引き込むこと、(十一)地方の争議關係者を連絡し絶えず緊張さすこと、(十二)家族婦人を争議に参加させ、裏切者其他との闘争に立たしめること、(十三)一工場ストライキに對する同情と援助を産業又は地域的ゼネ・ストに發展さす事、(十四)スカップ反動團體履入暴力團及官憲の暴壓に對抗す

るため特別の部隊を組織すること、(十五)大争議の場合豫想出来る官憲、軍隊の干渉を防禦するために廣範なアジテーションを行ふこと。等が重要とされ特に帝國主義第三期の戦術としては、(一)ストライキ闘争を赤色組合等革命的労働者の組織のヘゲモニーによつて激発し大衆の先頭に立つて卒先的に組織すること、(二)経済的ストライキを政治的ストライキに發展せしむること、(三)不斷の活動によつて工業委員会、職場代表者會議を組織し、且つ工場代表者會議運動を充分利用すること、(四)當該産業又は地域の各工場の労働者を以つてストライキ委員會を組織し、右翼ダラ幹の手からストライキ指導権を剽奪する事、(五)ストライキ闘争と共に白色テロルに對する闘争を行ひ赤色自衛團を作ること。等。

ストライキ (調語)

戦略と譯す。其項を見よ。

スパイ

探偵、間諜の意。プロレタリア運動に於けるスパイは、(一)特高課、労働課等の警察官、(二)階級運動の組織及活動の内部に働きて官憲や資本家に買収され手先となつて内部の状勢を密告し、同志を逮捕せしめたり、組織や運動を擾亂したり破壊したりする者。前者は看板を掲げた公然のスパイ、後者は味方づらをしたスパイで、後者は最も悪み卑劣な裏切者で、最も危険な敵であり、これらはスパイ網として、一定の組織と連絡を國際的及國內的に持つてゐる。内部のスパイに對しては、各國労働者はXX、XX等の手段を以つて自衛してゐる。

スバルダカス團 (—ゲン)

ローザ、カール等に指導された獨逸の共產主義者團で獨逸共産黨の前身。一九一四年社會民主黨左翼の少数派は戦時豫算案反對の投票及示威運動を行つ

たが、黨幹部派に除名され、スバルダカス團を組織しプロレタリアートの革命的的と戦略を掲げ且つハーゼ等の獨立社會黨と提携し、反帝國主義と非戰論を唱へ政府及社會民主主義者と闘争した。一九一八年十一月のドイツ革命に際しては、一切の權力をソビエツトに移せとのスローガンを掲げて戦ひ、同一年十二月大會では獨立社會黨と分離し、こゝに獨逸共産黨を組織し、モスコイ・インダナショナルの援助の下にドイツ新共和政府の顛覆、勞兵ソビエツト政府の樹立並にプロレタリアXXの爲に戦ひ、一九一九年一月には、ベルリンに革命的暴動と罷工を組織したが、社會黨のノスケ、シャイデマン等の反革命分子に鎮壓され、カールとローザは虐殺された。

スローガン

スローガンとは、プロレタリアの戦略的目的に従

つて當面の客觀狀勢から引出され、公然と示された大衆闘争の合言葉である。客觀狀勢の變化に對應してスローガンも必然に變化し、一目判然と大衆の要求と行動をハッキリ示し、常に大衆の言葉で生々とした現實的姿で現はされ、前衛(即ち黨の活動)と幾百萬の大衆とを結合し、大衆闘争を遂行する。前衛はこのスローガンによつて大衆を動員し、ストライキ、示威運動、工代、従業員大會等の闘争形態に依て大衆のXX的エネルギーを發現させねばならぬ。従つて、スローガンと闘争形態は密接に結合され、最も適切なスローガンなくて大衆闘争は組織出来ないと同時に、大衆闘争を現實に遂行するところの闘争形態(手段及闘争の組織)なくしてスローガンは無意味である。ロシア革命に際し、レーニンが勞兵ソビエツトの組織を獲得しつゝ「一切の權力をソビエツトに移せ」のスローガンを掲げたのは、其

の模範的なものである。社会民主主義者は革命的地位の下に大衆が革命的大衆闘争を遂行しようとするのに改良的スローガンを掲げ且つ大衆的闘争形態を拒否して革命的闘争を去勢せんとし、共産主義左翼小兒病者は革命的大衆闘争を現実に組織しうる客觀的状態にあるか否かは一切おかまいなく觀念的に革命的スローガンを弄んで現實の闘争を阻害するのである。

ストライキ委員会 (イインカイ)

ストライキ委員は罷業を統一的に行ふためにも、ドラ幹を放逐するためにも肝要な戦術で、組合が分立してある所、ドラ幹が跋扈してある場合、未組織大衆の多いとき、ストライキを他工場に擴大する場合等には特に重要である。罷業に際し一時的に組織するのが普通だが發展すれば常設的に持たれる。(ドイツ、支那等)次に委員会の構成は、生産點を基礎

とし一工場の場合には職場大会、従業員會等から、産業的、地方的等廣範の場合には各工場(鑛山、船舶、職場)から選ばれた代表者を以つて構成する。罷業の指導、統制を行ひ、裏切者や動搖者が出た時は罷免し、新たな委員を選出して之に當てる。尚ストライキ委員会が解體される場合には、従業員會、工場委員会、各種行動委員会等として工場内の活動に存続せしめられねばならぬ。

スポーツインターナショナル

一九二二年コミンタンの指導によつてモスコに創立。所謂赤色スポーツ團で各國に支部があり、現在會員三百數十萬人を擁す。スポーツによつて共産主義的教育訓練及體育を養成す。

【七】

正貨現送點 (セイカゲンソータン)

日本の爲替相場が百圓について米貨四十九弗八十四仙六厘の中に含まれる純金量の價格に相等する場合を爲替平價(爲替相場の項を見よ)といふ。これに純金の現送費米貨四十二仙(日本貨八十三錢)を引いた額即ち四十九弗四十二仙六厘が正貨現送點である。

正貨輸入點 (セイカユニータン)

正貨現送點の逆で日本の百圓の爲替相場が四十九弗八十四仙六厘に現送費四十二仙を加へた五十弗二十六仙六厘に達した時が正貨輸入點である。

請願運動 (セイガンウインドー)

憲法三〇條による天皇、議會、官廳に對する人民の請願の權利による運動。請願書を作成し、大衆的

に署名を得て提出するのであるが、普通は議會及官廳に對して行ふ。「議會解散運動」の項を見よ。

生産 (セイサン)

生産とは使用價值(効用)及び價值を有する物(例ば鐵、米、布等々)を作ることといふ。又生産は繰返されねばならぬので生産——交換——分配——消費を含む再生産を必然に意味するようになる。これらの生産は一定の社會關係の下に行はれるもので資本主義社會では、資本の生産となつて現はれる。

生産過剰 (セイサンカジョー)

市場に於ける購買力(需要額)を超過して商品が生産されること。搾取と競争等を基礎とする資本制生産の必然の現象で、其の結果恐慌となる(恐慌の項を参照せよ)

生産關係 (セイサンカンケイ)

人類は、その意識から獨立せる一定の社會的生產

關係——即ち財產關係、生産機關の分配關係、交換關係、履修關係等の中にあつて相互に關係して、生産し、社會生活を営んでゐる。この生産關係から離れて人間の社會的生活は成り立たないのである。(唯物史觀及經濟的構造の項を見よ)

生産組合 (セイサンクミアイ)

資本制生産の下で勞働者が共同出資して生産を營む組合で、組合員たる勞働者は小企業家化し、利潤の分配に與かるのである。會てオーエン主義の下に英國に企てられたが、空想に終つた。(協同組合の項を参照せよ)

生産機關 (セイサンキヤカン)

生産手段ともいふ。生産に必要な勞働用具(機械器具)、補助材料(油燃料)、勞働對象(原料)、其他工場及工場設備等を指す。生きた勞働力(個々の勞働)をこれらの要具と原料等に働きかけて生産が行はれる。

るのである。

生産方法 (セイサンホーホー)

生産手段及生産關係を一貫する社會的様式を意味す。(一)技術的方法、(二)生産の社會的有機關係の様式如何によつて封建的生産方法、資本制生産方法共産主義的生産方法といふ風に歴史的に内容を異にしてゐる。

生産力 (セイサンリョク)

生産用具及原料と勞働力との有機的結合に依て、有用物(資本制の下では使用價值並に價值を有する商品)を生産する社會的能力、及其の能力の存続並發展を生産力といふ。生産力の大小は社會的生産に於ける剩餘價値の生産の大小に應ずるものであるが、實際の上では一定時間の勞働によつて、生産しうる生産物の量の大小(貨幣價値の大小)となつて現はれる。従つて、「生産力は種々な事情、殊に勞働者

の熟練の平均程度、科學及工藝學的應用の發達程度生産行程の社會的結合、生産手段の範圍及行程、並に種々の自然的事情によつて、決定される」のである。

清算派 (セイサンハ)

「解黨派」の項を見よ。

政治 (セイジ)

「政治とは經濟の集中的表現である。」ブルジョア社會にあつては、ブルジョア國家の政治權力の行使が代表的表現である。だから「階級闘争は政治權力に對する闘争である」し、プロレタリアの政治的闘争(階級闘争)の中には必然に經濟的闘争が構成部分として包含せられてゐて、所謂政治闘争と經濟闘争とは分離したものではなく、統一された全體性を保持し、階級闘争としてブルジョア國家のXXXXXしプロレタリア政權のXXを目的とする政治的XX

的意義を持つてゐるものである。

政治闘争 (セイジトウソウ)

普通經濟闘争(其項参照)に對比して政治闘争といふ。しかし一切の階級闘争は政治的闘争であつてどこまでが經濟闘争であつて、どこから政治闘争であるといふような分界線はない。大體に於いて、雇主に對する勞働條件維持改善の闘争を經濟闘争と稱し、政府及資本家全體に對する闘争を政治闘争といふ。併プロレタリア黨は一切の階級闘争(政治的、經濟的)の全部的負擔者であり指揮者であつて、それは政治闘争にのみ限らるべきではなく、又組合は勞働大衆の組織ではあるが經濟闘争にのみ極限さるべきではない。黨は階級の頭部で黨と組合との闘争は黨の指導の下に相互に關係し、支持し合つて行はれ、前衛と大衆とは結合されて全體性を持つのである。以上のような政治闘争をマルクス主義的政治闘

争と言ふ。これに對立するものを、改良主義及社會民主主義の議會主義的政治闘争といふ。これは政黨は議會に於て組合法や社會政策的立法を獲得する機關で、組合(労働)は資本家(及地主)に對する經濟闘争を行ふ機關であると双方を分離し、且つ機械的につぎ合せてゐるのであつて、斯る黨はプロレタリアの政治闘争の組織ではなく、ブルジョアの政治的代理機關である。

政治研究会 (セイジケンキューカイ)

日本に於ける労働者農民等の無産政黨組織運動の最初の團體で、大正十三年六月創立され「吾人は無産階級の利害に立脚する政黨の樹立を期す」と決議してゐた。大正十四年の農民労働黨の結黨及解散後直ちに結黨された労働農民黨の結黨には當時の左翼勢力として相當貢献したが、大正十五年には大衆教育同盟と改稱し、昭和二年一月頃には自から解散し

た。

政體 (セイタイ)

政體とは階級國家の統治權行使の形式であつて、君主政體と立憲政體の二つが資本主義社會に存在してゐる。君主政體は封建的專制政治の殘存で、立憲政體はブルジョアの議會政治である。

政治組織 (セイジシキ)

政治組織とも言ふ。(一)政治に於ける階級的勢力關係、(二)政治機關の職能及構成の二つを指して政治組織といふ。例ば日本の政治組織は資本家と地主の反動的でプロククの下に内閣各省官廳、貴衆兩院、裁判所、地方自治體等の機關及樞密院、陸海軍令部等があり、労働者農民を支配してゐると言ふが如し。

政治的自由獲得労働同盟 (セイジテキジニョウカクトクロノノドローメイ)

「新黨準備會」の項を見よ。
政治的暴徒 (セイジテキバクロ)

政黨 (セイトウ)

政黨とは一の階級の利害を代表する政治的機關で階級の頭部である。だから階級と階級の争は黨と黨との對立抗争となつて現はれ、プロレタリア黨は他のブルジョア、地主、小ブルジョア等の一切の他の黨と抗争する。

清黨 (セイトウ)

共產黨が右翼的、左翼的偏向者(小ブルジョアの利益を代辨する者)及不良黨員を除名し、マルクス・レーニン主義に依つて武装し、黨の統一性と階級性を確保して黨を觀念的にも組織的にも強める手段の一つである。コミンタン及各國の共產黨は帝國主義第三期を前にして一九二八年頃より清黨を斷行し、

トロツキリ、ブハリリン、ジノビエフ等の幹部も一般黨員も少しも區別することなく動搖分子、不良分子を除名し放逐しつゝある。

政黨政治 (セイトウセイジ)

「議會政治」の項を見よ。

正統派經濟學 (セイトウハケイザイガク)

スミス、リカルド等のブルジョア經濟學説及それを繼承し阻述する學派の經濟理論を正統派經濟學といふ。

正統派マルクス主義 (セイトウハ——シユギ)

マルクス主義を繼承し、發展せしめたところのプロレタリアの革命理論を正統派マルクス主義と言ふべきで、今日ではマルクス・レーニン主義即共產主義が之である。しかし歴史的にはカウツキがベルンシュタインの修正社會主義(其項参照)に對抗して自からマルクス主義の正統派を以つて自任した

社會民主主義を正統派マルクス主義といふ。カウツキの理論はプロレタリア獨裁と、革命的大衆行動を否定したもので「正統派」の名の下にマルクス主義を曲め骨ぬきにしたことは言ふまでもないことである。

政府 (セイフ)

支配階級の政治の行政機關を政府といふ。内閣並各省及之に直屬する官廳がこれである。日本の内閣は天皇の輔弼機關であつて、各省は内閣の指揮監督の下に各行政事務を分掌してゐる。政府は支配階級の政治組織の一部で且つ中心をなしてゐる。

政友會 (セイユウカイ)

明治三十三年伊藤博文等によつて組織された自由黨が前身で、伊藤、西園寺、原、高橋、田中の總裁を得て、現在犬養毅が總裁であり、内閣を組織することと大同。三井、古河、久原等の大資本家の利益を代

表し、且つ地方の地主の利益を代表してゐる。最近の主な政策は、(一)産業立國、(二)地方分權、(三)地租及營業收益税の委譲、(四)農漁山村の振興、(五)財界の整理、(六)軍備の改編、(七)運輸交通機關の整備、(八)保護關稅の設定、(九)教育の改善、社會政策の實施、(十)工業の興振、産業の合理化、(十一)對支權益の確保等であつて、この黨は大資本家の利益を代表するものと、地主の利益を代表するもの、(床次系)があつて統一性が缺陥して利害の對立を含んでゐるが、愛國主義と、皇室中心主義を高唱してゐる點で結びついてゐる。

青年共産インターナショナル (セイネンキョーサン)

「共産青年インターナショナル」を見よ。

青年運動 (セイネンウンドー)

共産青年同盟及組合青年部の運動を總稱して青年運動といふ。(共産青年同盟の項を見よ)

世界觀 (セカイカン)

世界觀とは世界及世界における人間の位置及生活に關する思想の全體であつて、プロレタリアの世界觀は史的唯物論及階級闘争の理論——マルクス・レーニン主義である。

世界主義 (セカイシユギ)

「コスモポリタニズム」を見よ。

赤衛軍 (セキエイグン)

プロレタリア革命を防衛するための常備軍で、赤軍と略稱される。現在では革命に成功したソビエツトロシアに存在してゐる。ソビエツトロシアでは十一月革命後一九一七年にメルニコフ等の反革命の攻撃に對抗して、ロシアの労働者、農民、兵士によつて組織された義勇軍が始まりである。一九一八年に法令によつて正式に組織され軍事革命委員會に直屬し、共産主義革命を守るため軍規に絕對に服従し、

最も精銳に訓練されてゐる。又、赤軍の内部に共産黨の細胞及政治的教育機關が存在し、兵士を指導し監督し、労働組合や工場とも連絡されてゐてブルジョア國家に於ける軍隊組織とは全く異つてゐる。赤軍の數は一九二〇年には五三〇萬人、二一年には一八〇萬人、二三年には六一萬人、二七年には五六萬人に減少してゐる。又、ロシア赤衛軍の創建についてはトロツキー、アントノフの貢獻が多かつた。

赤色インターナショナル (セキショク——)

赤色労働組合インターナショナルのこと。其項を見よ。

赤色組合 (セキショクタクミアイ)

赤色労働組合インターナショナルに加盟してゐる各國の革命的組合のことで、其の國の共産黨を支持し、その指導を受けてゐる労働組合。黄色組合に對立する階級的な組合。在來右翼組合に對して左翼勞

備組合又は職別的労働組合と稱して来たのも、赤色組合を意味して来たものではあつたが嚴密には區別しなければならぬ。

赤色労働組合インターナショナル(セキシヨクロード
一タミアイ)

プロヒンタンと略稱す。一九二一年七月コミンテルンの指導の下に各國の革命的労働組合及革命的反對派を以つてモスコに創立され、「赤色労働組合インターナショナル」の目的は、國際労働組合運動の凡ての革命的要素を合同し、國際聯盟の國際労働事務局及アムステルダムインターナショナルと決然たる闘争をすることである」と宣言し且つ階級闘争及プロレタリアXXの思想の宣傳並反革命思想に對する闘争の任務を決定してゐる。創立當時はロシア労働組合以外は各國の革命的反對派が加盟してゐるが一九二二年佛國のC・G・T・U(其項參照)の加盟を

始め、各國の革命的組合の加盟を得、一九二五年には加盟組合員数は九、八一八、五二九人と、他組合内に於ける革命的反對派が、二、五〇五、六〇〇人、及階級の事情から正式に職別的に加盟してゐないが其指導下にある組合員数は五三七、五〇〇人であつた。又赤色労働組合インターナショナルは一九二七年に太平洋労働組合會議を創設し、これを指導してゐると共に一九二八年には七時間労働制、労働條件の改善、産業の合理化に對する闘争、帝國主義戦争反對、ソビエツトロシアの防衛、植民地革命運動の支持等の十八條の行動綱領を採用し、現在の帝國主義第三期に於いては經濟的ストライキを激發指導すると共に、政治的ストライキを遂行する方針を採用してゐる。ロシアが創立當初からの指導者である。

赤色教授會(セキシヨクキニエンカイ)

「國際赤色教授會」の項を見よ。

赤色少年團(セキシヨクシヨネンダン)

「ピオネール」の項を見よ。

セクト主義(——シユギ)

「宗派主義」の項を見よ。

折衷主義(セツチニシユギ)

甲(正)に對立して乙(反)が現はれ兩者の對立闘争によつて丙(合)なる高き段階に統一し發展することなく、「正」「反」の兩者を併列し、共通的部分を彼處から一片此處から一片と集めて啖つけ合はせることを折衷主義といふ。マルクス主義的政治闘争と、改良主義的政治闘争とを混合するが如きは折衷主義である。従つて、折衷主義は日和見主義の一特徴である。日本では山川氏が折衷主義者と言はれてゐた。セツツルメント

社會改良運動としての貧民教育事業。社會事業家ブルジョア學者、大學生等によつて大都市の労働者

街に労働學校、食堂、圖書館、宿泊所、クラブ等を設け貧困者を一面では教育し生活の向上を促すと共に、他面では反抗と革命化を緩和しようとするのである。最近では多く社會民主主義者の協力の下になされてゐるが、起源は十九世紀後半ラスキン、モリスの労働大學を先驅として英國に於いてトインビー・ホール、オックスフォード・ハウス等澤山發達した。日本でも賀川豊彦の本所基督教産業青年會、柳島帝大セツツルメント、大阪四貫島セツツルメント等が現存してゐる。

セミ・プロレタリア

半プロレタリアのこと。極貧層等はプロレタリアではないが小ブルジョアでもなく、半プロレタリア化してゐるから斯く呼ぶ。

一九〇五年(センキニヒヤクゴネン)

ロシアの一九〇五年に於ける革命運動のこと。一

九〇五年日露戦争の負擔と窮乏に激したロシアの民衆がツアールの政府の倒壊を叫び、同年一月九日の日曜日にはベテルスブルグの十萬の労働者が、その家族と共にガボン僧正などに導かれ断頭すべく列伍を整えて冬宮に出かけた。ところがツアールの軍隊は急に之に發砲し三千名の老若男女を死傷せしめた。この事件は極度に労働民衆を憤激せしめ、全露にツアールを倒せとの革命運動が捲き起り、各地に反亂が起き、ボルセビイキはよくこれを指導したが、社會革命黨、立憲民主黨、メンセビイキ等の裏切りに依りて革命は敗北し、それ以後三月革命までロシアには極度の反動と白色テラーの暗黒政治が布かれたのである。

選挙法 (センキョホー)

現行衆議院議員選挙法は、大正十四年五月改正發布の所謂普通選挙法である。該法は原則として二十五歳

以上の男子に選挙権被選挙権を附與することを認められてゐるが、實際には、(一)候補者は二千圓の保證金を供託すること、(二)有権者は一年以上同一町村内に住居してゐる者、(三)被救恤者、浮浪人、軍人、兵卒、破産者、禁治産者、前科者等からは權利が剝奪されて制限が設けられてゐるのみならず、女子及青年から一切選挙権被選挙権を剝奪し、労働者農民を偽稱し抑壓するよう制限されてゐる。又今日工場労働者で選挙権を持つてゐる者は全體の約三十五パーセントにしか過ぎない。議會はブルジョアの機關であるが議會開會を利用する限り、吾々は男女十八歳以上に選挙権被選挙権を附與し、住居、保證金其他一切の制限の撤廢を要求しなければならぬ。

宣傳 (センデン)

一つの根本思想(例へば階級闘争及無産者獨裁論)及び一つの問題(例へば統一問題)等の意義を大衆

に説明し理解と共鳴を求め、基本的の行動を觀念的に把握することを宣傳といふ。宣傳と煽動とは異つてゐるが(其項参照)共に大衆闘争に缺くことの出来ないもので、宣傳は××的理論を多く雜誌、出版物、研究会等に依りて普及し、日常大衆を啓蒙し根本的理解を與えるもので、又組織活動の平常時の手段の一つである。(アジテーションの項参照)

宣傳と煽動 (センデンとセンドー)

宣傳煽動の相互關係及結合の條件に關すること柄で、普通次の場合がある。(一)宣傳と煽動が比較的離れてゐる場合、例へばマルクス・レーニン主義の原則の普及の如き啓蒙運動と個々の自然發生的ストライキの激發の場合の結合、(二)特定の大衆闘争、(ゼネ・スト、示威運動、選挙闘争等)の本質的意義を宣傳すると共に大衆を其の特定の闘争に動員するための煽動を行ふ場合の結合、(三)經濟的ストラ

イキ其他大衆闘争を煽動し、其の闘争の中に政治的スローガンを宣傳する場合の結合、(四)特定の大衆闘争が終了した後に其の意義、成功と失敗とを自己批判する場合の結合。普通宣傳は平常時の不斷の武器で一般的理論の普及が主で煽動は戦時の大衆動員の武器で具體的であり感情に訴へ一定の行動を捲き起さしめ、又、宣傳は煽動によつて闘争に動員された大衆を理論的及意識水準を高め、闘争の弾力性を強めしめ、この兩者は相互に結合し支持し合つてゐるが、プロレタリアの××的大衆闘争が激發してゐる状態では、寧ろ直接的に、同時に結合され、宣傳は煽動に領域を譲るに至る。又、經濟的ストライキに當つて職場に於ける労働者の不平不満を指摘して煽動し、他の工場や産業にもストライキを激發しその闘争の發展の度合に応じて××的政治的スローガンを持ちこみ、一の資本家に対する闘争を全資本

家及政府に對する闘争に發展せしむるが如き宣傳。
煽動の結合は、今日極めて重要な事柄である。(アジ、
プロの項参照)

戰術 (センジュツ)

タクテイクの譯。「戦術」の項を見よ。

戰略 (センリヤク)

ストラデキ一の譯。プロレタリアートの革命的理
論に基づいて當該國の政治的、經濟的客觀條件、階
級關係、國際的關係等を分析して來るべき革命に於
ける権力は何れの階級から何れの階級に移り、其の
革命は、(一)プロレタリア革命であるか、(二)ブル
ジョア民主主義革命であるか、(三)民族革命である
かを規定し、この革命を達成するにはプロレタリア
ートが主要攻撃の方向を何れに定め、如何なる階級
勢力を敵とし、如何なる層と勢力を同盟者とし、如
何なる組織及手段で闘争するか等を規定したもので

一定期間に亘つて適用さるべき全般的闘争方針であ
る。次に戰術は戰略の一部分であり、戰略に従て當
面の客觀狀勢の變化に對應して各瞬間の闘争を個々
具體的に戦ひ、戰略的目的を達成するために立てら
れる。従つて、戰術は揚言式の掛け引きとは異つ
て、××的目的によつて貫かれて居る各瞬間の闘争
方針である。戰略、戰術は不可分に結合してをり、
プロレタリアの××的行動の理論的表現であると共
にそれ自身科學的體系を具えたものである。

センセイション

感動、激動、憤激の意味。例へば市電の従業員が
ストライキを断行し全市の労働者に大センセイショ
ンを巻き起した等といふ。センセイションは利害の
同感に基づくもので、同一行動に出る第一歩である。

絕對地代 (ゼッタイチャイ)

土地を所有してゐるだけで何等の生産費用を支出

することなく取得する地代を絕對地代といふ。土地
の缺乏と自然的制限に基き、土地私有制の行はれる
社會の下にのみ存在する獨占的な搾取形式で、リカ
ルドのブルジョアの差額地代説に對立してゐる。

絕對賃銀 (ゼツタイチンギン)

「最低賃銀法」の項を見よ。

ゼネラル・ストライキ

總同盟罷工と譯す。一國の全産業或は又は一産業
一地方の労働者が同時にストライキを決行する事。
革命期には政治的ストライキが主であるが、平常時
は經濟的要求に基づく産業別又は地域的ストライキ
が行はれる。何れにしてもマルクス・レーニン主義
的政治闘争(黨及組合)の有力な手段であつて、政治
的、××的意義を持ち、階級闘争の尖鋭化した今日
では特に重要な闘争手段である。その理由は、(一)
トラスト、カルテル等によつて結合し統一した資本

に對抗するには労働者は一工場主を對手とせず、各
産業資本家全體を對手とし、全工場労働者が同時に
ストライキを決行しなければ労働條件の改善は不可
能になつた。(二)大資本家は完全に國家權力を掌握
し、労働者に對抗するに國家權力を以つて臨んで來
てゐるので、各産業の全労働者が全國的、地方的に
同時にストライキを起し、國家××と闘争せざるを
得なくなつた。特に革命期に於ては工場××産業×
×を行ふためと、プロレタリアの××を××するに
當つてそれを助成するための有力な武器として重要
である。尙政治闘争を否定したゼネ・ストはサンデ
イカリズムの主張でこれは結局敗北に終り階級的意
義を充分持たない。(ストライキの項参照)

ゼネ・スト

ゼネラルストライキの略稱。

前衛 (ゼンエイ)

前衛とはプロレタリア階級の頭部、即共産黨を指し個々には其の黨員を前衛といふ。その他通俗的には労働運動其他労働者、農民の闘争の先頭に立つて指導し一身を犠牲にして階級運動に忠實な革命的活動分子を廣く前衛と呼ぶこともあるが、正當には共産黨黨員に適用される言葉である。

ゼネレーシヨン

時代と譯す。ジャーナリスト等が用ふる言葉。

全國水産社 (ゼンコクスイヘイシャ)

「水産社」の項を見よ。

全國農民組合 (ゼンコクノミンクミアイ)

日本農民組合は昭和二年二月左右に分裂し、右翼は脱退して別に全日本農民組合を組織したが、この二組合は昭和三年五月二十七日再び大衆の要求によつて統一され、全國農民組合となつた。組合員数三二、六五九名、支部数一、〇九四個、聯合會は三十府

縣に存在し、そのうち千名以上の組合員を擁する聯合會は新潟、鳥取、兵庫、大阪、秋田、福岡、岡山、京都、奈良、北海道等であつて日本に於ける最も戰鬥的で且つ最大の貧農の組合である。又この組合は合同に際し「無産政黨の合同實現までは執れの無産政黨とも支持關係を結ばず、但し個人としては何れの政黨にも加入の自由を認める」と規定し、共産黨の被告も全國では百名から出し、現在では労働黨、大衆黨の黨員が伯仲してゐるが×××の支持者は廣範に存在し勢力をなしてゐると言ふ。

全國労働組合自由聯合會 (ゼンコクロードクミアイ ジューレンゴカイ)

大正十五年五月創立。アナキズム及サンジカリズムを奉ずる組合の聯合體で全國印刷工聯合會が中心勢力である。機關紙「自由聯合新聞」を發刊してゐる。

全日本鐵道從業員組合 (ゼンニホンテツドージユウギ ヨーインクミアイ)

鐵道現業委員後援會、鐵道現業員同盟が合同して大正十五年二月創立。國有鐵道の現業員を以つてする全國的單一組合で一時三千の組合員を擁し左翼的組合として發展して來たが政府の彈壓や改良主義者の裏切りによつて一時微力となつてゐる。併し最近再組織運動が着々と進められてゐる。

全日本農民組合 (ゼンニホンノミンクミアイ)

(一)歴史的には會て日本農民組合から分裂し、昭和三年に再び合同して全國農民組合となつて消滅した。 (二)現存するものでは、昭和三年平野一派の全日本農民組合同盟は新潟、山形等の地方右翼農民組合と合同して全日本農民組合と改稱するに至つた。右翼反動的組合で組合員は五萬とか十萬とか自稱するも實際の勢力は微弱である。

全日本無産青年同盟 (ゼンニホンムサンセイネンドーメイ)

大正十五年八月日本労働組合評議會、日本農民組合、労働農民黨及學生社會科學聯合會、全國水産社等の青年分子によつて組織され、全國に三十五の支部を擁し漸次共産青年同盟に接近した活動を續けて來たが、三・一五事件に百數十名の同盟員が檢舉され昭和三年四月十日、日本労働組合評議會、労働農民黨と共に解散を命ぜられた。

全國労働組合中央評議會 (ゼンロロドクミアイチ ユーオーヒョウギカイ)

A.R.C.T.Uと略稱す。ロシアの一九一七年革命當時労働組合はプロレタリア獨裁及ソビエツト政權樹立のために協力し、革命後は全労働者を組織化すると共に産業の管理統制に加り、現在では全露六百萬人の労働者は、一人残らず二十三個の全國的

産業別組合に組織され、それらの全国的統一組織がA・R・C・T・Uに統轄され地方には地方評議會が置かれてゐる。A・R・C・T・Uの大會は毎年一回開催され、中央執行委員會は大會で選出された五名の中央委員と二十三個の全国的産業別組合から五百人に付き一名の割で選出された代表を以つて構成し全産業の生産を統制し、労働人民委員會、最高經濟會議に代表委員を選出して参加してゐる。

全國労働組合同盟(ゼンコクロードクマイドメイ)

日本労働組合同盟(大衆黨系)と労働組合全國同盟(全國民衆黨系)とは昭和五年五月合同して、全國労働組合同盟を組織した。委員長大矢、幹部は加藤、望月、山口、山内、藤岡等で約六十五組合、二萬五六千人の組合員を抱擁してゐる中間派組合である。

(日本労働組合同盟、全國民衆黨の項を参照せよ)

全國民衆黨(ゼンコクミンシュート)

昭和四年總同盟の第二次分裂によつて、大阪聯合會は脱退し別に労働組合全國同盟を組織した。この分裂に伴つて、社會民衆黨の大阪聯合會も分裂し、大阪の田萬、大矢、山内、東京の宮崎、九州の一部等は社民黨から脱退し、全國民衆黨を組織した。しかし、昭和五年五月に労働組合全國同盟は合同同盟と合同し、これと前後して全國民衆黨、日本大衆黨、及地方無産政黨協議會(労働派)の三黨は合同を決議し、目下合同の準備中である。

全國邦共産黨(ゼンレンボーキョーサント)

「ロシア共産黨」の項を見よ。

[ソ]

ソヴェット

ブルジョアの議會政治に對立する労働者、農民の政治組織。ソヴェットは露語で代表者會議の意であるが労働(及兵士)の代表者會議によるプロレタリア獨裁を意味する。ソヴェットの中央常任委員會は人民委員會で、之を労働者農民のXXと呼び政治の最高形式である。ソヴェットの指導勢力は共産黨であつて組織的には労働者ソヴェットが中心で農民及兵士もソヴェットに形成され、全一體制をなしてゐる。全聯邦、各邦、地方、縣市町村等のソヴェットが存在し毎年一回大會を開催し行政的組織が上から下まで一貫してゐる。ソヴェット権力(労働者農民XX)の樹立は革命の直前であるがソヴェットの萌芽は職場會議、工代會議、農民委員會、ストライキ委員會等

生産點を基礎とする大衆闘争の中から形成され、所謂労働の各種協議會及それらの全国的集中組織である所謂労働者農民の同盟は、斯るソヴェットの實現に依て完成された形態を執るものである。(ソヴェット・ロシアの政治構成の項参照)

ソヴェット・ロシアの政治構成(——セイジョーセイ)

「社會主義ソヴェット共和國聯邦」の國家構成のこゝとで、ロシア、ウクライナ、白ロシア、コーカサス、ウズベキスタン、トルコメニスタンの六ソヴェット共和國を以て構成してゐる。ロシアは一九〇五年の革命に際しペトルブルグ・ソヴェットの樹立が最初でこれはストライキ委員會から發展した。一九一七年三月革命の際には臨時政府に對抗して労働者兵士のソヴェットがペトログラードに樹立され、モスコイ其他の都市及農村にソヴェットが組織され、六月には全露ソヴェット大會を開催し、十一月革命に際し

てはレーニンの「一切の權力をソビエツトへ」のスローガンに基づき同月七日には政權を掌握し勞農政府を樹立した。ソビエツトはプロレタリア革命の成功迄は工場、農村、軍隊、及町村を單位とする政權獲得の民主的、革命的闘争機關であつて、權力を掌握して、こゝに國家形態となつたのである。ソビエツト・ロシア政府を指導するものは共產黨であつて、現在ソビエツト組織は工場、村、市ソビエツトを單位とし郡、縣、共和國、全聯邦等の上級ソビエツトがあり滿十八歳以上の男女勞働者、貧農、陸海軍人に選舉權被選舉權が附與され、利潤や不勞所得による生活者舊ロシア政府の役人、僧侶、宗教家及破廉恥罪の者は公民權を剝奪されソビエツトに對する參政權が剝奪されてある。村ソビエツトは百人毎に一人の代表を選出し、三人以上五十人以下の代表を以つて構成され、村ソビエツトの地域的聯合體とし

て郷ソビエツトが存在し、郷ソビエツトは、村ソビエツトから三百人に一人の割で選出された代表者を以つて構成する。市ソビエツトは二百人に一人の割で選出された代表者を以つて構成し、郷ソビエツト大會は市ソビエツトから二百人に對して一人の割、郷ソビエツト(村の地域的聯合體)からは千人に付き一人の割で選出された代表者を以つて構成し、縣ソビエツト大會は、市ソビエツトから二千人に一人の割、郷ソビエツトから一萬人に一人の割で選出された代表者を以つて構成してゐる。共和國ソビエツト大會は、市ソビエツトから二萬五千人に對して一人の割、縣ソビエツト大會からは住民十二萬五千人に對して一人の割で選出された代表者を以て構成してゐる。全聯邦ソビエツト大會はソビエツト聯邦の最高の立法及行政の統制機關で毎年一回召集され大會で選出されたソビエツト中央執行委員會は次期大會

まで大會を代表する最高機關で内部は三七一名の聯邦會議と、聯邦加盟の各ソ・共和國から各五百名宛及自治洲から一名宛の割で選出された代表者を以て構成する民族會議とが存在する。中央執行委員會から選出された中央常任委員會は人民委員會(其項參照)を組織し、ソビエツト政府として行政(勞農監督)司法、軍事、勞働、財務、内外、商業、外務、交通郵便等行政の執行及命令の發布等を掌つて政治を行つてゐる。又地方、市、村等のソビエツトは全聯邦ソビエツト及各聯邦ソビエツトの統制の下に地方自治政治を掌るのであつて、夫れは保安、教育、財政、行政等を執行する。ソビエツトの構成上の特徴は都市勞働者に重點が置かれ、代表の比率が強められてゐて勞働者のヘゲモニーが充分確保されるようになつてゐることである。

總工會 (ソ・ソ・コ・カ)

支那の革命的勞働組合。廣東總工會、上海總工會を中心として全國で約百二十萬の組合員があり、中國共產黨の最大の支持勢力であり、プロヒンタルン及汎太平勞働組合の會議に参加し、支那革命のためには武器も執つて立つてゐる。

相互扶助論 (ソ・ソ・ゴ・フ・ジ・ヨ・ロ・ン)

生物(人間及動物)は共同生活に於て相互に扶助し合つて生活を安全にし容易にする本能をも持つてゐるもので、此相互扶助の本能を生物及社會進化の重要な要素と見、これからクロボトキン等は「人類は其の相互扶助の本能により、何等の權力、何等の法律なしに、個人的自由と秩序的生産との兩立する無政府社會を建設しうるものである」と空想するに至つた。この理論は自然界に於ける自然淘汰、生存競争等の事實を無視し、社會においては社會的生産力力の發達と階級分裂、階級闘争による飛躍的發展

(ツ)

の事實——社會の唯物辯證法的發展の法則を無視したものであつて膠論であることは明瞭である。

相続税 (ツーツクセイ)

財産所有者の死亡により其の所有を移轉するに當つて課す。現行相続税には家督相続、遺産相続の二種類あつて、前者は五千圓迄、後者は千圓迄を免稅點として夫れ／＼累進的に課税してゐるが何れも低率で、特に家督相続税に至つて家族制度を擁護するとの名目の下に極めて低率になつてゐる。これに對して労働者農民は高率累進課税を要求してゐる。

相對性原理 (ツードイセイゲンリ)

アインスタインの相對性理論。通俗に説明すれば一切の自然現象は運動してゐるものであり、運動の狀態を異にする觀測者は、他に對しては相對的に異つた運動法則を持つもので、從つて一般的に時間、空間の關係は相對的である、と主張するのである。

二〇四

例へば、一時間十哩走る汽車の中で直角に歩く場合と、五十哩走る汽車の中で同じく直角に同速度で歩く場合とは、同一時間内に異つた方向を示すといふのである。又同一速度で同一方向に走る二つの汽車は互に他の汽車に對しては距離は變化しないが、最初の出發點の地面に對しては常に變化し離れてゆくもので、狀態を異にすることによつて、他に對する關係は相對的に異なるのである。

相對地代 (ツードイチダイ)

差額地代ともいふ。「地代論」の項を見よ。

相對賃銀 (ツードイチゲンギン)

労働者が受ける賃銀の資本家の搾取する剩餘價値に對する比率を相對賃銀といふ。例へば賃銀は前と同じでも資本家の搾取率が合理化策等によつて二倍に増大するとすれば賃銀は相對的には低下したことになる。資本主義の發展は、労働者の相對的賃銀を

益々低下し劣悪化せしむる傾向を持つものである。

縮短 (ツードタン)

繰業(又は作業)縮短の略。資本制生産の常として生産過剩に陥り商品の市場価格は暴落する。資本家はこれに對して生産を制限し獨占價格を維持するために、作業時間を短縮し賃銀を低下し、或は一部機械の運轉を休止し、労働者を解雇等し、生産を制限する。これを繰短といふ。日本では昭和四、五年以來全繊維工業に亘つて大規模の繰短が行はれ、労働者の狀態は悪化し、ストライキは激發されつゝある。

葬式組合 (ツોンヤクミアイ)

會費だけ取つて何等資本家と闘争することなく會員の死亡婚嫁の際に組合費から一定の額を支給するに留まるような共済組合的な保主的労働組合を輕蔑して葬式組合といふ。

(ツ)

總同盟罷業 (ツードローメイヒギョー)

「ゼネラルストライキ」を見よ。

總聯合 (ツોレンゴ)

労働組合の總聯合の意味。現在の如く各種の労働組合が分立してゐる狀態に於て、戦線を統一し集中的力を以つて資本家階級と闘争するため、曾つて大正十一年十一月全國總聯合會議が開催されたが決裂し、大正十五年三月大阪組合會議によつて全國組合會議の提唱があつたが、總同盟其他の右翼派によつて決裂され、續いて昭和三年に再び全國組合會議の提唱がなされたが官憲の迫害と、右翼及中間派組合のサポートージュによつて挫折せしめられた。革命的組合は今日では全國的産業別労働組合の結成とその總聯合を目標にして進められ、各組合間の工場を單位とする下からの共同闘争の過程において、労働運動の戦線をX的に統一せんとし、右翼中間派の組

二〇五

党内にXの反対派を結成し、先づかゝる赤色組合の統一組織の實現に最大の努力をしてゐる。凡ての組合を統一し組合會議を全国的に組織し統一することとは何れの組合にとつても亦労働者階級の利益の點から言つて緊急の任務であるが、革命的労働組合の産業別的統一組織を實現し、それを中心勢力として總聯合を達成することは、更らに重要なことであるからである。

組織者 (ツシヤシヤ)

オルガナイザーの隊。大衆闘争を組織し、大衆を組織に獲得する人である。

ソリダリティ

「社會連帯説」を見よ。

採文主義 (ツンブシユギ)

「三民主義」を見よ。

俗學主義 (ソクガクシユギ)

マルクス主義を歪め通俗化し、革命的要素をぬき取る等は俗學主義である。

ソビエト・ロシアの教育 (——のキョーイク)

帝政ロシアの治下では人民の八十パーセントは文盲であつたのでソビエト政府は革命後文盲の退治と共産主義教育の實施に最大の努力を拂ひ漸次文盲を一掃しつゝある。現在のソビエトの教育方針は、「健康であり、強くあり、活動的であり、勇氣あり、思考にも行動にも獨立的であり、多方面の教養を有する個人、労働者階級の利益(結局全人類の利益)の爲めに有能な人間の發達を増進すること」即ち共産主義社會を建設するに足る成人及其の後継者たる小供の共産主義的教育である。現在教育機關としては、幼稚園、児童遊園(三歳から八歳迄)、統一労働學校(七年制の小學校で八歳から十五歳迄)、青年農民、工場、職業學校(十五歳から十九歳迄で職業教

育を主とする)高等技術學校、労働者豫備大學、共産黨大學、及研究所があり、各民族には其の國語で共産主義的教育を施す學校があり、軍隊の中には教育部があつて、共産黨員によつて教育が施されてゐる。其他、青少年教育にはピオネール(赤色少年團)コムソモール(共産青年同盟)が指導的に活動し、成人に對して共産黨が積極的に行つてゐる。託兒所夏期児童遊園、幼稚園、児童の家、児童コロニーを始め、成人の爲には文盲清算所、労働者農民の家、各種クラブ、常設及巡回の圖書館、遊新聞、ラヂオ新聞、博物館、美術展覽場、遊戯場、出版、赤色スポーツ等各種の社會的施設が共産主義教育のために用ひられてゐる。又、ソビエト・ロシアの教育はブルジョア教育と目的が根本的に異つてゐるのみならず教育方針其のものも異つてをり、児童に對しても、「如何なる研究方法に於いても生徒の勞作は彼等自

身の自然的社會的環境の觀察によつて始められるべきである」の方針に基いて、個人主義的な各科目のツメ込主義的教育方針を廢し、彼等自身が自發的にマルクス・レーニン主義的に事物を考察しようとする、集團的生産者の教育を施してゐる。職業學校、高等技術學校では、社會主義經濟の下に於ける有能な生産者として社會的勞働に従事し、これを一層高く發展せしむるための教育に重點を置き、大學、研究は共産主義の理論と實際を教育し、共産主義社會の建設者、指導者たるの能力を持ち、世界プロレタリアートのために貢献しようとする人を養成してゐる。ソビエト・ロシアの教育方面の指導者は、ルナチャルスキー、クルプスカヤ、シャツキー、ピストラツク、ブロンスキー等である。

(タ)

【タ】

憲法 (タイギョー)

「サボタージュ」を見よ。

大衆 (タイシニ)

マスの譯。労働大衆が基本的な大衆で、それに農民大衆、勤務者等一般被搾取被抑壓民衆を大衆といふ。しかし具體的には労働大衆、農民大衆といふように階級性を區別して用ひねばならぬ。一般的には共産黨はプロレタリアの前衛であつてこれに對して労働者全體を大衆といふ。又全労働者(及農民)のうち、黨及組合等に組織されてゐないものを未組織(労働者、農民)大衆といふ。(尙、特殊的には黨及組合の指導者——幹部——に對して平黨員組合員を大衆と言ふ場合もある。)何れにしても指導者(前衛)との關係に於いて指導される大多数のものを大衆とい

二〇八

ふ。大衆の特徴は、日常の經濟的利害問題に基づいて行動するもので、其のため目前の利害に扱はれ、階級的な目的意識をそれ自身では持ち得ないのが普通であるが、しかし大衆の生活が資本家地主とは全く利害を異にし、益々窮乏し自然發生的に闘争し革命化する必然性を持つて居ればこそ、指導者の意識的働きかけが可能であり、又最重要なのである。従つて大衆はX X X 義者の指導の下に屬してゐるか、或は社會民主主義者の下に支配されてゐるかによつて自己の利益を追求し、其の闘争力を發現する上に相異が出来るのである。

大衆闘争 (タイシニトロー)

黨及組合の指導の下に一定の計畫に基づいて闘争するストライキ、サボ、示威運動、工代、農代等大衆動員による一切の經濟的、政治的闘争を大衆闘争といふ。大衆闘争の特徴は、生産點を基礎とする集

團的闘争であつて、其の形態は多様であり當面の條件の如何によつて異つてゐるが、單に大衆の日常の利害に基づく自然的發生闘争ではなく、階級的全利益と使命の上に立つた闘争で、大衆闘争の舞臺において前衛と大衆とは緊密に結合される。

大右翼結成 (ダイウヨクケツセイ)

労働總同盟を中心に海員組合、官業労働總同盟などの改良主義及協同組合を結成し、赤色労働組合派に對抗しようとする反動的統一運動。最近の企は大正十五年總同盟大會に於ける「指導精神(社會民主主義)並に運動方法(改良的合法手段)に於て大體傾向を同じくする友誼團體とのみ結成」することを宣言し、當時の左翼組合たる統一同盟及評議會に對抗的に右翼結成を企て以來再三海員、官業、海軍労働等の間企てられたが未だ統一ある組織を實現するに至らない。今日僅かに反共産主義と愛國主義、

(タ)

國際労働會議への代表派遣及社會民衆黨への参加によつて提携してゐる。

タクティク

「戦術」の項を見よ。

立入禁止 (ダチイリキンシ)

地主が小作人から耕地を取上げるために先づ假處分を行ひ、小作人が耕地に立入つて耕作することを禁止することを立入禁止と言ひ立禁と略稱す。これは私有財産制度の現行法律によつて地主の土地所有權が絕對的に保證されてゐるので、地主は半封建的諸侯の如く專制的に搾取するため、小作争議を起したり小作料の値上げに應じない小作人に對し小作人の唯一の生命である耕地を取上げることが保證してゐる苛酷な法律制度によるものである。小作人は、これに對しては立禁反對、耕作權確立のスローガンを掲げて示威運動、農代、小作人大會等の大衆動員

二〇九

による政治的大衆闘争を行つてゐるが、更らに最近では一步前進して「土地を農民に與えよ」土地のX X Xを掲げて資本家地主の権力に對して闘争するようになつた。

立毛差押 (ダチケサシオサヘ)

小作人が小作料を不納(又は滞納)して地主と争つてゐる時、地主が、現行法律の保障によつて執達吏を耕地に差し向け、立毛(小作地の稻)を小作人が刈り取らないうちに差押えをすることを言ふ。立毛はまだ青いうちは土地の附屬物であるが實れば獨立の價値を有すとの地主に利益の法律的解釋によつて差押え、競買に附し、滞納小作料に充當するのである。こうして小作人は一ヶ年の收穫を全部地主に取上げられるのであつて、これに對し小作人は青田刈入、共同刈入、換價落等を大衆職員によつて行ひ對抗してゐる。

ダラヒ廻し (ダラヒマワシ)

警察は争議を起したとか、乃至は何等の理由なく勝手に左翼労働者を逮捕し、警察犯處罰令によつて二十九日以下の拘留に處し、更にこれを繼續し繰返すために他の警察署に連行して再び拘留に處すが、此警察から他の警察に廻されることをダラヒ廻しといふ。斯くて永くは三、四ヶ月ダラヒ廻しにあつて既にX Xした闘士は三、一五事件以來多數に及んでゐる。支配階級はこのダラヒ廻しによつて最も野蠻なる資本家地主的警察政治を行ひ、且つ労働者農民を敵として活動してゐることを示してゐる。

ダワリツシ

ロシア語で同志。

第一無産政黨 (タンイチムサンセイト)

「階級的單一共同戦線黨」の項を見よ。

軍記投票 (タンキトヒョ)

現行衆議員及府縣會市町村議員選舉法の如く一選挙區の定員數が何人であらうとも、投票人は一人の候補者名のみ記載し投票するのを軍記投票といふ。これに反し定員數全部を記載し投票するのを連記投票といふ。連記投票は貴族院の有價議員の互選に採用されてゐる。

單獨組合 (タンドククミアイ)

一地域、一工場、一資本系統のみの労働者が獨立的に組合を作り、全國的産業別組合又は聯合體(全國及地方的)に加盟してゐない組合を單獨組合といふ。自然發生的に生れた初歩の組織形態か左もなければ御用組合がこの種の組合である。

第一インターナショナル (ダイイチ)

一八六四年ロンドンに創立された「國際労働者同盟」を指していふ。英、獨、佛、白、西、伊等の歐洲の革命家及労働運動家を以つて組織され、一般的

ダラヒ廻し (ダラヒマワシ)

な革命運動と労働運動の國際的團結を標的とするに止まつてゐた。マルクスはドイツの幹事として一總務委員であり、理論的には同盟の指導者であつたが内部にはバクレーン一派、ブルードン派、ラツサーレ派等が加盟してゐる思想的及行動上の統一性が缺け一八六九年頃からマルクス・エンゲルス派とバクレーン派の對立が激化し、一九七一年にはパリ・コミューンを指導したが敗北し、翌七二年ハーグ大會に於てマルクス派とバクレーン派は分裂し、漸次衰滅に赴き、一八七六年費府で形式的に解散された。

第一インターナショナルの功績は、(一)マルクス主義が國際的に普及されたこと、(二)労働者階級の國際的團結とインターナショナルリズムが普及され第三インターナショナルとして復活された事等である。

第二インターナショナル (ダイニ)

一八八九年六月パリに創立された國際社會黨は

歐洲大戦に裏切つて中絶し、一九二〇年七月ジュネーヴに於て再建され一九二三年國際社會主義労働者同盟と改稱し現在に至つてゐる。この兩者を指して第二インターナショナルと呼ぶ。一八八九年巴里の創立大會には二十餘ヶ國、三百八十名の代表者が参加し、一九〇〇年には、(一)ストライキに對する相互物質的の國際的提携と應援、(二)議會行動の連絡、労働立法の國際的促進、(三)戦争反對運動と其協力等を決議し、國際社會黨事務局を持ち、相互の連絡事務、及情報交換等を行ひ、マルクス主義的立場から萬國の労働者運動を指導し、一九〇七年のストックホルム大會(其項参照)では戦争反對の決議を行つた。併し、幹部の日和見主義化と裏切によつて漸く左右の對立が内部に激成し、歐洲大戦と共に幹部派は各國ともに愛國主義者となり戦争に参加し、茲に第二インターナショナルは一應崩れて仕舞つた。

レーニンはこの時を以つて第二インターナショナルは崩壊(死滅)したといつてゐる。戦後一九一九年二月レーニン等によつて第三インターナショナルが創立されるや、これら社會民主主義の裏切共は、一九二〇年七月ジュネーブに英國労働黨、獨逸社會民主黨、フランス社會黨等を中心とし二十七ヶ國の代表が大會を開き新綱領及規約を制定し復活した。後一九二三年五月第二インターナショナルの合同加盟によつて名稱を、「國際社會主義労働者同盟」と變更し、今日に至つてゐる。第二インターナショナルはプロレタリア獨裁に反對し、合法主義と改良主義を唱えて革命運動に反對し、國際労働會議を支持し排外社會主義を唱えて帝國主義戦争を支持し、産業民主主義を唱えて資本の合理化策に協力し、以て労働者階級の利益を裏切り第三インターナショナルに敵對してゐる者で無産階級の最惡の敵である。現在

其の勢力は、歐米三十四ヶ國に亘る四十五政黨、黨員的六、二九〇、三〇四名、外に社會主義青年労働者インターナショナル加盟の二十三ヶ國三十三團體、二四五、二〇〇名、及阿姆斯特ダム黄色労働組合インターナショナルの支持労働團體を保有してゐる。月刊機關誌「國際労働運動」が發刊されてゐる。

第二インターナショナル (ダイニハン)

一九二一年ウイーンに於て創立(ウイーンインターナショナルとも稱す)され、當時加盟團體は、獨逸の獨立社會黨、英國の獨立労働黨、オースタリー社會黨、フランスのロンゲール派等を以つて組織し、「國際社會黨行動同盟」と名命され、其の立場は第三と第二の中間の意味から第二半又は桃色インターナショナル等と呼ばれて來た。一九二二年以後内部に左右兩派の對立が激成し左翼は第三に加盟し、右翼は一九二三年五月第二インターナショナルに加盟して

このインターナショナルは消滅した。

第三インターナショナル (ダイサン)

正式の名は、コンミンニスト・インターナショナル(國際共產黨)で、コミンタール(コミンテルン獨語)と略稱されてゐる。ロシア共產黨の提唱によつて一九一九年三月モスコに創立され現在に至る。これより幾歐洲戦争中、第二インターナショナルの幹部派が社會排外主義に變節し戦争に参加し労働階級を裏切り、第二インターナショナルが死滅するや其の革命派は一九一五年五月チンメルワルドに會合し、翌年四月キエントールに第二回會議を経て、レーニン主義による國際的團結と新インターナショナルの創立に漸次賛成し、一九一七年九月ストウクホルムに於ける少數派の大會は、第三インターナショナルの臨時組織を決議した。次いで同年十一月ロシアにプロレタリア革命が成功し、續いて獨逸、オースタリ

一、ハンガリア、イタリー等歐洲にプロレタリア革命の氣運が切迫し、かゝる状態の下に一九一九年三月モスコに於いて第三インターナショナルの創立大會を擧げたのである。創立大會に於ては、國際聯盟及第二インターナショナルの排撃と、プロレタリア獨裁、革命的大衆闘争の手段等を強調した宣言、(これを新共産黨宣言といふ——参照せよ)翌二〇年七月第二回大會は規約、加入條件、テーゼ(戰略及戰術)等を發表し、こゝに理論的にも組織的にも統一性とヘゲモニーを確保し其の基礎を確保した。それ以後加盟各國の黨は共産黨と稱し、一國一黨主義の下に第三インターナショナルの一支部とされ、國際的な規準あり統一ある革命的大衆的勞働者黨として全世界の勞働階級の頭部であり總本部となつたのである。創立以來一九二〇年、二一年、二二年、二四年、二八年と既に六回大會を重ね、革命的勞働運

動の發展改良主義及社會民主主義に對する闘争、白色テロルに對する闘争、モツブル運動、ソビエツトロシアの防衛、帝國主義戰爭の危期に對する闘争、植民地及半植民地革命運動等を指導し、一九二九年以後は、帝國主義第三期の世界革命の準備時代として右翼的偏向を一掃し(清黨の項参照)觀急的にも組織的にもコミンテルン、及各國共産黨のボルセグイキ化を斷行し來るべき戰爭と革命に準備しつゝある。現在加盟各國支部數は六十ヶ國支部で全世界に行き互り、黨員約、二百餘萬人に達し、ロシア共産黨が最も強力で獨逸共産黨は資本主義國に於ける世界最大の黨でありフランス、チエツコスロバキア、オースタリー、英國等に強力な支部が存し、支那、印度、朝鮮、日本の東洋諸國及アメリカ等にも夫々支部が存在してゐる。更らに第三インターナショナルは、共産青年同盟インターナショナル、赤色勞働

組合インターナショナルを直接指導し、其他反帝國主義國際同盟、赤色農民インターナショナル、國際モツブル等を指導し、全世界の勞働者、農民、被抑壓民の解放のため世界革命の先頭に立てゐる。

第四インターナショナル (ダイレ——)

佛國、和蘭、米國等のサンディカリストを以つて一九二一年柏林に創立大會を擧げた、サンデカリスト・インターナショナルを第四インタと呼ぶ。一九二一年赤色勞働組合インターナショナルに出席したが、共産黨の統制に反對して脱退し、政治運動とプロレタリア獨裁に反對してゐるもので殆んど勢力は無い。又第四インターナショナルはこの外共産黨から小兒病として除名された一派(英國のペンターハスト派、獨逸の共産勞働黨等)の國際的提携を指す場合もある。第四インターナショナルは革命的首辭を弄し乍ら實際はプロレタリア運動を阻害してゐる

サンデカリスト及共産主義左翼小兒病の反革命的な國際的團結であるが何れも無力である。

大體事件 (ダイギャクジケン)

「幸徳事件」を見よ。

ダダイズム

世界大戰中(一九一六年)スイスのチュニリツヒに集まつた七人の藝術家の團から叫ばれた利那的絶望的な小ブルジョア藝術運動である。ブルジョア社會に不満と矛盾を感じながらも、中間層の無力のために、自棄と、亂舞と、虚無とを以つて、無意味な言葉で詩を書き、畫布に木布や紙切れを貼つて畫とし、履音のうちに希望も一定行動もなく其の日暮しをやつてゐる詩人、畫家、音樂家等がこれで、斷末魔の社會の呻きの一つである。

ダラ幹 (ダラカン)

墮落幹部の略稱。(一)思想的に墮落しマルクス。

レーニン主義を至曲し、或は裏切つて社会民主主義、社会愛國主義を唱へ支配階級の味方となつてプロレタリア階級の利益を裏切るに至つた黨及組合の幹部
(二)労働プロカーとして争議を資本家に賣り私腹を肥してゐる組合幹部。

■ 結核 (ダンケツケン)

労働者農民が組合を組織し之に加入し闘争することにつき無制限且つ自由の権利を獲得すること。労働者農民は力を以つて資本家地主から獲得すべきであり、同様に力を以つてブルジョア國家をして法律的(組合法)に承認さすべきもので、資本家地主及政府のお慈悲によつて與えらるべきものでも又貰ふべきでもない。團結には必然に罷業權が確保されねば實際上、戦闘力が無いも同様で、團結權、罷業權の確立は労働者、農民の肝要のことである。

■ 團體協約 (ダンタイキョウヤク)

團體契約ともいふ。賃銀、労働時間其他労働條件を労働組合又は労働者の常設的團體(工場委員會等)によつて資本家と契約し、個々の労働者が個々に雇主と取引せず、團體が雇主又は企業家團と交渉し協定することをいふ。英、獨、米では労働組合法乃至は團體協約法によつてこの権利を承認させてゐるが、日本ではまだ、團結權と共に團體協約權も保障せしむるに至つてゐない。

■ 團體交渉權 (ダンタイキョウケン)

團體協約の權利を團體交渉權と言ひ、労働契約のみならず、ストライキの要求及解決、其他對資本家關係の交渉は個人々に依らず労働者の團體を以つてする權利である。日本ではまた法律的に權利を保證せしめてゐないが、労働組合は力を以つて個々の資本家に認めしめてゐる。

ダンピング

カルテル・トラストの發達に伴つて、帝國主義大資本家が、国内では商品を買占價格に依つて高價に賣り莫大な利潤を収奪し、其餘利潤を以つて外國の資本家に對し競争し新市場を獲得するために、原價以下の投資の値段を以つて商品を買占外國に輸出することをダンピングと言ふ。

■ タツス通信社 (ツーレンシヤ)

ソビエツト・聯邦國營の國際的通信機關。ソビエツト聯邦は産業、政治、労働、軍事、思想、外交等のニュース、通信等を「タツス」によつて統一し政府直屬の事業としてゐる。各國に支局を設け、東京にも支局がある。一九二五年までは「ロスタ」と呼んだが、全聯邦と改稱して「タツス」と改めた。

■ 農業經營 (ダンタイノイギョウケイエイ)

ソビエツト・聯邦の共産主義的集團農業經營のこと。經濟五ヶ年計劃に基いてトラクターの採用によ

つて農業を集團的に經營し、クラーク及小農を驅逐し、一九三〇年三月には全農家数の五十パーセントは共産主義的團體經營に移し、協同組合化した農化を加ふれば八十五パーセント(二千三百五十萬戸)の成績を擧げてゐる。

■ 大日本地主協會 (ダイニホンヂヌシキョウカイ)

大正十四年秋大阪で創立された地主の團體。大阪府下の「北河内郡地主會」から發祥し、今日では全國的に結合し小作争議對策、小作料の協定、小作地の取上げ、暴力團の雇入等を行つて、小作人の闘争に對抗してゐる。

【チ】

治安維持法 (チアンイジホー)

大正十四年四月、第五十議會に於て普通法の制定と共に制定され同年五月十二日より實施され、昭和三年六月十九日緊急勅令を以つて死刑法に改められ第五十六議會に於て事後承認を得て、現に、勞働者農民彈壓の最悪法として存在してゐる。改悪前の法律は全文七ヶ條より成り國體の變革、又は私有財産制の否認を目的とする結社、協議、煽動及金品の贈與を處罰し、最高懲役十年の嚴罰が規定されてゐたが、三・一五事件以後緊急勅令として、結社を組織した者は死刑、指導者は五年以上死刑迄、其他結社加入、目的達成は二年以上の有期懲役の嚴罰に處せられ、在來の煽動、協議等は目的達成の項に包含され結社、加入のみならず一切の共產主義的活動を禁

歴し、文字通りの白色テロルの政治を實現した。斯る暴法は世界に比類のないことで、如何に日本の支配階級が死物狂になつて勞農大衆に敵對してゐるかを示してゐるもので、勞働者農民は治安維持法の即時撤廢を要求して戦つてゐる。

治安警察法 (チアンケイサツホー)

明治三十三年に發布され大正十年に婦人の政治的集會禁止の項を削除し、大正十五年に第十七條(罷業及團結の禁止の項)を削除したが、これによつて結社集會の解散、拘留、檢束及辯士の中止は官憲の意の儘に行はれ、且つ婦人、青少年、軍屬、兵卒等の政黨加入の自由は禁壓されてゐるのである。治警法は治安維持法と共に勞働者農民の言論集會行動の自由を制奪する暴壓法であつて、これによつて支配階級は勞働運動をやつたとの理由だけで檢束、拘留、タラヒ廻し、XX等を加えられ、白色テロルの政治

を思ふまゝやつてゐるのである。

治外法權 (チガイホーケン)

外國の領土内に在り乍ら其國の統治に服さなくともよい權利。(一)國家が外國に土地其他國有財産を有し又は外國の一定地域を租借したる場合、(二)君主及大統領及其家族、從者、(三)大公使及其の館員並に家族、從者、(四)軍艦及駐屯軍、(五)領事等は治外法權を有する事になつてゐる。更らに不平等條約による領事裁判も治外法權の一種で、現に支那に於いては列強の外國人は治外法權を持つてゐる。即ち治外法權は各帝國主義國の侵略政策の保證に過ぎない。

地下運動 (チカウンドー)

アンダーグラウンド・ムーブメントの譯。秘密運動のこと。「合法、非合法」の項を見よ。

地區委員會 (チタイインカイ)

組合等が一定の地域の各工場分會等の活動を敏活ならしめ、且つ本部(全國的組織では地方支部)の統制を充分ならしめる爲に組織する地域的行動委員會のこと。委員會は本部(又は支部)のオルガナイザ―と分會の責任者とを以つて構成し、オルガナイザ―の統制の下にあるのが普通で、在來の地域支部とは異つてゐる。地域支部は地方分權的組織の殘存であるか、又は地方的組合の組織であつて全國的産業別組合等では、地區委員會でなければならぬ。即ち本部と工場に組織と活動の重點が置かれねばならぬからである。

智識階級 (チシキカイキユー)

「インテリゲンチヤ」の項を見よ。

地租變遷 (チソイジヨウ)

地租とは田、野、山林、住宅、其他商工、礦業に充當する土地の私有から得る収益に對する課税で、

(チ)

これは國稅で國庫の收入として營業稅と共に國家の
二大財源となつてゐる。地租委譲とはこれを地方稅
として地方自治體の財源に充當し、土地所有者の租
稅を輕減し地方民の租稅負擔を減じようといふ主要
で、政友會の多年の政策である。政友會は第五十一
議會に之を政策に掲げ田中内閣は昭和二年實行を企
て第五十六議會に提案したが實行困難を以つて審議
未了で否決された。農民の疲弊は資本主義の必然の
現象であり、地租委譲を以つて解決し得ないと共に
他方其の結果都市ブルジョアジの營業稅をも委譲
しなくてはならなくなり、兩稅委譲の結果は、國家
の財源を新に、勞働者農民の負擔に轉化することゝ
なつて、勞農大衆の反抗を激成せしめずには置か
ない。

地代論 (チダイロン)

地代とはブルジョアの生産に於ける土地使用料で

二二〇

ある。地代論とはこの地代の性質及發生に關する學
說である。地代論には、(一)リカルドの相對地代(差
額、又は差益地代ともいふ)論とマルクス等の絕對
地代論が代表的である。リカルドの相對地代論とは
土地には効用の程度に差があり、人口の増加等によ
つて劣等地が使用されるに至るや、優等地は劣等地
の使用に比して多く利益を齎らせられ、この利益が
地代として優等地の所有者に支拂はれる。而してこ
の効用の差は、(一)地味、(二)地勢、氣候、位置、
(三)收穫遞減の法則(其項を見よ)の作用等の程度
の差によるもので、土地使用のために必要な諸費用
と土地使用から得る利益とが相等しい狀態を限界地
代と呼び、それ以上が地代となるといふにある。即
ち「地代とは土地に固有する不滅の力に拂はれる代
價で、土地の全生産物の價格から全生産費を差引い
た部分である」と言ふのがリカルドの說である。リ

カルドの說は最劣惡の土地は無限に存し何人も無代
で使用しうるとの前提に立つもので、かゝる前提は
資本主義社會には存在しないことは明かである。マ
ルクスの絕對地代論は、彼の「資本の構成と平均利
潤率」から出發し、資本家的農業經營は資本の構成
は低く、不變資本に對し相對的に可變資本部分が大
で、従つて他の工業生産に於けるよりも利潤率は大
である。例へば工業の平均利潤が十%とすれば農業
經營は二十%とする。さうなれば資本は利潤率の大
な農業に流入し利潤率が平均化されねばならぬ。と
ころが農業は、土地に一定の自然的制限があり且つ
土地私有制によつて獨占化せられてゐる。こゝに於
いて、工業の平均利潤率以上の農業利潤(即ち工業に
比し十%だけ多い部分)が地代として土地所有者に
收奪されて利潤率は平均化されるのである。この地
代を絕對地代といふ。故に、絕對地代は、土地の私

(チ)

有制と獨占によつて生じたもので何等の生産費をも
支出することなくして得た收益で、最劣惡の土地の
所有者に對しても絕對地代は支拂はれるのである。
又この絕對地代を基礎とし其の上土地の効用の差に
よつて農業經營の範圍内から差額地代が生じ、當
該十階級が現實の地代となるといふのがマル
クスの地代論である。

尙、日本の小作料は以上の如き資本主義的地代で
はなく、日本の農業は未だ資本主義的に經營され
てゐないし、小作料は封建的農奴制の殘存にして農民
の剩餘生産物を全部又はそれ以上に土地占有者が收
奪してゐるものである。農奴と異なる點は、土地占
有の形式が資本主義的私有財産制の上に行はれ、従
つて土地の貸借契約によつて封建的搾取が行はれ、
農奴は「自由なる」小作人となつた事である。

地方論 (チホーセイ)

二二二

(チ)

府縣、市町村等地方自治體の徵集する租税を言ふ。大別すれば各種附加税、戸數割税、特別税等。

チムメルワルド會議 (——カイギ)

一九一五年九月獨逸、露、伊、波、ル、勃、瑞、諸國、スイス等十三ヶ國の各國社會民主黨左翼及勞働組合の革命的代表はスイスのチムメルワルドに大會を開き、戰爭反對——民族自決と無賠償無併合による即時平和の實現、プロレタリアの國際的統一戰線の再建及プロレタリアの革命的任務を宣言し、大戰に依て死滅した第二インターナショナルの裏切幹部に對抗した。この會議はヤガて、第三インターナショナルの創立への最初の一步を踏み出したもので、會議には、レーニン、ジノヴィエフ、ラヂウク等が出席し、又、其れ以後この派をチムメルワルド派と呼ぶに至つた。チムメルワルド派は翌年四月キエントールに第二回大會を開き、十七年のストワクホルム

二二三

會議ではレーニンの提議を承認し、第三インターナショナルの即時創立を決議し、一九一九年第三インターナショナルの創立となつたのである。(第三インターナショナルの項参照)

チムメルワルド派 (——ハ)

「チムメルワルド會議」を見よ。

チャーチスト運動 (——ウインドー)

チャーチストは憲章黨と譯され、英國の勞働階級が社會的、政治的地歩を改良する爲に、一八三八年から四八年頃迄に起した選舉權獲得の大衆運動である。當時英國の勞働階級は産業革命の結果機械工業に壓迫され失業者の激増と生活の窮乏に呻吟し、他方農村は疲弊してゐたのでかゝる状態から脱出するために憲法を改正しプロレタリアが議會に参加し、失業、飢饉、抑壓から脱せねばならぬと普通選舉權獲得の運動を起し、人民憲章(普通選舉權、無記名

投票、候補者の財産資格撤廃、選挙區の人口平等、

年次議會召集、議員の歳費給與)の通過を計つた。

こゝから憲章黨(チャーチスト)の名稱が生れたのである。人民憲章獲得の第一次運動は一八三九年に百二十萬人の勞働大衆の署名を得て議會請願運動を起し二十萬、三十萬の大示威運動が行れたが議會は否決し、ために織籠工、暴動、流血の事件が起きチャーチストの主領達は逮捕投獄された。第二次は一八四二年五月、三百三十一萬人の署名を得て大衆的請願運動を起し、議會に請願書を提出したが再び否決され、暴動とストライキが北部地方一帯に捲き起きた。第三次の運動はフランス革命に刺戟を受け、一八四八年に二百萬人の署名と五十萬人の大衆的示威運動を起し、議會では否決されたが、これらの運動が影響を與え、ヤガて穀物條件の廢止、選挙法の改正が實現されたのである。

(チ)

チャーチズム

チャーチスト運動の思想をいふ。勞働階級の組合

主義的政治運動で、結局議會主義と改良政策である。

中央委員會 (チユーオーイインカイ)

勞働團體の最高機關は大會で、次期大會に至る迄の大會に代るべき最高機關が之である。大會で選出され、決議事項は次期大會に責任を負ふものとす。

中央執行委員會 (チユーオーシツコイインカイ)

中央委員會の互選で選出され、大會及中央委員會で決定された事務を執行する。又執行委員會はその下に各専門部を置きこれを統率し團體を實際に運用するもので通俗的に常任委員會又は最高幹部會とも言ふ。

中央黨權主義 (チユーオーシユエケンシユギ)

中央黨權とは元來政治組織上の言葉で、地方分權(封建的社會の政治組織の特徴)に對立するもので、

二二三

國家の權力を中央に集中することである。中央集權は經濟の集中的組織の上に成立し、現在の日本の如く一切の立法、司法、財政、教育等の政治組織は中央政府に集中され市町村等の地方自治體は地方財政に對し發言權を有するのみであつて、これらは中央集權の典型的なものでかゝる主張を中央集權主義といふ。次にこれから労働團體の組織等が地方的團體の聯合體でなく、全國的團體として地方支部を持ち一切の方針、行動等が統一的に集中的に行はれるものを中央集權的組織といふ。之も地方分權的組織に對立するもので其特徴は、(一)資本と其の權力の集中に對してはプロレタリアの組織と闘争も集中的でなければならぬ、(二)地方的狭い利害に捉はれず階級的利益を最も代表し、廣範に結合し最大に闘争力を發揮することが出来る點等である。

中央派 (チヌーオーハ)

セントリストの譯。所謂左右兩翼の中間にあつて兩方に對抗してゐるが、決定的瞬間には右翼と共同し革命派に敵對するものである。第二半インターナショナルは曾つてこの典型的なものであつた。現在では多少概念も異なり社會民主主義の陣營の中央派といふように極限して用ひられるに至り、社會民主主義左翼も中央派も右翼と本質は同じであつて、プロレタリアの敵である。

中間派 (チヌーカンハ)

中央派と同じ。日本に於て歴史的には、昭和二年前後頃、労働組合評議會の左翼と、労働總同盟の右翼の中間にあつた組合同盟(及日本労働黨)等を中間派と言ひ、今一つは當時雜誌「大衆」一派の中間派左翼結合の主張をも中間派と呼んだ。この二つは表面は多少異つてゐるが、本質は中間派であり、社會民主主義である。

中間階級 (チヌーカンカイキユー)

小ブルジョア層のこと。其の項を見よ。

中産階級 (チヌーサンカイキユー)

ミツドル・クラスの譯。新興ブルジョアジの意味であつたが大資本の勃興と共に、現在ではブルジョア階級の下層及小ブルジョア層の上層を指すようになつた。

抽象 (チヌーショ)

ブルジョア概念による抽象は、種々な個々の對象物から共通してゐる要素を抜き抜いて來て、觀念上の一般的概念を構成すること。例へば人間は愛と言ふ性質は共通であるから相互扶助の政治經濟社會を作らねばならぬとか、又は人々は自由を求めると言ふ性質を持つから自由競争及民主主義の經濟的、政治的社會を組織すべきであると、主張するが如きである。従つて、具體的でなく觀念的、當爲的である。

抽象的 (チヌーショテキ)

ブルジョアの意味の抽象的のこと。觀念的、當爲的であつて現實的でない。(抽象の項を見よ)

直接行動 (チヨクセツコード)

元來はサンデイカリズムのストライキ、工場占領を革命運動の直接行動と自から呼び、政治運動(當時の議會主義的)を間接行動として否定して來たのに始まる(サンデカリズムの項を見よ)しかし、今日では、サンデカリズムの凋落と共に、プロレタリア及貧農の政治的經濟的一切の革命的行動——例へ

ばストライキ、暴動、XX破壊、工場占領、XX及XXの襲撃、プロレタリア権力のXX等を通俗的に直接行動といふように用ひられることもある。

直接税 (チヨクセツゼイ)

消費、専賣税等の間接税 (其項参照) に對し地租所得税、營業税、相続税、取引所税、釀業税等納税者が直接負擔する租税を言ふ。併し直接税も亦、資本案・地主が搾取した所得の一部分を自己の政治のために支出するのであるから、眞實の負擔者は勞働者農民である。

調停法 (チヨウテイホフ)

(一) 勞働爭議調停法。大正十五年四月 (法律五七號) 及同六月勅令一九六號によつて制定實施されてゐる。交通運輸、通信、水道電氣瓦斯事業、陸海軍の兵器造船及修理事業の勞働爭議は、行政官廳が必要と認めたとときは強制調停し、調停委員會を開設し

審理決定する。

(二) 小作爭議調停法。大正十三年七月制定實施。小作爭議所在の地方裁判所は小作爭議關係の當時者の申立てにより、調停の必要ありと認められた時は調停委員會 (調停主任判事一名、其他二名任命) を開設し、この調停の結果が裁判所の認可決定を得たるときは、裁判上の和解と同様強制力を持つ。

(三) 借地借家爭議調停法。大正十年發布、同十三年改訂されて施行されてゐる。借地借家爭議關係當事者の申立てにより裁判所は調停委員會を開き、また訴訟が棄却する場合は裁判所は職權を以つて調停に附す。調停の効力は判決と同様強制力を持つこと小作爭議調停法と同じ。

これらの調停法は勞働者のストライキ、農民の小作爭議を抑壓し破壊するもので、勞働者の團結權、罷業權、農民の團結權、耕作權、借家人の住居權を

剝奪することを合法化し、在來資本案、地主、家主が勞働者、農民、借家人の反抗に對抗して來たのを裁判所が代つてXXXXXXX干渉することになつたのである。これに對して勞働大衆は斯る調停法の即時撤廢を要求してゐる。

第二インターナショナルが最近力説した主張

で、資本帝國主義は益々内的矛盾を激化し崩壞の運命にあるのではなく、逆に帝國主義は發展と共に内部的矛盾を緩和し、帝國主義國家間の相互の衝突と戰爭を避け、且つ勞働階級の勢力の増大と共に帝國主義戰爭の危険は避け得られ、帝國主義國家は未だ長い間平和的ヨリ高度な發展を遂げられると説いて各國の帝國主義者及國際聯盟を喜ばせてゐる。しかしこれは勞働階級の革命的闘争に對する裏切の理論であつて、且つ現實の事實でもないことは最近の

帝國主義の内部的矛盾の激化及各國間の對立の激化と戰爭の切迫の事實が立證するところである。

賃銀 (チンギン)

賃銀は資本制生産を前提とする資本による勞働の搾取と支配制度で、勞働者が雇主から自分の勞働力の價格として取る金を、賃銀といふ。勞働者は雇傭契約によつて一日何程と一定の額で豫め賣買を契約して勞働し、勞働をした後で即ち日末、週末、月末等に資本案に前貸した勞働力の價格を受取るのである。賃銀の標準は勞働力の價値の大小、即勞働力の再生産に社會的に必要な生活資料の價値の大小に懸つてゐる。しかし他商品と同様に、勞働力の價格は(一)生産諸力の發展と資本の蓄積の状態、(二)物價の高低の状態、(三)失業者の増大の度合、(四)個々勞働者の生産能力の相異、(五)勞働者の闘争力の強弱等によつてつねに變動するものである。更らに賃

銀は其の素材の如何によつて現物(自然)貨銀と貨幣貨銀とがあるが一般的には貨幣貨銀である。又支拂の形態によつて、(一)日給制貨銀と請負(出来高)貨銀及これを併用した二重貨銀制とがあるが日給制貨銀制が近代的で請負貨銀制は半封建的である。次に貨銀の實在的内容から、(一)名目貨銀、(二)實質貨銀、(三)絶對的貨銀、(四)相對的貨銀の區別が存し、相對的貨銀によつてはじめて資本と労働の關係——即ち搾取の状態をハッキリ知ることが出来る。

(各項については夫々の項を参照せよ)

賃銀基金説 (チンギンキケンセツ)

一定の時代、一定の國に於ける資本額は一定して居り、賃銀に向けられる部分は一定してゐると説く主張である。即ち賃銀に割當てられる一定の資本額が先づ存在し、全國の労働者總數でこれを割つたものが個々の労働者の受取る賃銀であつて、高率の賃

銀を取る熟練工があれば低賃銀の不熟練工が存在し又人口は増殖するが賃銀に當てられる資本額は一定してゐるから労働者の數を減少するか若くば一般の賃銀を低下しなければならぬと主張するもので、英國のデニームス・ミルが代表的論者である。併し現實には、可變資本部分は、(一)生産力の發展及資本の投資の状態、(二)労働市場の需要供給の關係、(三)労働運動の強弱等によつて常に變動するものであつて、労働基金説はラツサーレの賃銀鐵則及マルサスの人口論と共に、労働者の貧困と失業の原因を人口過剰に求めたものでブルジョアの御用經濟學の一つである。

賃銀制度 (チンギンセイド)

「資本」の項及「資本主義」の項を見よ。

賃銀鐵則 (チンギンテツク)

リカルドの賃銀説に基づいて測定のラツサーレが

賃銀奴隷 (チンギンドレイ)

賃銀労働者のこと。封建的奴隷は人身を賣買され所有者の下に驅使され搾取され支配されてゐたが、近代的奴隷は、資本主義の賃銀制度の下に、労働力賣買の契約の「自由」に依て資本家に雇はれ、搾取され支配されてゐる「賃銀奴隷」である。彼は法律上人として自由に甲の資本家に雇はれることを廢してもよい事に——即ち人格を保證されてゐるが併し何れかの資本家に雇はれなければ餓死し、従つて労働者全體は資本家全體の奴隷である。又、労働者を賃銀奴隷から解放する事、資本家を無くし賃銀制度を撤廢し、資本主義社會を××する事を意味するものである。

賃仕事 (チンシゴト)

手工業及家内労働のこと。其項を見よ。

チユラ同盟 (チドーマイ)

唱導した理論で、賃銀は労働者が單に生存しうるだけのもので、他の商品と同様市場の需要供給の關係によつて決定され、常に一定の法則に支配されると説く。即ち労働人口が過剰になれば賃銀は低下し労働階級は營養不良と結婚難に陥り、労働人口は爲めに減少し、而して労働人口が減少すれば賃銀は再び高くなつて労働者の結婚及増殖率は増大し、再び賃銀は低下し、又労働者が闘争によつて賃銀を高めても労働人口の過剰によつて賃銀は低下し労働者はかかる鐵則によつて常に支配されるもので、これから脱出するには、生産組合以外にないと説いたのである。此のラツサーレの説はブルジョアのゴマ化し論であつて、賃銀の決定條件は生産階級及階級闘争の發展の諸條件であり、賃銀制度からの解放は資本主義の××、賃銀制度の××、××××××の實現以外にはあり得ない。

(チ)

十九世紀の後半即ち第一インターナショナルの當時バクレーニン、クロボトキン等のアナトキストによつてフランスを中心に組織されてゐた國際的團體である。

チレツタンチズム

學問や藝術を専門的に研究するのではなく道樂半分に玩弄することを言ふ。

チユーター (英)

輔導者と譯す。黨及組合等で、會員を教育し又はオルガナイザーや、教育部員等を養成するために個々具體的に輔導し、階級的教育を施す助成者をチユーターと言ふ。

チエカ

ソビエツト・聯邦に於いて、戦時共產主義時代の反革命派を鎮壓したり投獄や犯罪を取締つた軍事的特別警察で一九二一年來「ゲベウ」と改稱された。

二三〇

チエコ・スロバキヤ共產黨 (—キョーサント—)

一九二〇年に創立され、現在獨逸の一部及チエコに十萬の黨員を有し、一九二五年の選挙には七百萬の總投票数のうち九十二萬三千餘票を獲得した。

【ツ】

ツアリスム

舊ロシアに於けるツアリの獨裁專制政治のこと。

ツアー

一五四五年以來ロシアの皇帝に用ひられた尊稱。君主と同じ意である。

通國主義 (ツイズイシユギ)

歴史の必然性と、プロレタリアの革命的理論を把握することなく、社會の現象や大衆の自發的闘争の跡を追ふて進み之を合理化してゆく盲動を指す。

通貨 (ツーカー)

「貨幣」の項を見よ。

ツンフト

中世の手工業者組合の獨逸名。「ギルド」を見よ。

通商代表機關 (ツーシヨードイヒヨーキカン)

(ツ)

ツピエツト・聯邦の在外通商貿易機關である。ソビエツト・聯邦は貿易國有制であるから、通商問題は外交代表機關(大公使、領事)から獨立してゐるのである。

ツエントロ・ソユズ

ソビエツト・聯邦に於ける「全露中央協同組合同盟」の略稱。政府に直屬し、都市及農村間の物資の交換配給を掌中に集めてゐる。

ツエーレ (獨)

「細胞」のこと。其項を見よ。

二三一

帝國主義 (ティコクレユギ)

インペリアリズムの譯。帝國主義とは資本主義の最新の段階たる獨占的資本主義である。レーニンは「帝國主義は、獨占及金融資本が支配的勢力を獲得し、資本の輸出が非常な重要性を帯び、國際的トラストが既に世界の分割を開始し、そして最大の資本主義諸國家が已に全地表の分割を完了した發展段階に於ける資本主義である」と、言つてゐる。而して帝國主義の主要特徴は、(一)帝國主義はトラスト、カルテル等による産業資本と金融資本との結合による生産の獨占的支配と資本の集中によつて、金融寡頭政治を實現し、労働者階級に對する專制的支配と失業者の増大及労働條件を劣悪化せしむる。こゝに於いて資本家階級と労働者階級は最も明瞭な形で對

「帝國主義」を見よ。

帝國主義第三期 (ティコクレユギダイサンキ)

第三期とは歐洲大戰による帝國主義の世界革命の危期を産業の合理化策によつて各國は一時其の危期を脱出し、資本の一定的安定(内部には一層矛盾を増大しつつ)を得たが、再び一九二八年頃より生産力の増大と市場の枯渇に依る矛盾の増大、恐慌、各國間の利害の暴骨な對立と帝國主義戰爭の切迫、及國內プロレタリアートの失業者群の激増と労働條件の劣悪化による階級闘争の激化及植民地弱小國民の革命運動の躍進等によつて、資本主義の動搖の時代を出現し、再びプロレタリアートの革命的波が高まつて來た現在の状態を言ふ。帝國主義第三期に於けるプロレタリアートの主要任務は、(一)黨は理論的にも組織的にも統一性を獲得し、右翼的偏向を一掃して強化し革命を準備すること、(二)政治的スローガ

(テ)

立し、××権力の争奪を中心とする革命運動がプロレタリアートの日常の問題となる。従つて、従来の労働組合、及合法政黨による改良主義、議會主義の運動が限界に到達し、改良主義、社會民主主義は金融大ブルジョアジの御用を露骨に務め、プロレタリアートの革命的黨及運動と明瞭に對立するに至る(二)帝國主義は、原料産地の獨占的支配と資本輸出を行ひ、新市場を獲得するための戦争と、既に分割されてゐる世界の資本による再分割のため各列強間に戦争を準備し、帝國主義戦争を必然に伴ふ。(三)帝國主義は、植民地及弱小未開國に資本を輸出し餘暇な搾取と野蠻なる政治的壓迫と迫害とを行ひたぬに必然的に植民地及弱小國の民族的反抗——民族革命運動の擡頭並に植民地民族をプロレタリア化し、植民地プロレタリアートの革命運動を誘發する。

帝國主義戰爭 (ティコクレユギセンソウ)

ンを公然と大衆の面前に押し出し大衆的闘争を組織すること、(三)經濟的ストライキを激發指導し、且つ政治的ストライキに發展せしむること、(四)社會民主主義、及白色テロルに對する闘争を猛烈に行ふと共に自衛團等を組織し、××の準備をすること、(五)ソビエトロシアの防衛、(六)帝國主義戰爭の準備に對する闘争、(七)植民地及弱小國の革命運動を支持しこれをプロレタリア××に發展せしむること等である。尙三期とは戦後帝國主義第三期である。

手形 (テガタ)

手形には爲替手形(商業手形)、約束手形(金融手形)及小切手の類があり、何れも信用を基礎とし、金融及支拂の用具として貨幣の機能を代行する。しかしこれは貨幣ではないから、別に相場が立てられる。

手形交換所 (テガタコーカンショ)

各銀行は夫れ々取引先の多数の手形や小切手を一々他の銀行に支拂つたり取り立てたりせず、諸銀行が手形交換所に集まつて債權、債務を相殺する。普通毎日午前と午後の二回交換が行はれ、各銀行は自己の債權、債務を計算し、日本銀行に通知し、各銀行の豫金帳簿の書き替へを受け、現金の授受を行ふことなく決済してゐる。

哲學 (テツガク)

思惟の力によつて形成された所の統一的世界観即ち、世界の本質を抽象的、普遍的、明瞭的に思惟によつて再現するのが哲學だと言はれてゐる。従つて意識と現實の關係を究明し、こゝから唯心論と、唯物論の争が生じたのである。哲學には更に論理學、認識論、形而上學、自然哲學、宗教哲學、歴史哲學、法律哲學、經濟哲學、藝術哲學、倫理哲學、心理學、美學、教育學、哲學史等の各分科が生ずるに至つた。

が、以上は凡てブルジョアの觀念哲學の言ふことであつて、これに對立するプロレタリアの世界観は唯物辯證法(マルクス・レーニン主義)である。哲學も亦一の歴史的時代とその時代の階級性を意識の上に反映したものに外ならないからである。

テロリズム

恐怖主義のこと。革命期に於る一手段として政府の大官や反動家を××し、或は反革命派の反亂を鎮壓する爲に殺害、暴行、投獄などを行ふことを赤色テロルといふ。又、資本家・地主及官憲がプロレタリア及貧農の革命運動を抑壓するために前衛を虐殺し、投獄し、大衆闘争を禁壓し大衆的逮捕を行ふことを白色テロルと言ふ。曾つてアナキストはテロルのみが革命達成の唯一の手段と認めて來たがマルクス主義者は決してテロルを否定はしないし、且つ白色テロルに對抗するには階級的、組織的な赤色テ

ロルを力説はするが、××的黨の組織及××の大衆闘争の組織に重點を置き、無秩序な個人的テロルに反對する。即ちマルクス主義は、テロルが革命的組織と闘争を破壊する場合は反對し、遂に組織と勢力を防衛する上に必要の場合は採用するのである。

テロル

恐怖手段のこと。

テロ

テロル、テロリズムの略。

寺小屋 (テラコヤ)

明治維新以前の封建社會の普通教育機關。起源は足利時代で、寺院を教場とし僧侶を教師としたから寺小屋の稱がある。後には浪人等が寺小屋を開くに至つた。

テレオギー

目的論と譯す。宇宙の現象を因果關係によつて機

械的、盲目的のみ説明する機械觀に對立し、世界の凡ての現象は一定の目的の下に生起し、目的達成の手段を採用し、時間的に前に現はれた現象は、後に現はれた現象によつて制約され、兩者の關係は原因と結果の關係ではなく目的と手段の關係であると主張するのがテレオギーである。

轉化 (テンカ)

對立的運動状態にある現象が、その發展によつて量を増大すると共に質的に異つた新しい段階(状態、形態)等に發展することを轉化と言ふ。例へば經濟的ストライキが全國的に廣範に捲き起されて、政治的ストライキに轉化したなどと言ふ。

テンポ

速度のこと。

テーゼ

當面の方針書又は活動方針の要領書のこと。大會

によつて採用された綱領に基づいて、中央委員会又は組織部、政治部等が夫々當面の政治的、組織的方针を具體的に作成し、組織員の活動の指針として與えるのがチーゼである。

チーラー・システム

科學的管理法のこと。チーラーによつて唱導された工場管理法であるから斯く呼ぶのである。産業合理化策の一手段で、自然科学、心理学、生理學を應用し労働を強化し搾取を増大にせんとする方法である。チーラーはこのために、左の法則を主張した、
(一)従業員には機械に依つて決定された範圍の仕事を正確に行はしめること、(二)機械的生産力を最大に發揮し労働を正確に適合せしめそれを標準とする、と、(三)課業を正確に完成したる時は賃金を増し、然らざる時は罰金制によつて労働者に損失を負担せしむること、(四)労働能力を競争せしむるため差別

的出來高賃銀制によること等である。要するに生産額を増大し、生産費を減少し、各人の労働賃金を名目的には上げるが、労働を強化し在來の二倍三倍の労働力を同一時間内に支出せしめ、搾取と失業を増大せしめ機械により労働者を支配する方法である。

出來高賃 (デキダカペライ)

請負賃銀制のこと。其項を見よ。

デイレンマ

進退兩難のことを言ふ。

デスポティズム

専制主義。君主による専制政治のこと。

デマゴーグ

惡煽動と譯す。理論的にも實踐的にも非階級的な社會民主主義者、及革命的冒険のみを弄し實踐的には小ブルジョア的である左翼小兒病の徒は、大衆の無自覺と、盲目と、一時的現象に迷はされ易い性質を

悪用し煽情的文句を以つて事實を捏造し革命的闘争を中傷し、盛んにデマを飛ばし、以て自己の勢力の崩壊をくひ止める唯一の手段としてゐるのである。
(アジテーションの項を見よ)

デマ

デマゴーグの略。

デモ

デモンストレーションの略。

デモンストレーション

「示威運動」を見よ。

デモクラシー

民主主義、又は民主政治と譯す。自由、平等の思想に基づく政治形態である。舊くはギリシャの都市に行はれた民衆政治で、プラトリー等によつて唱導された。現在ではブルジョア・デモクラシーのことであつて、歴史的には新興ブルジョアジが、封建貴

族の専制政治に對する闘争のスローガンとして採用し、フランス革命の人權宣言、アメリカ合衆國獨立宣言などがこれの始めであり、又現在の先進資本主義國の議會政治(普選)、陪審裁判制度、住居、信仰、商業の自由、言論、集會、結社の自由等がこれである。併し帝國主義の獨占時代に遡入ると共に、デモクラシーは實質的には廢除され、金融資本の專制的支配が始まる。これに對しプロレタリアートは言論、集會、出版、結社の自由を要求して帝國主義資本家階級と闘争せねばならぬが、これはデモクラシーに基づくものではなくプロレタリアの階級闘争の手段である。デモクラシーはブルジョアジが封建的勢力に對する闘争の武器として成長したが、ブルジョアジが完全に政治權力を掌握した瞬間から労働者階級を搾取し支配する用具と化し死滅したものでブルジョア特有の歴史的觀念である。尙經濟上の用語

としては産業民主主義と言ふ。

デリケート

代表者のこと。大會に出席する代議員はデリケートである。

デリケート

微妙な關係を言ふ。

【ト】

統一インターナショナル (トリーツァー)

一九二二年以來英露労働組合及プロヒンターンによつて企てられたが、第二インターナショナル、及アマステルダム派の裏切によつて破壊された。(ベルリン會議の項を見よ。)

統一戦線 (トリーツェンセン)

統一戦線の實現のこと。資本家の攻撃に對して分散してゐる組合を統一し、統一的勢力を以つて進襲し、プロレタリアートの革命的組織と闘争を擴大強化することを統一戦線の形式又は統一運動の展開といふ。(農民運動についても同様のことと言へる。)

一九二二年以來プロヒンターンが國際的労働運動の統一を提唱し、アマステルダム派をも國際資本主義に對する共同闘争に参加せしめようとしたが、アム

(ト)

ステルダム派は之を妨害し拒絶した。併しプロヒンターンは下からの共同闘争、大衆と大衆との共同闘争を積極的に行ひ、國際労働組合の革命的統一戦線實現の爲め猛烈に闘争しつゝある。我が國に於ては、大正十四年の總聯合運動を始め、全國的労働組合會議の結成の運動、大正十五年以後に於ける労働組合統一同盟の組織と其の闘争、並に共同闘争の展開等によつて労働運動の戦線を××的に統一する運動が行はれた。統一戦線の形式は資本の集中的攻撃に對する労働の集中的組織と勢力を以つて闘争し、階級闘争を助成するための革命的戦線統一であつて、統一それ自身が目的ではなく、まして革命的闘争を放棄して統一を達成しようとするとは裏切行爲である。従つて現在の如く改良主義者が全く資本の用具と化し社會ファシストの裏切行爲を積極的に行ひつつある状態の下では、上からの統一は殆んど不可能

であり、大衆と大衆の闘争による下からの統一戦線が最も有効で革命的意義を持つものとされてゐる。

統一同盟 (トリーウッドローメイ)

「労働組合統一同盟」のこと。當時の左翼組合の統一體で大正十五年創立、三・一五事件で解散。

盗犯防止法 (トーハンポシホー)

刑法の正當防衛の範圍を擴大し、強盜、脅迫、兩會強要、強姦威脅などによつて、身邊の危険を感じたる時は、對手方を殺傷しても罪にしないといふ法律。昭和五年第五十八議會に濱口内閣によつて提出し、可決實施した。此の法律は封建時代の「切捨て御免」の復活であつて、政府は強盜の防止といつてゐるが、無産階級の大衆行動に對し、白色テロルを公認し奨励せんとするものである。

特惠關稅 (トクケイカンゼイ)

帝國主義の侵略政策の一つで、弱少國及特別條約

國に對し、自國よりの輸入品に對し全部或は指定の商品に限り税率を軽減せしむる關稅政策をいふ。

特權階級 (トツケンカイキユー)

XX、華族、官僚、軍閥の如く政治上の特權が身分によつて保證されてゐる人達をいふ。大資本家も亦一種の特權階級で、特に經濟的特權が保證されてゐる。

土地 (トチ)

田、畑、山林、原野、墾田、工業礦山用地、商業住宅用地等一切を指す。併し、耕作地が代表的なもので、食料品及原料を生産するに爲耕作せられる。

土地革命 (トチカクメイ)

農業革命のこと。農業を封建的經營と搾取から解放し、資本主義的に經營し、小作人を農業プロレタリア化すること。日本では土地革命を經る事なく、工業は大機械の採用とトラスト、カルテルによる調

占の帝國主義的發展を遂げ、政權は大ブルジョアを盟主とする資本家・地主の反動的プロツクによつて掌握されてゐるため、ブルジョア自身による上からの土地革命は不可能とされ、労働者農民のブルジョア民主主義XXとプロレタリアXXによる政權のXXによつてのみ土地XXは實現され、この闘争に於ける労働者農民のスローガンは大土地のXXXXXXであると言はれてゐる。

土地國有 (トチコクユウ)

最近の小作争議に苦しめられてゐる一部地主及ブルジョア學者は、土地國有を唱へ國家に高價で耕作地を買ひ取らしめようと土地國有論を唱導するに至り、又改良主義的農民運動家も一時これに唱和したが、ブルジョア國家の財政上不可能とされるに至つた。土地國有は、プロレタリアXXによつて土地をXXXXXしなければ實現出來ないし、階級的意義も

無い。従て、ブルジョア社會の下に土地國有を唱へることは、地主の利益を代辨するか左もなければ、農民運動をブルジョア化することである。

突然變異說 (トツセンヘンイセツ)

突變説とも略稱し、ドウ・フリースが動植物の新種は漸進的に進化するのでなく、一定の自然的及內的條件の下に突然變化し、變化したものは代々一定の條件の下には遺傳されると説いて、ダーウィンの自然界には飛躍が無いといふ進化論に反對した。彼はオホマツヨヒグサを栽培し數十種の新種を突然變異せるもを得て、自然界にも飛躍が行はれることを實證したのである。(進化論を参照せよ)

特高課 (トツコーカ)

特別高等課の略。警保局、警視廳及府縣警察部に於いて要觀察人——労働運動家、共産主義者等の行動を觀察し、プロレタリア運動を取締り、彈壓し檢

擧する方針を立てる。特高課の下に労働係、特別高等係、高等係、鮮人係、外事係等が所属してゐる。

徳華制度 (トタイセイト)

封建社會に於ける手工業主の下に一定期間——普通三年から七年迄——年期として、親方の家に起居し技術の見習をなし、又雜役、炊事等にも使役され少額の小使と仕着等を得て無償で働き、年期が明けてはじめて一人前の職人となる制度である。資本主義の大工場の下に於いてもなほ、幼年工、見習工の名の下に未徒弟制度が残存し、大工、左官其他の手工業に於いては封建的徒弟制度が廣く残存してゐる。従て徒弟制度廢止は労働階級の要求の一である。

トラスト

企業合同と譯す。其項を見よ。

取引所 (トリヒキジヨ)

取引所は資本家の機關で、市場と異なる點は、一

定の規約の下に取引される商品が、大量生産的で一般的標準を立て得るもの——即ち、穀物、生絲、織物類、砂糖、地金、株式、手形、外國爲替等に制限され、取引所法によつて行はれてゐる點である。又取引所には株式組織と會員組織とがあり、株式組織は、取引員から身元保證金、賣買證據金を豫め徴收して置いて賣買契約の履行を保證せしめ、手数料を徴收する。會員組織は、仲買人が共同責任で相互に保證し合つて取引を行ふ。

トレード・ユニオン

労働組合の英語。

トレード・ユニオンズム

労働組合主義。「組合主義的政治闘争」の項を見よ。

ドイツ革命 (——カクメイ)

一九一八年十一月のドイツに於ける革命をいふ。歐洲大戦中獨逸は、食料及物質の缺乏に苦しみ、職

争反對の聲は漸次増大し、一九一六年には獨立社會黨及スバルタカス團が反戰運動を猛烈に行ひ、他方一九一六年には同盟國のオースタリ首相は戦争反對者によつて暗殺され、勝利を信じてゐた戦線からは續々と敗報が傳えられ、民衆の生活——特に食料と燃料は極度に窮乏し、國內は動搖し、戦争反對の聲は益々猛烈となり一九一七年には議會は獨立社會黨、社會民主黨、及中央黨、民主黨議員の賛成によつて無併合、無賠償の媾和條約締結の決議案が可決され、且つ同年十一月にはロシアのボルセヴィキ革命が成功しこれに刺戟されて革命的形勢が國內に充滿した。革命の火の手は一九一七年三月キール軍港の水兵と労働者の反亂によつて擧げられ、政府の彈壓によつて一時鎮壓されたが、越えて一九一八年十一月三日再びキール軍港に労働者と水兵の一大示威運動が行はれ、戰間經マルクグラフィは革命軍に味

方し、反亂は全國に波及し、ミュンヘン、ハンブルグ、ベルリン等に暴動、大示威運動、大罷工が行はれスバルタカス團による革命委員會とソビエツト等が企てられた。十一月九日にはカイゼルの退位、パソと自由。平和の要求及ソビエツト社會主義共和國樹立のピラが貼り出され、労働者の勝利は確實となり、カイゼルはオランダに逃亡した。所が、九日午後社會民主黨のシャインデマンは共和政府の樹立を議會で宣言し、エーベルト、ランズベルグ、及獨立社會黨のハーゼ、デイトマン、バルトと共にブルジョア黨派との聯立内閣を組織し、政治犯人の大赦、普通選挙、言論集會結社の自由、八時間労働制等を發表した。これに對しローザ及リーブクネヒトのスバルタカス團は、ラデツクの失策に依て一時聯立内閣に参加したが直ちに聯立内閣への参加を拒絶し、一切の權力をソビエツトへ、プロレタリア獨裁政治

の樹立、ブルジョアの武装解除、赤衛軍の組織を主張し、一九一八年十二月にはスバルタカス團は獨逸共産黨を結成し、一九一九年一月には大罷業と武装反亂に依つてプロレタリア革命に突き進んだ。併し反動化する社會民主主義者シャインデマン、エーペルト、ノスケ等の政府は獨逸共産黨を弾壓し、一九一九年一月十六日にはローザとリープクネヒトは彼等の手によつて虐殺され、續いてミュンヘン、ライプツヒヒ、ヘムニツツ等に於ける革命運動も弾壓され遂に獨逸革命は社會民主主義者の手によつてブルジョア革命に終らしめられ、現在のドイツ共和國となつてゐるのである。

ドイツ共産黨 (——キーロフサントー)

ドイツ共産黨の前身はスバルタカス團(其項参照)であつて、一九一八年十二月三十一日スバルタカス團は大會を開いてこゝに獨逸共産黨を組織したのである。

ある。當時獨逸革命の最中であつて、共産黨は社會民主黨及獨立社會黨等の聯立内閣に反對し、プロレタリア獨裁と、赤衛軍の組織などを主張し一九一九年一月には罷業と反亂を組織したが、シャインデマン政府によつて弾壓され、ローザとリープクネヒトは虐殺され、革命は反革命派の勝利に終つた。獨逸共産黨は其の後労働運動の中に勢力を占め、其中に赤色戦士同盟を結成し、一九二三年にはハンブルグに暴動を組織し、且ブランドレル等の日和見主義及マスコフ等の極左翼を清算し労働者大衆の信頼を獲得し、現在では黨員約十六萬人を擁し、ロシア共産黨を除いては世界最大最強の共産黨である。一九二八年には六十萬人の大ストライキを指導し、又一九年のメーデーには市街戦を演じるなど、ドイツのプロレタリア革命を準備するために陣容を整えつゝある。尙ドイツ共産黨は一九一九年には二個の代議士

を選出し、一九二〇年十月には獨立社會黨の左翼の加入を得、二四年には四五人の代議士、二八年には五十四人の代議士を選出したが、最近再び黨内の右翼的傾向を清算し若干の代議士組合官僚等を除名し觀念的にも組織的にも黨を強めつゝある。機關紙ローテ・ファーン(赤旗)三十萬部を發刊してゐる。

ドイツ社會民主労働黨 (——シャカイミンシュロードロー)

「ドイツ社會民主黨」を見よ。

ドイツ社會主義労働黨 (——シャカイシニギロードロー)

「ドイツ社會民主黨」を見よ。

ドイツ社會民主黨 (——シャカイミンシュロードロー)

ドイツ社會民主黨が正式に結成されたのは一八九一年であるが、それ以前に、一八六三年ライプツツヒに於いてラツサレ派が全獨逸労働者同盟を組織し

他方之に對立して、リープクネヒト、ベーベル等は「労働組合聯合會」を組織し、次で六九年アイゼナツ大会で「社會民主労働黨」と改稱し、ラツサレ派と對抗して来た。然るにビスマルクの彈壓は兩派の協同を促し、一八七五年にゴータ合同大會によつて兩派は「獨逸社會主義労働黨」を組織して合同しゴータ綱領(其項参照)を發表した。この黨は一八七八年のビスマルクの社會主義弾壓法の實施により彈壓を受けたが一八九〇年鎮壓法を撤廢せしめ、一八九一年に今日の「ドイツ社會民主黨」として再組織されエルフルト綱領を發表(其項を参照せよ)した。

ドイツ社會民主黨は一八九〇年には其の指導下に獨逸労働者同盟(A・D・G・B)を組織し、マルクス主義の正統派を以つて任じて来たが、歐洲大戰前既に右翼化し、大戰と共に幹部派は主張を裏切つ

て戦争に賛成した。こゝに於て黨は左翼少数派、中央派、右翼多数派に分裂し、左翼はスバルタカス團を、中央派は獨立社會黨を組織し、右翼は社會民主黨を繼承して抗争し、一九一八年のドイツ革命に際して社會民主黨は獨立内閣を組織し、ドイツ共產黨(スバルタカス團)を弾壓し、プロレタリア革命を絞殺し、益々右傾し、常にブルジョア黨派との聯立による政權維持に汲々とし、一九二〇年には獨立社會黨の右翼と合同し一九二一年にはベルンシュタイン一派の修正派のゲルリツツ綱領を採用し、社會改良主義の黨としてブルジョア第三黨たることを明らかにした。一九二八年五月の總選舉には一五二名の代議士を選出し第一黨となり一九二九年には再び社會民主黨内閣を組織した。黨員約八六八、九一四人で、第二インターナショナルの中堅であり、ドイツ労働總同盟の支持を得てゐる。機關紙「フォルツツツ」

を發行してゐる。

ドイツ労働總同盟 (——ロイドーツードーメイ)

「アルグマイナー・ドイッチェル・ゲウエルクシヤフ・フアント」の譯。(A. D. G. Bと略稱してゐる)
ドイツの労働運動はビスマルクの鎮壓法が撤廢されるに至つて公然たる姿となり、ドイツ労働總同盟は一八九〇年のベルリン大會で組織され、社會民主黨の指導下に立ち、大戦直前の一九一三年には七十組合、二百五十萬の會員を擁し、一九二一年には五十餘組合八百五十萬、二四年には四百萬、現在では約三百五十萬人位である。總同盟は社會民主黨のブルジョア化と共に益々右傾化し、一九二五年のブレスラウ大會では世界最右翼の方針を採用し、漸次労働階級の信頼を失墜し、現在ではドイツ共產黨及赤色戦士同盟の力に壓倒されつゝある、しかし、未だ總同盟はアムステルダム派の中堅である。

獨裁 (ドクサイ)

ドイツターターシツプの譯。一の階級(又は階級の代表者)が國家の政治權力を獨裁的に掌握し、敵對する階級を壓服することを獨裁といふ。古くはローマの執政官による獨裁政治があり、奴隸社會には貴族、自由市民の獨裁が存し、封建社會には貴族、僧侶の獨裁政治が行はれ、現在の資本主義社會には金融大ブルジョアジの獨裁政治が行はれてゐる。併し、労働者が今日唱えてゐる獨裁は、プロレタリアン政權の××のことで、未だ、ロシアにのみプロレタリアートの獨裁は實現されたに過ぎない。イタリアにはファシストの獨裁が行はれてゐるが、これは斷末魔のブルジョアジ獨裁の一變型である。(プロレタリア獨裁の項を見よ)

獨占 (ドクセン)

獨占とは生産機關の獨り占めの意であるが、(一)

獨占價格 (ドクセンカガク)

大資本家はカルテル、トラストによつて生産及市場を獨占し、競争を廢除するに至るや、商品の價格を協定し、生産費と平均利潤の總和以上に價格を釣り上げて過剰利潤を確保する。又生産過剩の場合、

大資本家は価格を維持し、巨大な利潤を独占するために、協定によつて生産を一時縮少し、或は商品を放棄しても独占市場の価格を引下げることには反対してゐる。

独占利潤 (ドクセンリジユン)

大資本家が競争者を驅逐し、或はトラスト、カルテルによつて結合し、中小資本家を壓服し、生産及市場を独占し、独占価格によつて、平均利潤以上の利潤を獲得する。之を独占利潤といふ。大資本の独占利潤は大體次の要素から得てゐる。(一)資本の集中産業合理化による労働の強化及賃銀の低下、(二)前資本主義的生産の領域に對する搾取、(三)戦争による掠奪及植民地の掠奪、(四)等差利潤(中小資本のと)(五)關稅及保護政策等々。日本の帝國主義は世界經濟の枠内では独占利潤を確保してゐるのは支那南洋方面のみであり、結局國內労働大衆、朝鮮、臺

灣等の植民地及中小生産者、並に農民から得てゐるのである。而して、大資本が得た独占利潤の一部は社會民主主義者、労働官僚の培養の費に當てられてゐることは言ふまでもない。

土產劣紳 (ドゴレツシヤン)

支那の封建的貴族、官僚連で經濟的には地主、高利貸である。軍閥の手先で、農民から租稅、公課を勝手に徴收し、地方の實際的支配權力を握り、土匪民國等の武裝暴力團を養つて農民を掠奪してゐる。「打倒土產劣紳」は支那國民革命のスローガンで、支那の反動的ブルジョアジーさえ反対してゐる封建的殘存勢力である。

同一労働に對する同一賃銀 (ドイイツロドニタイ スルドイイツタンギン)

男女の性別、年齢の相異及國籍民族の相異の如何にか、はらず、同一の仕事に従事してゐる労働者に

對して、凡て同一額の日給制(一定労働時間による)の賃銀を支給するのが當然で、労働者階級は同一労働に對する同一賃銀の支給を要求して戦つてゐる。或る工場では男女年齢の別を問はず同一の單價請負制によつて賃銀を支給してゐるが、これはテラーシステム等による苛酷な搾取法であつて同一賃銀制ではない。

同情罷業 (ドージョーヒギョー)

「ストライキ」の項を見よ。

同盟罷業 (ドーマイヒギョー)

「ストライキ」及「ストライキ戦略」の項を見よ。

ドグマ

獨斷と譯す。

ドーズ案 (——アン)

大戦に敗れた獨逸はヴェルサイユ條約によつて一三二〇億マルク(年額二十億マルク及輸出物價格の

二〇%)を聯合國に賠償しなければならなくなつたが獨逸は到底負擔しきれず六ヶ月間の支拂をした以後中絶するに至つた。そこで一九二三年佛國はルールを占領し武力解決を迫るに至つたので、アメリカはモルガン會社のドーズを首席とする委員會を構成し、獨逸の經濟の復興狀態を調査せしめ、ドーズ案を作成し、一九二四年の倫敦會議で採決し賠償問題解決の基本とした。此案の骨子は、(一)ドイツをして八億マルクの外債を募集せしめ、(二)獨逸の全産業を五十億の抵當物とし毎年一分宛償還さす、(三)煙草、ビール等の關稅及消費税を増徴し賠償金に充てしめ、(四)賠償金を年額十六億たらしめ、又、聯合國は米國に對する戦時債務の利子を支拂はしめ労働者の負擔を増大せしめ、且つ列強は經濟的に獨逸をアメリカ等の支配下に置いたのである。

銀難 (ドレイ)

奴隷とは人間が動産として所有者の隷属の下に使役され、賣却、譲渡は所有者の権利に属し、強制労働に従事せしめられてゐた人達である。奴隷は古代並に封建社會、及初期資本主義時代に存在してゐたが、一八六二年アメリカの奴隷解放宣言以來消滅した。併し今日の資本主義社會では奴隷に代るに賃銀奴隷(勞働者)が存在してゐる。奴隷が発生した物質的根據は奴隷が剩餘生産物を生産し所有者がそれを掠奪し得るような生産力の下に行はれるに至つたもので、搾取關係を前提としてゐることは近代的賃銀奴隷と同様である。日本には奈良朝、平安朝時代に奴隷が存在した。

奴隷解放 (ドレイカイホー)

古くはローマの奴隷反亂があつたが、主として一八六二年アメリカのリンカーンによる黒奴解放宣言によつて奴隷を賃銀勞働者ならしめたことを指す。

ドン・キホーテ式 (——シキ)

ドン・キホーテは一六〇五年頃のセルヴァンテス(スペイン人)の小説の主人公で、資本主義の勃興期に於ても、依然と中世の考を持ち武者旅行に出た騎士の時代ばなれのした馬鹿げた姿を諷刺的に描いた物語である。ドン・キホーテ式といふのは丁度それと同様にプロレタリア運動等に於いて階級對立の激化してゐる今日、正義だの愛だのと人道主義を振り廻したり、或は勞働組合の幹部が大衆闘争を強力に遂行することなくして、資本家の同情と理解に依つて勞働條件を改善しようとするような首動をドン・キホーテ式と言ふ。

【ナ】

内閣 (ナイカク)

内閣は政府の首脳であつて、總理大臣及各省大臣を以つて構成し、各官廳を統轄し政務を行ふ。(政府の項を見よ)

ナイツ・オブ・レーバー

勞働騎士團と譯され、一八六九年アメリカに創立された半秘密的勞働組合である。一八八五年には十萬の會員を擁し、全米を震盪せしめた八時間勞働制實施のゼネ・ストを行ひ、アメリカの勞働運動の先驅を務めたがA.F.L.の組織と共に凋落し消滅した。

ナツプ

全日本無産者藝術團體協会の略稱(Napf)。日本に於る最初のプロレタリア文藝家團體は、大正十四年十二月「日本プロレタリア文藝聯盟」が組織さ

れたが、當時のアナとボルの對立からアナ系は分離したので、昭和三年四月「日本プロレタリア藝術聯盟」と改稱した。この日本プロレタリア藝術聯盟は、當時の山川主義と福本主義の對立から同年六月前田河金子氏等の「文藝戦線」一派を除名し「文戦」一派は別に「勞働藝術家聯盟」を組織したが、之が再び分裂し藤森、林、佐々木氏等は別に「前衛藝術家同盟」を組織した。かゝる分裂と對立の状態を経て、昭和三年四月「日本プロレタリア藝術聯盟」と「前衛藝術家同盟」とは合同して全日本無産者藝術聯盟と改稱し、更に昭和四年以後内部の文藝部、美術部、演劇部、映畫部等を整理し他の夫々の藝術家團と合同せしめて、日本プロレタリア作家同盟、日本プロレタリア映畫同盟、日本プロレタリア美術家同盟、左翼劇場同盟を組織し、これらの無産者藝術團體の聯合體を全日本無産者藝術團體協同會と改稱するに至

つた。雑誌「戦旗」は作家同盟の機関紙であるが事實上ナツプの機関紙として労働者、農民の中に廣く讀まれ、最近では「藝術は黨のものでなければならぬ」と力説し、共産主義藝術の立場を益々明確に示しつつある。

ナシヨナリズム

「國家主義」の項を見よ。

ナシヨナル・ギルド

「ギルド社會主義」を見よ。

ナロードニキ

一八七〇年代ロシアに於いて「人民の中へ」と叫んだインテリゲンチヤの革命家の集團。(エス・エルの項を見よ)

ナイーツ

素朴、又は可笑しき程單純な事の意味である。

ナルコム (露)

ソビエツト・ロシアの「人民委員會」の略稱。

【四】

二重組合主義 (ニジニョークミアイシユギ)

デュアル・ユニオンの際。改良主義的右翼及中央派組合の内部において、當該組合幹部の統制に服せず革命的分派を組織して闘争し、この革命的分派を赤色組合に組織することを、社會民主主義等は二重組合主義だと言つて攻撃する。併しこれは××的統一戦術の正しい方策であつて、特に産業別的全國組合の總聯合が存在しない國、労働者の大部分が未組織状態にある國に於いては、重要な戦術である。

二重賃銀制 (ニジニョーチンギンセイ)

單價による出来高(請負)賃銀制と、時間による日給制賃銀の併用を二重賃銀制といふ。(一)一定の常備賃銀と之に對する責任産額を制定し、此責任個數以上の生産に對しては出来高拂を適用するもの、

(二)

(一)出来高拂に於て一定責任額を制定し、それ以上の分には特別の單價を仕拂ふもの、(二)期節(仕事の多少)によつて或時は單價に他の時は日給にするもの、(四)最高の單價生産額を標準として日給を定め、標準以下の生産に對しては罰金制を設けて日給から差引くもの等多種多様である。何れも、賃銀の算定を二重、三重に複雑にして労働者をゴマ化し、又は競争させて過度に努力を發揮せしめ實際の賃銀を低下し、又は日給を極く少額(六十錢位)にし、解雇、手當、賞與等はこの日給を標準として支給するやり方である。これに對し労働者は二重賃銀制の撤廢を要求してゐる。

二重外交 (ニジニョーガイコー)

日本の政治構成は政府の外に參謀本部、軍令部等獨立的に内閣と同様の權能を振り廻す特別機關がある。此等の軍部が政府の外務省とは別に獨立的に外

交を行ふことを二重外交といふ。

日本海員組合 (ニホンカイインクミアイ)

大正十年五月創立され、郵船、商船其他の船員(甲板部、機関部、司厨部員等)を以つて構成し、勞資協調主義を奉じ、國際勞働會議及社會民衆黨を支持してゐる最右翼勞働組合。組合員數約五五、一七七人で我國海員組合の最大のもの。機關紙「海員」を發行してゐる。幹部は殆んど高利貸(海員間の)の親方で社會愛國主義者を以つて占めてゐる。従つて内部にはXX的反對派が擡頭しつゝある。

日本交通勞働聯盟 (ニホンコトウロドイソウドーメイ)

大正十三年十一月創立。現加盟組合は東京交通勞働組合(舊市電自治會)横濱市電共和會、神戸市電從業員組合、大阪市電自助會、中部交通勞働組合、函館交誼會等。組合員約二萬五千人で、内部は社民

大衆、勞農黨及XXXを支持する系統に分れ、組合として政黨加入及支持は自由としてゐる。

日本礦山組合 (ニホンコルフクミアイ)

友愛會礦山部、大日本礦山勞働同盟會、全國坑夫組合が大正九年十月合同して全日本礦夫組合總聯合と稱し、大正十四年十月名稱を「日本礦夫組合」と改稱。大正十五年十二月總同盟より除名され、日本勞働組合同盟に加盟し今日に至つてゐる。現に、日本大衆黨を支持し、大正十年頃には六千人の組合員を擁してゐたが、現在では組合員は減少し無力の状態である。

日本社會主義同盟 (ニホンシヤカイシユギドーメイ)

友愛會、信友會、正進會、交通勞働組合、時計工組合、鐵夫總同盟、新人會、建設者同盟、曉民會、著作家組合、文化學會等の團體及堺、大杉氏等當時の社會主義者を以て大正九年十二月十日神田青年會

館に創立大會を擧げ、會員約三千名を擁し、機關紙

「社會主義」を發行すると共に、ロシア革命の影響及世界的革命の氣運の狀勢に刺戟せられて革命運動の宣傳、煽動、對露非干涉運動等を活潑に行つたが内部はアナ、ボル、社會改良主義者等が混交してゐて且つ運動は原始的で結局一般的啓蒙運動に止まつてゐた。しかし、政府は大正十年五月二十八日同盟の解散を命じ、又内部的な對立によつて解散するに至つた。

日本社會民衆黨 (ニホンシヤカイミンシュト)

明治三十四年五月二十五日創立。發起者安部、片山、幸徳、木下、西川氏等。國際平和、軍備撤廢、階級制度廢止、生産機關國有、勞働局設置、普通選舉、死刑廢止、貴族院廢止、治警、新聞條令撤廢等を掲げた綱領が發表されたが直ちに結社禁止を命ぜられ宣言書は押收された。

日本社會黨 (ニホンシヤカイト)

明治三十九年二月二十四日創立。堺、深尾及西川氏等の發起の下に組織され、「國法の範圍に於いて社會主義を主張す」(黨則第一條)を目的とし、東京市街電車賃値上反對闘争を組織し、同四月十五日の第二回市民大會は示威運動に移り「兎徒嘯集事件」を惹起し十名の黨員は投獄された。四十年一月より日刊機關紙「平民新聞」を發行した。其後内部に直接行動派と議會政策派の對立が生じたが、左翼派が勢力を占め、四十年二月の第二回黨大會に於ては黨規約第一條を「本黨は社會主義の實行を目的とす」と變更したるも、政府の彈壓によりて直ちに結社禁止を命ぜられた。

日本大衆黨 (ニホンタイシユト)

昭和三年十二月二十一日に日本勞農黨、日本農民黨、無産大衆黨、及九州民衆黨、中部民衆黨、信州

大衆黨、島根自由民衆黨の七黨が合同して日本大衆黨を結黨した。しかし、昭和五年四月清黨問題（金を幹部が政府筋から貰った云々の）が起き、日本農民黨系は脱退し、無産大衆黨系（雑誌「勞農」派）は除名され、結局元の日勞黨系が残つて現在に至つてゐる。委員長麻生久、加藤、河野、淺原、坂本氏等が幹部で「日本大衆新聞」を機關紙として發刊してゐる。綱領左の如し、（一）我が黨は我が國の國情に即し勞働者、農民、及無産市民の政治的、經濟的解放の實現を期す、（二）我が黨は合法的手段を通じて現在の不合理なる土地、生産、分配に關する制度の改革を期す、（三）我が黨は、無産階級の利害を代表し有産階級の壟斷する政治的制度的徹底的改造を期す。合法的改良主義の黨派で支持團體は日本勞働組合同盟（二一、〇〇〇人）、日本勞働組合同盟（七、〇〇〇）、商船同志會（一、七〇〇）、交通總聯盟の一部

（四、〇〇〇）、及全國農民組合の約三分の一である。日本農民組合（ニホンノーマンクミアイ）
 ○大正十一年四月、杉山、賀川氏等によつて創立される。昭和元年には組合員七四、〇〇〇人を擁する最大の全國的農民組合であつて漸次左翼化し（大正十四年の農民勞働黨の結黨及禁止と共に平野一派は脱退し別に全日本農民組合同盟を組織す）勞働農民黨の結黨には日本農民組合が主要役割を演じたが、後日本勞働黨の結黨と共に分裂し、日勞黨系（杉山、三宅、須永氏等）は全日本農民組合を組織して以來日本農民組合は左翼を擁護し、勞働農民黨を支持して來た。昭和三年四月勞働農民黨は解散され、同三年五月全日本農民組合と合同し「全國農民組合」となつてそれに再組織された。當時機關紙「土地と自由」を發行し、三・一五事件には日本農民組合から數十名の犠牲者を出し、日本に於ける革命的農民運動の

主力をなしてゐた。

日本農民黨（ニボンノーマンクミアイ）

「農民は農民黨」へのスローガンの下に大正十五年十月平野一派によつて結黨され、昭和三年七黨合同によつて日本大衆黨に再組織されて解散した。

日本勞働組合同盟（ニホンロードクミアイツーレソゴ）

大正十五年五月創立。關東、關西に地方聯合會があり、其下に加盟組合が屬し、現在組合員約七、〇〇〇名。坂本孝三郎が中央執行委員長で、日本大衆黨を支持し、綱領として「日本の現實に即したる勞働組合主義」を奉ずる改良主義の組合である。

日本勞働組合同盟（ニホンロードクミアイツーレソゴ）

總同盟の第二次分裂によつて大正十五年十二月創立。加盟組合は日本鐵夫組合、日本紡織勞働組合、關東金屬産業勞働組合、關東合同勞働組合等を始め

全國で約五十二組合で、關西、九州、高知等に地方聯合會があり、組合員は約二一、〇〇〇人である。機關紙「勞働大衆」を發行し、會長棚橋小虎氏、加藤、望月、岩内氏等が幹部で「我等は團結の威力により勞働條件の維持改善を計り、更に我が國勞働階級をその被搾取的地位より完全に解放せんことを期す」を綱領としてゐる。しかし、幹部は日和見的であつて内部には刷新派、及赤色組合（日本勞働組合協議會）の分派が幹部に反對して闘争し革命的勢力が盛頭しつつある。昭和五年「全國勞働組合同盟」となる。日本勞働組合同盟（ニホンロードクミアイツーレソゴ）

總同盟第一次分裂によつて大正十四年五月、渡邊、山本、鍋山、杉浦、野田氏等によつて創立され、關東、中部、關西、北海道、九州に地方評議會を有し加盟組合としては關東金屬、東京合同、關東化學、

關東印刷、大阪、神戸等の労働組合を中心とし昭和二年には組合員三六、〇〇〇人を擁してゐた。赤色組合として××××の最大の基礎を構成し、濱松樂器、共同印刷等の大ストライキを始め、労働組合統一同盟の結成と組合統一運動、工代会議、國際労働會議反対、太平洋労働組合代表派遣運動等を積極的に行ひ、日本労働運動の指導的地位を確保して来たが、昭和三年の共産黨檢舉によつて同年四月十日労働農民黨、青年同盟と共に政府によつて解散を命ぜられ、評議會幹部は全部共産黨員として逮捕されるに至つた。併昭和三年十二月には日本労働組合全國協議會として再建され、半合法的活動を續け今日に至つてゐる。機關紙「労働新聞」を發刊す。

日本労働組合全國協議會（ニホンロードークミアイゼンコクヤローギカイ）

日本労働組合評議會の革命的傳統を繼承し、昭和

三年十二月評議會及統一同盟（加盟組合の大部及統一同盟、組合同盟等の分派）を基礎として、半合法狀態の下に組織される。七時間労働制の確立並に直接間接の労働時間の延長反対」「直接間接の賃銀値下に對する反対並に賃銀値上げ」「労働組合の組織活動の自由獲得」「抑壓法令の撤廃」「言論、集會、結社の自由獲得」「國內國際的労働組合戦線統一」「帝國主義の危機に對する闘争」「解放運動犠牲者並にその家族救護」等二十四個の行動綱領を採用し、公然と闘争を組織して来たが昭和四年四月十六日の共産黨檢舉（四・一六事件）に依つて再び幹部及活動分子は檢舉され、協議會の組織は一時破壊せられたが直ちに再組織され、同年夏頃よりは「×××××の支持」「資本家地主の政府を×××」「労働者、農民政府の××」「植民地の解放」「支那××を守れ」「帝國主義戦争反対」「ソビエットロシアの防衛」

「治安維持法撤廃、×××被告即時釋放」等のスロガンを掲げて闘争し益々非合法的になり、昭和五年一月頃より所屬組合、並に反対派を日本金屬、日本化學、日本出版等の全國的産業別單一組合に再編成した。機關紙「労働新聞」は半合法的に發刊され、幹部も引續いて檢舉され、極度の弾壓を受けながらも、勇敢に闘争しつゝある。

日本労働同盟（ニホンロードーソードーメイ）

大正元年八月鈴木文治氏等によつて創立された友愛會が前身で、労資協同を主義とし大正八年日本労働同盟友愛會、同十年日本労働同盟と改稱し、會員約四萬人を擁し其頃日本の労働運動の中心であつた。當時サンデカリズムの影響を受け革命的直接行動派が勢力を占め、更らに南葛労働會、時計工組合、機械工組合等の加盟によつて赤色労働運動が漸次擡頭し、爲に幹部派は大正十三年「方向轉換」に

依つて現實政策と議會主義の政治運動を採用し、内部の左右對立を益々激成し、大正十四年五月革命派を除名し日本労働組合評議會を分離し第一次分裂を行つた。續いて總同盟は政黨問題に關し、農民労働黨（禁止）及労働農民黨結黨に参加したが、同十五年十二月脱退し社會民衆黨を組織した。社會民衆黨組織に際し麻生、加藤氏等は反対し別に日本労働黨を組織したので總同盟は第二次分裂を行ひ、日本労働組合同盟を分離し、再び勢力の半を失つた。以來總同盟は益々右翼反動化し、「大右翼」結成を企て、資本家の公然たる協力者となり下り、爲に昭和四年夏山内、大矢、本山、鈴木氏等大阪聯合會三分の二の勢力は本部の方針に反対して除名され「労働組合全國同盟」を別に組織し、第三次分裂を見た。總同盟の現有勢力は、關東、關西、九州等の大工場に御用組合を保有し會員約三萬人と稱す。機關紙「労働」を發

行し、國際労働會議、社會民衆黨を支持し、共産主義排撃を唱え、産業民主主義、社會愛國主義を鼓吹し、鈴木、松岡、赤松、西尾氏等の幹部は社會ファシストとして出現されてゐる。

日本勢態 (ニホンローノート)

大正十五年十二月當時總同盟の麻生、加藤氏等及日本農民組合の三宅、杉山、須永氏等によつて創立され昭和三年十二月所謂七黨合同によつて、日本大衆黨(其項を見よ)となつた。

ニヒリズム

「虚無主義」の項を見よ。

入超 (ニューチョー)

國際貿易に於いて輸出總額よりも輸入總額の方が多い場合、輸入超過分を入超といふ。入超は其國の生産力の劣弱を意味し、日本は最近年々入超の状態である。

認識論 (ニンシヤロン)

哲學の主要部門で、認識(知識、判断)の本質起源、成立、妥當性、可能性、限界、對象等を論ず。(一)知識の本質を論ずる立場から理性論、感性論、經驗論、批判論、相對論等が存し、(二)知識の對象限界等からは、實在論、觀念論、實證論(現象論)不可知論等がある。併し在來の認識論は何れも唯物辯證法的ではなく色々色彩は異つてゐるが本質は觀念的である。而してブルヂョア學者の間に最も流行してゐるのはカント及リッケルトの認識論であつて、これが今日のブルヂョア哲學の代表者である。

【ネ】

ネツプ

「新經濟政策」を見よ。

ネツプマン

ロシアの新經濟政策の結果新に生じた者で、利潤を目的とする個人企業家及投機商人である。ネツプマンは嚴重な制限の下に、商業を營んでゐるにも不拘、多大の利益を占め、成金となり、反革命派及各國の帝國主義者と結託してソビエツト政權に反對してゐる。従てロシア共産黨はネツプマン征服のために多大の努力をしつゝある。

【二】

農會 (ノークイ)

帝國農會のことで地主の機關。農林省の監督下にあり、政府の補助を受け、農業政策、小作爭議対策農村金融等に關し政府に答申又は申請し、小作人の押取と抑壓に關して協議し、一面封建的地主を保護せしめつゝ、他方農業を資本主義に適應せしむるための機關である。

農業改良主義 (ノークイヨリヨシユギ)

獨逸社會民主黨は、マルクスの農業理論——資本主義の法則は農業(資本家的經營の)をも支配するが故に、農業に於ても大農經營が小經營を征服し、農村の階級對立は大土地資本家と農業労働者の對立が激成し、一切の生産機關と共に土地を共有にすることが農業問題解決の途である——に従ひ、一八九

一年のエルフルト大會當時まで、此方針が傳統的に繼承されて来た。所が一八九三年以後ダウイッド、フォルマー等によつて小農經營が大農經營に征服されると言ふのは誤りで且つ現在小農は土地の公有よりも現狀に於ける改良を望んでゐると主張し、一八九四年のフランクフルト大會に於いて改良的政策を採用することになつた。これを農業改良主義といふ。

農業協同組合 (ノークイキョードクミアイ)

農村に於ける生産、消費、販賣等の協同組合(其項を見よ)で、(一)肥料、農具、種子及生活必需品の共同購入、(二)生産品の共同販賣、(三)機械の共同購求及共同使用、(四)農村共同倉庫の設置等を行ふ。大農、中農等を主とするもので日本の農業經營では餘り發達しないが、貧農の間には、(一)(三)の事業を主とする農村消費組合が對抗的に發達してゐる。

農業信用組合 (ノークイヨシヨクミアイ)

地主及自作農の保護組合で組合に對して勸業銀行農工銀行が不動産を擔保として農業用資金を低利で長期間貸付けるのである。この資金は、(一)土地購求資金、(二)土地改良費等が主である。政府の農業政策の一つである。

農業綱領 (ノークイヨリヨシ)

プロレタリアの農業政策の全部。マルクス・レーニン主義に基づいて日本の農業狀態、其の必然的發展の方向、労働者と農民の同盟、プロレタリアの革命運動との關係、ブルジョア民主主義革命に於ける農業のXX、及プロレタリア革命に於ける農民問題解決並農業經營の方針、富農の貧農の闘争方針とスローガン等を系統的に決定したもので、日本のプロレタリアートは明確な農業綱領を持つてゐないと言はれてゐる。しかし現に日本の農民運動は、プロレタリアとの同盟を固く結び、ブルジョア民主主義X

X(農業XX)を指し、立毛差押反對、耕作權の確立、小作料の減免、土地を農民へ、土地のXXXXをスローガンとして戰つてゐる。

農業政策 (ノークイヨシセイスク)

日本の農業は資本主義的に經營されるに至つてゐないので、資本家は、農業を資本主に順應せしめようと色々の方針を唱えてゐる。これが農業政策である。しかし、日本では、半封建的地主が存在し、土地を占有し、且つ小農生産であるため資本家的に經營しても利潤率は極めて低いため、農業の資本主義的經營は不可能であり、従て農業政策は、(一)資金の融通及地主に債券を買はせ又は豫金等をせしめて金融方面を順應さす、(二)肥料、農具等を資本の統制下に置く、(三)購買、信用組合等による自作農の保護等であつて、日本資本主義は農業問題を解決する能力を持たない。

農業保險 (ノイギョーホケン)

農業は自然力の變化によつて損害を受けるため、雹害、蟲害、不作、及家畜の病死等の損害から保護する爲に保険法を設け、之に農家を加入させる制度をいふ。最近農業政策家に依て論議とされてゐるがしかし、小作農は到底保険金を負擔する能力もなければ負擔すべきでもなく、當然、政府及地主が全額負擔すべきである。

農業マルクス主義論 (ノイギョーマルクスシュギ)

マルクス主義の農業理論。「農業改良主義」の項及「地代論」の項を見よ。

農業労働者 (ノイギョーロードーシヤ)

農業プロレタリアとも呼び、農業に雇傭される賃銀労働者で農村の最大の革命的要素。農業労働者は資本主義的農業に於いて始めて發生するもので、日本の小作人はこれではない。日本では農業労働者は

三十八萬人内外で、しかも、二三の大農經營以外には分散的である。歐洲諸國では農民の五十乃至七十パーセントは農業労働者であるが日本では約二パーセント弱である。

農奴 (ノード)

封建社會の農民がこれで、彼等は領主(地主)の土地の附屬物であつて移轉の自由がなく、且つ土地と共に賣買又は譲渡されたのである。日本では、平安朝の中頃から徳川時代に至る農民がこれで、收穫の六七割は採米として收奪されてゐた。——今日の小作人は賣買譲渡は禁止され移轉の自由は許されてゐるが、地主に對する年貢制度(現物被搾取)は農奴と同じである。

農奴解放 (ノードカイホー)

農奴の解放は、フランスに於ては一七八九年革命により、プロシアは一八〇七年に解放した。ロシア

では十五、六世紀頃より存在し、地主の土地附屬物として、最も慘虐な取扱を受け住居、結婚の自由は剝奪され銃首、鞭刑、弄玩は地主貴族の思ふままであつたが、カザリン二世の頃から猛烈な農奴反亂が起き、且つタミアア戦争の敗北によつて革命の勃發を恐れ、更に新興ブルジョアジの輿論に迫られアレキサンダー二世は一八六一一年農奴解放令を發布し、農奴を土地と共に賣買することを禁じ、自由民とした。しかし解放された農奴は、賃銀労働者となり或は小作人となつて搾取されるに至つた。

農民層 (ノイミンソウ)

日本の農家戸数は約六百五十一萬戸で、農業人口は一月當り五・七人とすれば約三千二百二十餘萬人である。耕作に従事せざる地主は九五六、〇七五戸でこの地主以外の農民を分つて、(一)大農、(二)中農、(三)小農、(四)貧農又は半プロレタリア、(五)農業プロ

コレタリアとする。(一)大農は自分の土地五町歩以上を耕作し、他人を雇傭し、且つ生活の源泉を利潤に求めてゐる者で、これが七四、九六〇戸、(二)中農は自分の土地二町以上五町迄を耕し自身及家族の労働が収入の源泉をなし、これが、四五九、八三〇戸、(三)小農は自家の労働を以つて一町以上二町以内を耕し、この部は自作約五九二、六八二月、小作約五九二、六八二月に分れてゐる、(四)貧農は殆んど小作によつて一町以下を耕し、且つ自家の労働力が約半分は過剩であつて、日傭又は季節稼に従事するもので、約三、八二八、三四一月、(五)農業プロレタリアは農業に従事する賃銀労働者で、三八四、九三六人現存してゐる。日本に於ける土地××的勢力はこれによつて見るも貧農層にあることが分る。

農民労働者 (ノイミンロードーシヤ)

日本農民組合の提唱にかゝり大正十四年八月十日

無産政黨創立準備委員會が成立し、結黨過程において連同盟が脱退し、政研が除外され、評議會も参加を見合せ、同年十二月一日結黨式を挙げ農民労働黨と名命したが結黨後三時間にして政府に暴壓され解散を命ぜられた。

農民協會 (ノーマンキョーカイ)

支那に於ける農民大衆の組織で、日本の農民組合に該当する。湖北、湖南、廣東等の各省に廣範に組織され、數百萬人の會員を擁してゐる。各地に於ける農村ソビエット及赤色農民軍は、この農民協會に基礎を置くもので、協會は農民の日常利益を擁護すると共に、支那共產黨の指導の下に軍閥並に國民政府に對してXの闘争を遂行してゐる。

農民大會 (ノーマンダイカイ)

農民の大衆闘争の一形態である。労働者の従業員大會から學んだ闘争形態であつて、小作料減免減税

等の爲の小作人大會、耕地不買、電燈料値下げ、米穀検査反對等の農民大會から、議會解散、村政刷新等の政治的大衆闘争及デモンストレーションの舞臺としてゐる。

農民代表者會議 (ノーマンダイヒョーシヤカイギ)

昭和二年の都市労働者の工代と一致して農民代表者會議が全国的に持たれた。當時耕作權の確立及數ヶ條の要求項目を決定して大衆闘争を組織し、以來具體的問題の生起した度毎に開催し農民大會、小作人大會、示威運動等によつて農民大衆を經濟的及政治的大衆闘争に動員すると共に、農村ソビエットの思想を學び取る舞臺として積極的に開催して來た。

[六]

排外主義 (ハイガイシユギ)

シヨールビニズムの譯。其項を見よ。

背教者 (ハイキョーシヤ)

マルクス主義及共產黨の信條に背反し裏切つた者を言ふ。背教者カウツキーといふが如し。

排日 (ハイニチ)

帝國主義日本の外國に對する侵略政策に對して他國で反對運動を起し、日本の政治的、經濟的勢力の侵略から防衛しようとする運動を排日といふ。もとアメリカへの移民に對しアメリカ帝國主義が日本人労働者の移民を排斥しこれを禁じたが、現在では主として支那に於ける打倒日本帝國主義の名に依て行れてゐる革命運動の一部がこれである。

敗北主義者 (ハイボクシユギシヤ)

(ハ)

階級闘争において、プロレタリアートがブルジョアに對して決定的に勝利(プロレタリアXXの獨立)することよりも、プロレタリア階級が敗北に終ることを望む社會民主主義者、改良主義者等は敗北主義者である。又これから、プロレタリアの勝利を望んでゐ乍ら、味方の闘争力を常に悲觀的に評價し、敵の攻撃に對して讓歩に讓歩を重ね、攻勢に出て敵を撃破することよりも守勢に出て退却しようとする者、及集中したる資本の總攻撃に對し、原始主義的舊い組織と戦術を以つて戦ひ、大衆闘争に反對し敵や社會の同情を求めらるることに吸々としてゐる日和見主義者及數十人の労働者がこん棒を以つて暴動を起し武装したるブルジョアの正規兵に立ち向かうとするような左翼小兒病者も亦敗北主義者である。敗北主義とは、戰略、戦術、組織、闘争方針等が、客觀的に見て、プロレタリアを敗北に終らしめ

るような言動を意味する。

白色テロル (ハタレシヨク)

帝國主義者の反革命的テロリズム。一九一九—二〇年ハンガリア革命失敗後に興つた白色テロル、一九二七年支那共産黨及プロレタリア大衆を襲つた蔣介石の白色テロル等は最も代表的である。テロリズムの項を見よ。

八時間労働制 (ハチヂカンロドローセイ)

元は労働者の過勞及失業者の増大を排除する爲一日の労働時間を八時間に制限する制度で(一)八時間のうちには食事、休憩時間を含み、一週四十八時間制である、(二)八時間以上の労働に對しては時間外の割増賃金を支給はしめ、時間外労働に従事するか否かは労働者の自由である、(三)晝夜運轉を要する産業は三交替制を採用する、(四)嶺山其他危険作業は六時間制を採用する。一八八六年五月一日米國の勞

働者が「八時間の労働、八時間の休養、八時間の睡眠」のスローガンの下に、八時間労働制實施の大罷業と示威運動を起し、一八八九年以來インターナショナルの運動とされメーデーの起源をなしてゐる。八時間制は米國では一八八六年の示威運動以來漸次獲得され、佛國は一八九九年に立法化され、歐洲大戦後、國際労働會議(ワシントン會議)の決議により一日八時間、一週四十八時間制が採用され二十ヶ國に批准され實施されたが、日本は特殊國として除外を求め實施してゐない。八時間労働制實施の結果、資本家は合理化策に依て、生産の能率増進及労働の強化を計り、従來の二倍三倍の能率を發揮させて資本の蓄積を行つたため、労働者の過勞及失業は急激に増し労働者の地位は低下せしめられるに至つた。従て一九二八年プロヒンタンは卒先して七時間労働制の實施を要求し、ソビエツト・ロシアは直ち

に七時間制を採用し、今日では七時間労働制の獲得が國際プロレタリアートの運動となつた。

友軍主義 (ハンゲンコンコクシユギ)

アンチミリアリズムの譯。其項を見よ。

反對派 (ハンタイハ)

幹部に對する反對派のこと。ロシア共産黨に於けるトロツキー、ジノビエフ、カールメネフ等の如く、各國共産黨内の極左翼及右翼派はこれである。之等は日和見主義の變種で今日では一掃されつゝある。又、改良主義組合内の反對派は革命的反對派であつて、これは階級的な運動である。

汎太平洋労働組合會議 (ハンタイヘイヨロロドロータミアイカイギ)

濠洲労働組合の發議により一九二六年支那、日本、ソビエツト聯邦、印度、南アフリカ、ヂヤヅア、南アメリカ、カナダ、合衆國及イギリス等の太平洋沿

岸の労働組合がシドニーに會合し、汎太平洋労働組合會議を創立する筈であつたが、開催し得なかつたので、一九二七年五月支那漢口に於て第一回を、一九二八年ウラジホに於て第二回會議を開催した。會議は太平洋沿岸の労働組合のインターナショナルでプロヒンタンの指導を受け、常設機關として書記局を設置し、書記局にはロシア、支那、日本、イギリス、アメリカ、フランス、朝鮮、ジャバ等の代表者が参加し、機關紙「パン・パシフィック・マンズリー」(太平洋工人)を月二回發行してゐる。日本政府はこの會議を極度に壓迫し代表派遣を禁じ、代表者を逮捕し、そのための運動を一切禁壓してゐる。汎太平洋労働組合會議の創立大會で、採用された綱領は、(一)太平洋沿岸の諸列強相互の戦争の危險に對して共同の闘争を遂行する、(二)支那革命を脅かす帝國主義的侵略と抗争すること、(三)太平洋の被壓迫民

衆を帝國主義の支配から解放するため、彼等のXX運動を支援すること、(四)搾取者と壓迫者の利益のために被搾取者及被壓迫民衆を分離せしめようとする一切の、人種的、國民的境界と偏見とに對して闘争し之を打破すること、(五)太平洋沿岸諸國に於ける被搾取階級の眞實の友愛的統一戦線を結成し、之を保持すること、(六)抑壓勢力に對抗するため被搾取階級及被壓迫民衆の間に、共同行動を組織すること、(七)世界労働組合の統一と、一大統一労働組合インターナショナルの設立のために戦ふこと。又、經濟綱領は、(一)八時間労働制の獲得(第二回會議で七時間労働制に改む)、(二)一週四十二時間制の獲得、(三)疾病、事故、瘧疾及び失業の場合の社會保險獲得、(四)婦人の夜間労働の禁止、産前八週産後八週の休暇、(五)搾取の目的を以つてする小兒賣買の禁止、十四歳以下の少年労働の禁止、(六)國內

及國際間に於ける同一労働に對する同一賃銀の支給(七)結社、集會、言論の自由、ストライキの組織實行の自由獲得、(八)労働組合選出の労働監督制の獲得、(九)體刑、罰金制の廢止、現物賃銀の廢止、請負制度の撤廢、(十)フアシズム及職業的ストライキ破りに對する闘争及労働ビケットの組織。

反帝國主義運動 (ハンタイコクシユキウンドー)

帝國主義及列強の植民地弱少國に對する侵略に對する闘争で(一)植民地、弱小國の革命運動、(二)自國に於けるプロレタリアートの侵略政策反對の闘争等に依て行はれる。支那、印度の革命運動は最近に於ける反帝國主義運動の代表的なものである。

反帝國同盟 (ハンタイコクサイドーメイ)

反帝國主義國際同盟(帝國主義及植民的抑壓反對國際同盟)の略稱。一九二七年二月十日—十四日にブラッセルに開かれた第一回反帝國主義者國際大會

に於て、滿場一致創立された。其の目的は、一切の被壓迫民族の解放運動の戦線統一、並に其の帝國主義諸國に於けるプロレタリア革命運動との結合である。大會には支那、印度、インドネシア、朝鮮、ベルシヤ、パレスタイン、メキシコ等の被壓迫民、及英、獨、米、佛、日、伊、白等三十七ヶ國の代表者が出席し、第二回大會には日本から千田(労働農民黨)奥野(日労働)の代表者が出席し、又、各國には支部を設置し、日本には反帝國同盟日本支部が存在し活動に闘争してゐる。

反動主義 (ハンドーシユキ)

プロレタリアートの運動を阻み、歴史の進歩發展に敵對する一切の思想を反動主義といふ。愛國主義日本主義から社會民主主義、社會フアシズムに至る迄色彩は異なるが何れも反動主義である。

反動同盟 (ハンドーダンタイ)

愛國主義、日本主義、XX中心主義を掲げてゐる國粹會、建國會其他の暴力團體等をいふ。

類項哲學 (ハンサツツガク)

スコラ哲學のこと。最初カトリック教會の教説を維持するために、アリストテレスの哲學を切り取つて來て理論化したのに始まり、現在では、既存の知識を新に穿鑿して哲學的小理屈を並べ籠辯を弄するのをいふ。この意味に於いて唯物辯證法以外の在來の哲學は凡て類項哲學といへる。

範疇 (ハンチユイ)

カテゴリーの譯。最も基本的な概念のこと。經濟學に於いて價値の概念は一の範疇である。普通哲學上範疇といふのは、經驗によらない先天的な純粹概念であつて、この純粹概念によつて經驗的判斷が可能であると言はれてゐる。最初に範疇を體系づけたのはアリストテレスで、本質、分量、性質、關係、

場所、時間、位置、状態、能動、被動を抽出したが其の後カントは純粹悟性概念として、(一)分量——単一性、多数性、總體性、(二)性質——實在性、否定性、制限性、(三)關係——屬性及實體性、(實體及偶有性)、原因性及依存性(原因及結果)、相互性(能動受動及交互作用)、(四)様相——可能性不可能性、存在性非存在性、必然性偶然性の十二を抽出した。

飯場制度 (ハンベサイド)

日本の鑛山及土木事業に於ける封建的搾取労働制度。雇主と労働者の間に飯場頭、納屋頭、部屋頭、蓋頭と稱する労働請負業者が存在し、飯場と稱する大労働合宿所を設け、こゝに労働者を收容して労働に服せしめ、賃銀の一部は親方によつて天引され、頭をはねられ、食事代、宿所代も亦不當高價で強制され、且つ労働者は暴力を以つて飯場から脱出することを阻止され、奴隷の如く自由を一切剝奪され強

制労働に服せしめられるのである。所謂「監獄部屋」の制度がこれで、資本家は飯場制度に依つて労働者の募集及雇傭、解雇の責任を労働者に對して負はず、苛酷に搾取し使役せしめ且職場に労働者をしぼりつけてゐるのである。日本鑛山労働運動の發展しない原因の一つはこの制度にも存し、飯場制度の撤廢は何れの労働者にとつても緊急のことである。

買辦 (バイベン)

支那に於ける外國資本家の代理人で、外國商品の受託販賣、原料品の賣渡し、外國金融資本家の支那への投資、貸付けの援助、在支企業の管理等を行ふ。支那の反帝國主義運動と共に買辦の打倒が叫ばれてゐる。

陪審法 (バイシヤウ)

裁判に人民の間から擧げられた陪審員を參加せしめ裁判官の審理に陪席せしむる制度である。日本で

は陪審法は大正十二年法律第五十號を以て制定され昭和三年十月より實施されてゐる。陪審法によれば帝國臣民の男子にして三十歳以上で二年以上引續き直接國稅三圓以上を納め、二ヶ年以上同一町村に住居する者に限定され、權能は單に裁判所の陪審に基づき犯罪事實の認定のみを評議して答申するだけである。又、治安維持法其他の階級的政治犯に對しては陪審法を適用しないことになつてゐる。要するに陪審法はブルジョア裁判を合理化するために資本家地主の代表者を審理に參與せしむるものであつて、最も發達したる資本家地主XXXXXX制度である。

バクロ (暴動)

階級闘争の一手段である。(一)政治的バクロ——個個具體的の政治的現象及政府の政策等を把えて、其のカタクリ、労働者農民に對する影響、ブルジョア

政治の本質等を大衆に判り易く指摘し、大衆の政治的反抗を煽動する、(二)經濟的バクロ——工場に於ける賃銀、時間、設備、解雇等の問題を把えて、資本家がどんな風に労働者を搾取し支配してゐるかを判り易く事實を以つて語り、資本家階級に對する階級闘争を煽動する、(三)社會民主主義者、改良主義組合幹部等の争議の抑壓、賣收、裏切の事實を把えて真相をバクロし、彼等は労働者の味方のような顔をしてゐるが本質は資本家の代理人でプロレタリアの最悪の敵であることをバクロし、組合等から放逐すること。要するにバクロは個々の現象を把えて資本家、地主、其代理人及政府等の全機構及本質を大衆の前にヒンムキ、何が大衆の敵で、何が企てられつゝあり、それに對してどう戦ふべきかを事實を以つて示し闘争要求を誘導するものであつて、バクロは煽動、宣傳と結合されねばならぬ。従つて、バク

は単に敵を馬倒し攻撃することではない。
フランス・オブ・パワー

勢力均衡と譯す。會つて國際間の政治的、經濟的勢力が一時的に均衡して國際平和が保てたとか、又は階級間の勢力が一時的に均衡して資本の一時的安定が保てたとか言ふたのはこれである。

パリケード

防塞と譯す。武力戦争において敵の銃丸を防ぎ闘争する保壁のこと。ロシアのプロレタリアはパリケードを築いて武装し十一月革命に市街戦を演じた等といふが如し。

バルチザン

ロシア革命の時活躍した不正規の農民軍。日頃は耕作に従事し、機を見て武器を執つて敵を攻撃するものであつて、反革命軍及日本軍などはこれに倒されたのである。

パニツク

「恐慌」を見よ。

パリ・コムミュン

普佛戦争(一八七〇—一八七一年)の結果フランスは敗北しナポレオン三世を廢し、共和制を採用した。斯る内亂の時、パリ市は武装して共和制を守つて来たが、王黨及ブルジョアジエはパリの武装解除を要求するに至つたので、パリの労働者は一八七一年三月十八日パリ・コムミュンを宣言し、中央政府の廢止、土地及資本の沒收、個人の自由を宣布し、市中の生産機關を管理し、軍隊、警察、法廷、教育の凡てを掌握した。コムミュンは一般投票によつて各區より選出された労働者委員会(又は労働者によつて承認された代表者)であつて、ソビエツトの最初の企てで、第一インターナショナルの指導があつたが未だ難多の分子を含んでゐたこと、プロ

てゐる。

ハンガリー・ストライキ

絶食同盟。階級闘争の戦士が投獄され拘引された時、不當な留置、待遇、野蠻なXに抗争するため絶食、絶水を以つて闘争する事である。(ハンガリー・ストライキの了つた後の食事は少量のカニ等を探り胃をならさないと健康を害することがある)。

半國家 (ハンコッカ)

ヘルプシュタットの譯。プロレタリア獨裁の國家即ち死滅してゆく國家を指す。(プロレタリア獨裁を見よ)

ハンガリー共産黨 (——キョーサントー)

一九一八年に創立され、一九一九年ハンガリー革命によつてソビエツト權力を樹立したが反革命によつて轉覆され、數萬の黨員は白色テロルによつて處殺される。併し、一九二五年大會を新に開催し、中央委員の選出綱領の決定を行ひ、以來黨は名實共に再建され、非法法黨として大衆的活動を活躍に進行し

[27]

罷業 (ヒギョー)

「ストライキ」の項を見よ。

罷業権 (ギヒョーケン)

ストライキの組織及行動の自由を法律上承認せしめたもの。罷業権は、労働者の團結權と共に獲得すべきで、罷業の自由のみならずストライキ破りの防止、示威運動の組織、資金の募集等一切罷業を遂行する上に必要なる手段の自由を包含せねばならぬ。又ストライキによる損害に對して労働者が責任を負はないのは當然のことである。

罷業基金 (ヒギョーキヤン)

労働組合がストライキの闘争資金として組合費の一部を常に積立てて置き、又は必要に応じて組合員から一定の罷業基金を徴収し、これをストライキの

費用に充當するのをいふ。この基金の支出は、(一)罷業中の手當、(二)罷業のための闘争費用であるが我が國では未だ罷業手當を組合員に支給する程の基金を擁する組合はない状態である。

罷業破り (ヒギョーヤブリ)

スカップの際。労働者がストライキをやつたとき会社は臨時職工を募集する、この場合会社に雇はれて働く者及爭議團の中から裏切つて就業する者、並鐵道、市電のストライキ等の場合、青年團、在郷軍人会、青年等が公共の爲になどと言つて臨時に車掌や運轉手になる者等。スカップは賃銀を貰はうと無給であらうと何れにしてもストライキを破壊し、雇主の利益を守るもので、労働者の最悪の敵で、卑劣の裏切り行爲である。特に失業者は罷業破りに利用され易いもので、失業者をも組合に組織しストライキに参加又は支持せしめると共に、スカップに對

しては特別の見張りと同争を行ふ自衛團を組織して對抗せねばならぬ。

被搾取階級 (ヒサクシユカイヤヌー)

「搾取階級」の項を見よ。

被選挙權 (ヒセンキョケン)

「選挙權」の項を見よ。

非常權方法 (ヒジョーケンリヨクホー)

一九二〇年十月英國のロイド・ジョージ内閣は、三角同盟のゼネ・ストを鎮壓し、革命運動を抑壓する目的を以て非常權方法(緊急權方法ともいふ)を發布し、食料水道、燃料、交通、運輸の機關が中止された時は、政府は一切の物質の徵發及人員動員の非常權力の行使をなすことを制定したものである。日本に於ける國家總動員計劃も亦之である。(其項參照)

非合法 (ヒゴーホー)

(27)

「合法主義及合法・非合法」の項を見よ。

非買同盟 (ヒバイドーマイ)

「ボイコット」の譯。其項を見よ。

秘密結社 (ヒミツケツシャ)

結社の目的、會員々數、組織、活動等が一切秘密にされてゐる團體。プロレタリアの非合法の團體は秘密結社ではあるが、即黨員名及何人の活動であるかは一切秘密であるが其存在見解及闘争は公然たるものである。又秘密結社は必ずしも非合法團體とは限らない。(合法・非合法の項を見よ)

必然、必然性 (ヒツゼン、ヒツゼンセイ)

必然とは、自然及社會に於ける事物の發生、發展——對立、轉化等の現象を一貫する法則であつて、個人の意識から獨立して不可避的な發展を遂げるものである。この法則を系統化したものが唯物辯證法であり、社會に適用したものが唯物史觀——歴史の

發展の必然性(階級闘争の必然性、階級闘争の發展により資本主義社會からXX主義社會への變革の必然性)である。プロレタリアは社會の現象及發展の必然性を認識して行動するのであつて、必然的なものは合理的であり合理的なものは現實的であり現實的なものは革命的實踐的である。(唯物史觀の項を見よ)

必要労働 (ヒツヨーロードー)

「剩餘價值」の項を見よ。

階級一翼 (ヒヤクショイツキ)

日本の封建時代に於ける領主の苛斂誅求に堪え兼ねた農民の暴動であつて、一種の農奴反亂である。封建社會に於ける階級闘争の現はれであるが、自然發生的無秩序な暴動である點がプロレタリアの革命運動と異つてゐる。

ヒューマニズム

「人道主義」を見よ。

日和見主義 (ヒヨリミシニギ)

オポチニズムの譯。機會主義とも言ふ。彈壓が加はれば闘争を中止し、彈壓がなければ闘争しようといふやり方で、階級闘争に於ける無原則主義、無理論主義に陥つて、裏切り行爲を後から理論づけて合理化して其場をゴマ化し、プロレタリアの決定的瞬間に裏切つて公然たる敵として立ち現はれるのが彼等の特徴である。日和見主義は従つて第二インターナショナルの社會民主主義、改良主義、合法主義(各項を参照せよ)の別名であり、共產主義右翼派及左翼小兒病も亦日和見主義の變種である。故に日和見主義はプロレタリアートの最悪の敵である。

比例代表制 (ヒレイダイヒョーセイ)

普通における代議士決定の一方法で、投票者の意志を最も代表せしむるため投票を候補者の所屬する

政黨に代表さす方法である。即ち各黨は一定の選挙區に於ける自黨の候補者に投ぜられた全得票数に比例して、其の選挙區の代議士数が決定されるのである。従つて選挙區は大選挙區制が最も普通である。又比例代表制には單記移讓式と、連記移讓式とがあり、何れも一の候補者は自己の得票数が法定當選得票に達すると、其れ以上の得票数を自黨の他の候補者に次から次へと移讓するのである。

實業 (ヒンノ)

「農民層」の項を見よ。

ビー・エル・ピー (B.L.P)

英國労働黨の略稱。

ピオネール

赤色少年團のこと。労働少年團とも言ふ。ロシアでは革命後一九二二年共產黨及共產青年同盟の指導の下に、八歳から十七歳までの男女少年を組織し、

これをピオネールと呼び、學校又は國家に附屬して共產主義的教育を施してゐる。ピオネールのメンバーは入團に際し、プロレタリアのために戦ふこと、レーニンの教え、及びピオネールの規律を守ること、誓約し常に新しい社會制度の建設者たるの誇りと任務を持ち、學校に於ける團體的作業と自治的活動の中心となり、社會の政治、經濟問題に對して諷刺たる興味を持ち、一日の課業のうち數時間は産業の發達に役立つ活動に従ひ又赤色スポーツによる體力の育成等に努めてゐる。かくて赤ネクタイをつけたピオネールは、共產主義の若き力のシンボルとなつてゐる。ロシアでは一九二二年の創立當時は一萬人のピオネールであつたが、現在では百五六十萬人に達してゐる。又、ドイツ、フランス其他各國の共產黨の存するところにはピオネールが組織され、ブルジョアジーの手にある少年團(ジャンボリー)に對抗し

て居り、日本でも東京、埼玉、山梨等の農民組合の中には労働少年團、又は全農少年部としてピオネール(赤色少年團)の組織の發展を見つゝある。

ピケツチンク
ストライキ見張りのこと。ピケと略稱しストライキに際し設けられ、罷業破りの防止、敵情視察等の任務を遂行する。

七時間労働制 (ヒチジカンロードーセイ)

國際プロレタリアートが在来要求してゐた労働時間八時間制(其項参照)であつたが、生産技術の發達、産業の合理化による労働能率の増進等によつて、在来よりも社会的生産能力を著しく増大せしむると共に失業者の増大、労働者の過勞を來し資本の搾取と支配を強め労働條件を相對的に劣悪化せしむるに至つたので、一九二八年コミンタンは在来の八時間制を改めて新たに七時間労働制の實施を國際プロ

レタリアートのスローガンに採用し、プロヒンダも本年の第四回世界大會に於いて労働組合のスローガンに採用した。以來各國の共産黨、赤色組合及全労働者の當面のスローガンとされ、労働者農民の國ソビエト・ロシアでは一九二九年より七時間制(鞍山其他危險作業は六時間制)を實施してゐる。日本では一九二八年×××によつて採用され、續いて日本労働組合全國協議會の行動綱領に掲げられ労働者大衆のスローガンになつてゐる。各國の進歩的ブルジョア及國際労働會議を始め第二インターナショナル及アムステルダム・インターナショナル系の各國社會民主黨及改良主義組合は、この七時間労働制に對立し在来の八時間労働制のスローガンを掲げて國際プロレタリアートの革命的大衆的闘争を裏切りつゝある。尙七時間労働制の實施は現下の國際的失業問題を解決する爲の最も重要な一手段である。

【フ】

ファシズム

ファシズムは歐洲大戰後の世界革命の時期にイタリアに出現したる反動的獨裁政治で且つ國際的現象である。社會階級の基礎は小ブルジョア、農民、労働貴族、在郷軍人、及將校下士、學生等で、理論的には社會民主主義の延長で其の變形されたもの即ち(一)小ブルの絶對國家主義、(二)資本主義的私有財産制の下に各産業を國家が監督指揮する、(三)労働組合はファシスト國家と資本家の下にのみ許され、ストライキは絶對に禁壓される、(四)階級闘争を否定し、共産主義を暴力を以つて抑壓する、(五)規律、訓練、義務、服従の觀念を養生し、暴力の福音を説いて、恐怖政治を行ふ等。イタリアに於けるファシズムは社會民主黨から除名されたベニト・ム

ツツリニ及ツラチ等の右翼改良主義者が歐洲大戰と共に本性を露出し、愛國者となつて在郷軍人、將士、學生、農民等を集め一九一九年三月「國士團」を組織し、一九二一年「ファシスタ國民黨」を結成し當時イタリアを震撼してゐた工場占領の革命の波に對抗し、一九二二年十月暴力によつて政權を奪取し、反動革命に成功し獨裁政治を布いて今日に至つてゐる。しかし、政權を奪取するや漸次大資本の用具と化し、金融大資本及國家資本主義トラストの專制的支配の一形態に轉化されるのである。要するに帝國主義の革命期に於てはプロレタリアが獨裁を樹立するか、左もなければファシズムの獨裁かの何れかの道を通るもので、社會民主主義は農業並に手工業の多量に殘存してゐる資本主義國ではイタリアの如き形態を、又全産業に亘つて資本主義的生産が勢力を占めてゐる發達したる帝國主義國(例へば

獨逸、イギリス、フランス等)では社會ファシズム(其項参照)として立ち現はれる。次にファシズムは白色テロルとは異つてゐる。

ファシスト

ファシズムを信奉する人。

フィジオクラツト

「重農主義」を見よ。

フエーダリズム

宿命論と譯す。アキラメ主義とも言ひ何事も運命だから不平や反抗をせずに従順にせよといふ佛教の教えなどはこれである。階級闘争の慶祥薬である。

フエビアン協會 (——キョーカイ)

英國に於ける社會改良主義の團體。一八八三年トマス・ダヴィドソンによつて創立され、後シヨ、ウエツプ等が参加し小ブルジョアの社會主義の理論を加へ、英國労働黨樹立に際し、有力な構成要素と

なつた。(イギリス労働黨及社會改良主義の項を参照せよ)日本でも大正十四年頃日本フエビアン協會が山崎今朝彌氏等によつて創立され、今日では社民、大衆黨の一構成要素となつて消解してゐる。

フエビアン主義 (——シユギ)

社會改良主義の別名。(其項を見よ)

フエミニズム

女性主義又は女權主義と譯す。婦人を封建的抑壓から解放し、戀愛、結婚、職業、教育、参政等社會の習慣及政治、經濟制度を男子と平等ならしめ、婦人を近代的資本主義制度に適應せしめようといふ主張で、婦人参政論者、自由戀愛論者、女權擴張論者等はこれである。バンクハリスト、エレン・ケイ等は其の代表者である。従つてフエミニズムはブルジョア自由主義の表はれでプロレタリアートの階級闘争における男女同權の思想及行動とは全く異つてゐ

る。

不換紙幣 (フカンシヘイ)

正貨(金貨)と兌換しないことを法律によつて規定して發行する紙幣。財政的窮迫を一時的に救はんために政府が發行するのである。(貨幣の項を見よ) 關本主義 (フクモトシユギ)

一九二五年から二七年まで日本X X Xの指導理論となつてゐた極左翼小兒病的哲學的日和見主義(新算主義、宗義主義)を指す。(宗義主義の項を見よ) 不在地主 (フダイヂヤシ)

自己所有の小作地の所在地に住んでゐない地主。資本主義の發達と共に土地は漸次都市の大資本家の所有に歸し、不在地主は増大する。

不換工 (フジユクレンゴ)

平労働者、下給労働者、平均労働者などといひ、手工業的熟練を要せず、大機械の廻轉に合せて(多

(フ)

(部分品製造に)働いてゐる大多數の労働者、即高給の役附職工等熟練工に對比して一般の労働者を指す。近代的労働者のうち最も革命的な基本的な層である。(熟練労働者の項を参照せよ)

婦人參政權 (フジンタンセイケン)

婦人に、男子と同等に國會、府縣市町村會の選舉權及被選舉權を附與し、且つ國家並自治體の政治機關に參與せしめること。婦人參政權獲得をのみ目ざす婦人の運動はフエミニズム(其項参照)であり、プロレタリアの階級闘争の一部として男女平等に選舉權被選舉權を與えよと要求し、男女の労働者が共同して闘争するのは共産主義並に革命的議會闘争の一手段である。

婦人問題 (フジンモンダイ)

婦人の社會生活に於ける政治、經濟、教育、結婚等の凡ての問題をブルジョア學者は婦人問題といふ

しかしプロレタリアには婦人のみの特有の問題はなく、それは労働婦人労働者の階級闘争の問題である。婦人労働者問題 (フジシロードレーヤモンドイ)

階級闘争における労働婦人の問題。資本主義は益益家庭から婦人を工場に奪ひ、労働婦人の数を増大する。婦人労働者の労働条件は最も劣悪で、日本では男子労働者の賃銀の約半額乃至三分の一であり、紡績、製絲業等は殆んど婦人労働者によつて生産してゐる。そしてこれらの婦人労働者は寄宿舎に監禁されてゐるのである。又産業の合理化は益々賃銀の低劣な、しかも資本に對する抵抗力弱き婦人労働者を採用し労働条件を悪化させつゝある。又婦人は男子労働者と生理的條件を異にしてゐる。従つて、労働運動に於ては婦人労働者の労働条件及母性保護のため、(一)男女同一労働に對する同一賃銀の支給、(二)深夜業坑内危険作業の禁止、(三)男女七時間労働制の實施、(四)産前産後各八週間及月経時の公休(給料付)、授乳時間、休養時間の給與、衛生、保険設備の改善等を要求して職ひ、又黨、組合等の活動に積極的に婦人労働者の参加を求めてゐる。従つてプロレタリアートは婦人労働者のみの組織と闘争に反對し、男子労働者と同一の組織活動を要求して婦人の解放のために戦つてゐる。

婦人参政権の略。其項を見よ。
普通選挙の略。其項を見よ。
不戦條約 (フセンデローヤク)

非戦條約又はケロッグ・ブリアン條約ともいひ、一九二七年八月二十七日パリに於いて、世界十五ヶ國の全權が署名調印し、一九二九年七月二十五日から宣布された不戦條約を指す。條約の骨子は「(一) 一定の年齢(青年以上)に達した男女に、納税、財産、住居等の制限なく平等に選挙權、被選挙權を與へ國會に参加せしむる選挙制度をいふ。日本では男子のみの普通(住居其他の制限が存するが)が實施され昭和二年及五年の二回の選挙による總選挙を行つたが、これに對しプロレタリアと農民は「男女十八歳以上の者に選挙權被選挙權を與へよ」と要求して戦つてゐる。(選挙法の項を見よ)

國際間の紛争解決のため戦争に訴へることを非とし國策の手段としての戦争を放棄することを各國人民の名に於いて宣言す、(二)締約國相互一切の紛争の解決、處理は平和的手段による外に如何なる解決をも求めず、(三)締約國は戦争に訴へざる義務を受諾し、違背したる時は本條約の保護から除外される、(四)戦争とは、侵略的戦争に限られ正當防衛權の行使はこの限りに非ず」といふにある。ソビエツト・ロシアは不戦條約より各國は軍備全廢を行へと世界のプロレタリアート及農民に訴へたが、帝國主義各國はこれに反對し、間もなくロンドン軍縮會議を開値して軍備の擴張を開始し、帝國主義戦争を益々準備しつゝある。不戦條約はかくて全く空文に終り、又帝國主義の支配する限り、戦争は不可避となりつつある。日本では不戦條約の調印に際し、「人民の名に於いて」の文句が君主制の大權に違反するものであ

るとして問題を起し、別に宣言を附帶して昭和四年六月二十七日批准簽下した。
普通選挙 (フツイーセンキョ)

不買同盟 (フバイドゥーメイ)
「ボイコット」の項を見よ。
不買資本 (フヘンシホソ)

「資本」の項及「剩餘價值」の項を見よ。
フラタシヨソ

分派と闘す。X X的黨及組合が右翼改良主義團體内にオルガナイザーを派遣し又は養成して、其の團體内で活動せしめて革命的勢力、影響力を強めるために分派を構成する。之をフラクシオンといふ。フラクシオンは他の團體内に於ける一定の組織であつて、フラクシオン委員会を構成し、フラクシオンピエローによつて統一され且つ革命的團體の統制下に屬し統一の方針に基づいて活動し獲得したる大衆を革命的團體に組織化することに努力せねばならぬ又フラクシオンの組織は一定の條件の下では自衛上秘密であつて、しかも闘争は公然である。

フランス革命 (——カクメイ)

一七八九年七月十四日バステリーの牢獄破壊に端を發し、「自由、平等、博愛」「王朝廢絶」をスローガンとするフランスのブルジョア革命で、近代のブルジョア民主政治の幕を開いた革命である。一七八

九年ルイ十六世のとき、ルツソー、ボルテール、モンテスキュー等の思想に表現さるフランス・ブルジョアジーは、貴族、僧侶、諸侯の暴虐政治に反対し、遂に平民の代表議員のみを以つて國民議會を組織した。これに對しルイ十六世の政府は暴虐を加へたので、武装した市民はバステリー牢獄を破壊し、革命の烽火を擧げ、國民議會は人権宣言(其項を見よ)を發表し、一七九一年立法議會を召集し、共和主義の新憲法を制定し、ルイ十六世の王權を剝奪し、行政、司法、宗教等の權力を奪取し、ジロンド黨、山嶽黨の共和黨は九二年九月の新憲法による議會で王制廢止、共和制の實施を公布し、ルイ十六世の罪過を審議し、一七九三年ルイ廢帝は死刑に處せられ斷頭臺の路と消えた。ところがこの國王處刑の報が外國に傳はるや歐洲列強は之に反対し、國境に軍隊を集中して来たので、共和黨は對抗上保安委員會と革

命裁判所を設置し獨裁政治を取行したが、エベールダントン、ロベスピエールの間に激烈な抗争が起き、捕縛投獄、死刑等が繰返され、ナポレオン一世等によつて政權が專斷され、一七九五年都督政府が成立し革命は終つた。しかし此の革命以後フランスを始め歐洲はブルジョア民主主義の勝利となり、革命を諸國に生み、ブルジョアジーの社會となつたのである。

フランス共産黨 (——キョーサントー)

フランス統一社會黨の左翼革命派は、歐洲大戦中戦争に反対し右翼の裏切りに抗争し、又チメルブルト會議(別項)に参加して闘争して来たが、一九二〇年ストラスブルグ大會で第二インターナショナルを脱退してウィーン・インターナショナルに加盟したが、同年十二月大部分はコミンタール加盟を決議し、こゝにフランス共産黨を樹立した。(後つたもの

は社會黨となる)同黨は一九二一年五月正式に創立大會を擧げ、當時黨員約十三萬人、代議士十三名を有し、日刊「ルニーマニテ」を發行し、現在黨員約八萬三千人で赤色組合C.G.T.Uの支持を得てゐる。

フランス社會黨 (——シヤカイトー)

フランスには社會黨は、「佛國の社會黨」(一九〇一年創立)、「フランス社會黨」(一九〇二年創立)があり一九〇五年合同してフランス統一社會黨(P.S.S., F.I.O.)となり、此黨は内部的統一なくゲード派ブランクヤール派、ブルス派、デョーレス派、獨立社會主義派、共和社會主義派の各分派に分れてをり、又ミラン、ブリアン等は一九一一年に社會主義共和黨を組織するなど、フランスの社會黨は小分派の離合のうちにあつて、歐洲大戦に至るや資本家政府と協力して戦争を支持し反動化するに至つた。一九二〇年ウィーン・インターナショナルを脱退したる左翼

派はフランス共産黨を樹立し、右翼は社會黨として
 残りブリアン、ミルラン等は聯立内閣に参加し、一九
 二〇年頃の世界革命期におけるフランス労働者のゼ
 ネ・ストが大示威運動に對し、軍隊を差し向けこれ
 を鎮壓するなどして社會黨は各派とも全く資本の用
 具と化した。現在第二インターナショナルに屬し黨
 員約五〇萬、二八年の總選挙には一〇一名の代議士
 を選出した。

フランス統一労働同盟 (——トリーツワロドロー
 ドーメイ)

「レー・ジー・テイ・ニュー」を見よ。

フランス労働同盟 (——ロードロードローメイ)

「レー・ジー・テイ」を見よ。

フリーエ主義 (——レニギ)

「空想的社會主義」の項を見よ。

澤渡 (フロロザイ)

労働者農民に對する暴壓法の一つ。治安警察法第
 一條第三項「一定ノ住所又ハ生業ヲクシテ諸方ニ律
 制スル者ハ三十日以内ノ拘留ニ處ス」といふのがこ
 れである。

不勞所得 (フロリシヨトク)

資本家、地主の搾取しつゝある剩餘價值——利潤
 地代等。生産的労働に服することなくして得る所得
 (收入)を不勞所得といふ。

武装暴起 (フソーパーキ)

労働者、貧民が政治經濟が極度に動搖しつゝある
 革命期に於いてXXを掌握するため、及プロレタリ
 アXXを維持するために武器を執つて大衆的に立つ
 ことを武装暴起といふ。武装暴起の時期は革命の時
 間であり、反革命を全く鎮壓するまでは如何なる場
 合でもXX××××してはならないと言はれてゐる。

武装労働同盟 (フソロードローレンメイ)

大正十四年五月浦賀ドック工愛會(大正十年組織)
 横濱ドック工信會(大正十三年創立)の二組合の聯
 合體。組合員五千五百八十名。月刊雜誌「武相聯盟」
 を發行し、社會民衆黨及國際労働會議を支持す。

原籍 (フタバコ)

警察署の留置場のことをいふ。

物價 (フツカ)

物價とは一定の貨幣單位が幾何の商品量に相當す
 るかを云ひ表はしたもので、價格は反對に或量の商
 品が幾何の貨幣量に相當するかを言ひ表はしたもの
 で兩者は異つてゐる。

物價騰落 (フツカトトラク)

物價騰貴と下落との現象をいふ。物價は貨幣が膨
 張するか、供給が過少で物資が缺乏すれば騰貴し、
 その反對の場合は下落する。物價といふのは原料品
 と生活必需品とを含むが、普通物價の騰落を云ふす

る場合は食料衣服等の日用生活資料を指すのであ
 る。ところが生活資料の騰落の問題は直ちに貨幣の
 騰落に關係するのである。然し、貨幣を支配し、價
 格を支配するのは獨占資本家である。だから資本家
 は物價が騰貴しても貨幣をそれに應じ、同時に同等
 の率に引上げはしないし、貨幣を低下させても物價
 價を下落しようとはしない。逆に物價の騰落を利用
 して過剰利潤を獨占し資本の蓄積を計るのである。
 ことに全労働大衆の窮乏化と、全社會生活の動搖が
 必然に現はれるのである。

物々交換 (フツフツココカン)

貨幣の仲介を經ないで直接物と物、例へば米と布
 とを交換することを物々交換といふ。交換の原始的
 形態で、原始社會に於いて行はれてゐた。

ブラツク・リスト

黒表。警察の要觀察人名簿及會社が作成する組合

及争議調停部や職間的労働者並共産主義者等の名稱のこと。警察や会社はブラツク・リストを廻し合つて、前衛の檢舉、X X的労働者の雇傭の拒絶又は解雇を行ひ労働者を壓迫するのである。

フランキー主義 (フランキーシュユギ)

一揆主義又はブツシズムともいふ。「一揆主義」の項を見よ。

ブルヂョア

「資本家」の項を見よ。

ブルヂョアジ

「資本家階級」の項を見よ。

ブルヂョア革命 (——カクメイ)

フランス革命、日本の明治維新等の如く在來の封建的政治組織を破壊し、既に發達し來つたブルヂョアジの經濟的構造に政治組織を適合せしめ、議會政治に依つてブルヂョアが支配權力を確立した革命を

いふ。(プロレタリア革命)の項を参照せよ。

ブルヂョア・民主主義革命 (——ミンシュユキカクメイ)

一種のブルヂョア革命を意味してはゐるが、之はプロレタリアートの革命的目的、戰略から規定した言葉である。即ち一國の資本主義の發展の條件によつて、當該國の來るべき革命は、プロレタリア獨裁の革命であるか、ブルヂョア・民主主義革命であるか、民族革命であるかを規定する。このブルヂョア民主主義革命といふのは、(イ)資本主義が未だ高度に發達してゐない半農半工業、(ロ)工業方面は高度に發達してゐるが大半を占める農業は未だ資本主義化せられず且つ封建的政治制度が残存してゐる國等に於いて、プロレタリアートが農民其の他の同盟軍と共に地主並び資本家の權力をX Xし、農業革命及政治的自由を獲得して、プロレタリア革命を遂行せ

んとする戰略的規定である。斯る戰略を立つるのはプロレタリアートが未だ多少の権力を掌握し得ない客觀狀勢にあるからである。又、ブルヂョア民主主義革命でも、(イ)(ロ)の場合では大變異つてをり、(ロ)の場合は急速に直接的にプロレタリア革命に轉化する條件を具備してゐる。

プロツク

元來は一つにかたまることといふのだが、多くの場合異つたものの結合、聯合、同盟を意味する。日本の政權は資本家と地主の反動的プロツクによつて掌握されてをり之に對してプロレタリアートは農民との同盟(プロツク)を以つて對抗せねばならぬとか社會民主主義者、官僚、資本家のプロツクによつてストライキが破壊されたとか、ドイツはブルヂョア黨と社民黨のプロツクの下に政權を維持し聯立内閣を組織してゐる等といふ風に用ひる。従つてプロツク

は一の階級が單一組織に結合することではなく多少の利害の相違はあるにしても、他の強大な敵に對抗するため基本的に利害が一致する階級間及團體間が相互の利益を維持するために結ぶ同盟である。

分割支配 (フンカツシハイ)

支配階級が労働組合運動をX X主義運動から切り離して取締り、或は組合は改良主義的經濟運動のみ極限せしめたり、社會民主主義運動を助成する等して無産階級運動の内部的分裂と抗争を助成し、無自覺分子を懐柔し去勢して資本の用具たらしめ、他方革命的自覺分子を弾壓し、處刑し或は労働組合を對立せしめて、ストライキを破壊せしむる等資本家並に政府の各個擊破の政策をいふ。支配階級の分割支配に對抗するには、労働者農民は革命的統一戦線を形成して闘争せねばならぬ。

分割 (フンギョー)

生産行程における労働の分割の意味で、社会的分業と工場内の分業の二つがある。前者は或労働は米を他の労働は布を更に他の労働は機械をといふ風に分業し、後者は一つの器具を作るに或る労働はネジを他の労働は車を更に他の労働は鐵板をキルとか言ふ風に、各々部分品の製造を分擔しそれらが合一されて一つの品物を完成し、それらの品物が全部よつて社会的生産物の全體を構成するのである。分業の發達は生産力の發達の條件であつて、機械工業の發達によるものであり、且つ分業の結合は個々の労働の單なる集合ではなく、社会的な有機的結合を意味するものである。

分析 (フンセキ)

対象又は現象をその構成要素に分解し、各要素間の關係、基本的要素等を明確ならしめる事を分析といふ。この分析によつて、基本的要素の必然的法則

性を發見し、この法則の下に他の要素を加えて統一的全體を作ることとを綜合といふ。

分配 (フンバイ)

経済的活動上の分配の意で、(一)労働の分配(二)生産機關の分配(三)剩餘價値の分配等が之である。社会的生産に参加する諸要素—即ち労働力、資本、土地の所有者に對して—労働者に對して労働力が支拂はれ、資本金家及土地所有者に對しては利子、地代、利潤が分配されてゐる。ところが労働は前貸したる労働力の價格の回收であつて之は生産物の分配ではなく、結局分配は資本及土地所有者に對する剩餘價値の分配を意味する。労働者は何等の分配にもあづかることなく、生産による剩餘價値は利潤、利子、地代として、企業家、金融業者、地主の間に分配されてゐるのである。

分業政策 (フンレツセイサク)

「分割支配」の政策を分業政策といふ。(其項を見よ)

分業主義 (フンレツシユギ)

「宗派主義」の項を見よ。

文化 (ブンカ)

通俗的には、社會の進歩發達の状態を文化といふ。未開、野蠻の反對で文明と同じ。

學術的には、リッケルト等の新カント派が、價値哲學(唯心論)を歴史の上に適用し、文化價値なる概念を構成し、これを以つて社会的價値判斷の基準たらしめ、「人間は如何にあるべきか、如何に行爲すべきか、社會は如何にあるべきか」等を研究し、かゝる學問を文化科學と呼び、世界は文化科學の對象であつて、自然科學とは方法に於ても對象において異つてゐると説くのである。勿論かゝる説はブルジョア哲學であつて、マルクス主義の唯物辯證法及唯物

史觀に對立する反動哲學である。

ブチ・ブルヂョア

「ホブルヂョア」の項を見よ。

ブチ・帝國主義 (——タイロクシユギ)

高橋龜吉氏が日本は帝國主義國だが、米、英等と比較すれば小帝國主義國であつて、大帝國主義國の勢政と支配を受けてゐると説き、以て排外主義と愛國心を鼓擧する爲に力説した反動理論である。帝國主義の概念は世界的範疇であつて、資本主義の國家概念と異なり、且つ、日本は矛盾こそ多いが三大強國の一つで帝國主義國であることは言ふまでもないこととて、ブチ・帝國主義論は理論的にも實際的にも誤謬である。

ブラダマチズム

實用主義又は實利主義と譯す。

ブレシデニウム

中央常任執行委員會又は常任執行委員會のこと。

ブレブス・リーグ

英國に於けるマルクス主義を率ずる労働者教育團體で平民聯盟と譯す。一九〇八年十月ラスキン大學の學生及校友の進歩的分子を以つて組織し、大學の教育方針に反對し「労働者の利益のための労働者の教育」を目的としてゐる。イギリス労働組合評議會等の後援を受け、労働大學と密接な關係を保ち、會員約二千名で雜誌「ブレブス」を發刊してゐる。

ブレミアム

割増金のことをいふ。

プロカルト

「プロレット・カルト」を見よ。

プロバガンダ

「宣傳」の項を見よ。

プロヒンダーン

「赤色労働組合インターナショナル」の項を見よ。

プロレタリア

労働者階級と譯されてゐる。賃銀労働者のこと、土地、生産機關（機械工場等）原料等を一切所有せず、たゞ自己の労働力を資本家に賣渡すことによつてのみ生活資料を得てゐる階級である。即ちマルクスは「プロレタリアとは經濟的に、資本を生産し増殖し、資本家の價值増殖慾望にとつて不用となるや否や驅逐される賃銀労働者である」と言つてゐる。然しプロレタリアこそ、資本主義社會に於ける唯一の基本的生産階級であつて、人類の社會的生活を存負つて立ち、指導的任務を持つものであり、又本質的に革命的實踐的階級である。

プロレタリア革命（——カクメイ）

プロタリアリートがブルジョアジーの政治權力を

XXXX、プロレタリアXXXXX主義社會を建設する革命をいふ。ロシアの十一月革命はこれである。スターリンはプロレタリア革命の特質をブルジョア革命と對比して次の如く説明してゐる。(一)ブルジョア革命は既にそれ以前に成熟した資本主義形態が存在してゐるときに始まるのであるに反し、プロレタリア革命は社會主義形態が、ほとんど出来てゐない時に始まる。(二)ブルジョア革命の根本問題は權力を把握して、それを現存のブルジョア經濟組織と一致させるにあるが、プロレタリア革命の根本問題は權力を掌握して、それによつて新しい社會主義經濟を樹立することにある。(三)ブルジョア革命は普通權力を握ることによつて完全に終結するが、プロレタリア革命では權力把握はまだ開始であつて把握された權力は舊い經濟の改革と新しい經濟の組織のための標杆となる。(四)ブルジョア

革命では一つの搾取階級を他の搾取階級に代置するにあつたから舊い機關は破壊せずに使用出来るが、プロレタリア革命では力によつて、搾取階級をXXXX、プロレタリアがXXXXであるから、舊機XXXX、新しい機關を代置しなくては不可能である。(五)ブルジョア革命は労働者や被搾取階級の大家をいつまでもブルジョア周圍に結合さすことは出来ない。それは革命後でもブルジョアは彼等に労働を強制し、搾取を止めないからである。これに反し、プロレタリア革命は労働者や被搾取階級を緊密に結合させることが出来るし、又さうさせなければならぬ。

プロレタリア藝術（——ゲイジュツ）

藝術（文藝、美術、映画、劇、音楽、歌、詩等）も亦階級性を持つてをり、ブルジョアにはブルジョア特有の藝術が、プロレタリアにはプロレタリア特

有の藝術が存在する。プロレタリア藝術は、プロレタリアートの生活過程、生産過程、並に階級闘争過程から成長し発展するものであつて、かかる藝術はプロレタリア黨のものでなければならぬし、又プロレタリアが權力を掌握した後においても社會主義的生産過程及政治經濟組織のXX主義的建設事業のうちから、常に新しく生々とした姿を以つて、發展せしめられねばならぬ。(ナツプの項を参照せよ。)

プロレタリアート

「プロレタリア」を見よ。プロレタリアの階級 (ドクサイ)

ドイツレーニン主義に反対して、社會民主主義者カウツキーは、純正デモクラシーの國家が過渡形態であつて、ブルジョア議會に労働者が多数を占め議會によつて、社會主義的建設を平和的に行ふのであると稱して、プロレタリア獨裁を否定してゐる。假りに議會でプロレタリアは勝利を得たとしても、行政機關、司法、軍隊、其他の一切を掌握してゐる者は、ブルジョアであつて、プロレタリアは決して政權を掌握し得ないし、又デモクラシーを通じて行ふ獨裁はブルジョアの獨裁の形態である。プロレタリア獨裁はXX黨とプロレタリアートのヘゲモニーの下に階級的強力を以つて行はねば不可能であ

リ、カウツキー及社會民主主義は、この問題に於いて全くブルジョアの代辨者であることを明らかにした。(プロレタリア革命の項を見よ)

プロレット・カルト

プロレタリアン・カルチエアの短語。労働者教育又は無産者教育と譯す。無産者の革命的教育の事。この語の創出者であるイギリス共産黨員ポールは其著「プロレット・カルト」に於て、「XX的目的、傾向がプロレット・カルトの主要特徴で、教育のための教育ではなく、革命的目的のための教育である」戰間的教育としてのプロレット・カルトは階級闘争の概念を基礎とし、労働者をして階級意識に目覺めしめ、かくして彼等に彼等の歴史的使命——資本主義の終局的崩壊及無階級國家の創始——を達成せしむる知識と戰間的衝動とを與へることである」と言つてゐる。プロレット・カルトの機關は英國に於けるブレ

家權力を確立し、プロレタリアがXXして反革命を鎮壓し革命裁判等により他の階級を壓服し、他方社會主義經濟を樹立し、遂には階級をXXし、XXXXせしめることをプロレタリア獨裁といふ。プロレタリア獨裁は、反對階級の勢力の如何により、武力的支配の時代と社會主義的建設の時代の相異はあるが、本質的にはプロレタリアが權力を掌握してゐる點によつて同一であり、そこにはブルジョアの意味の自由は、少しも存在しない。マルクスはプロレタリア獨裁について「資本主義社會と共產主義社會との間には革命的變革の時期がある。これに對應してまた政治的過渡期が存在する。その過渡期の國家はプロレタリアの革命的獨裁以外のものではあり得ない」(ゴータ綱領批判)と言つてゐる。レーニンは更に獨裁論を發展せしめ、プロレタリア獨裁は、プロレタリアートが(即ち共産黨の闘争と指導の下に)

プス・ワラダ、労働大学等はこれであるが、日本では未だかゝる労働学校は殆んど存在してゐない。且つ、労働者の革命的教育は労働学校に限ることなく、反對に大衆闘争のうちから——労働組合の闘争の中や工場内の闘争や會合の中で、實際的に革命的に教育し、訓練されなければならぬ。

ブラウダは全聯邦共産黨の中央機關紙。ブラウダは眞理の意味で、一九一二年以來ボルシェビキの機關紙として發刊され、數回政府から發行を禁止されたが其都度「何々ブラウダ」として續刊し又ケレンスキー政府の手によつて閉鎖されるに至つたが十一月革命後公然と再刊され、現在黨の中央機關紙として百十數萬部を發行してゐる。尙イスベスチヤ紙はソビエト政府の機關紙である。

プロテスタ

大衆的抗議又は抗議文のこと
文書會議 (アンレヨカイギ)

白色テロルや政府の極度の暴壓の下に、黨又は組合の會議を正式に代表者が集まつて開くことが出来ない場合、文書による大會又は會議を一定期間内に召集し、議案及報告書を提示し、これを基礎として各々討議し、賛否又は訂正を文書を以つて中央部に提出させる。中央部は之を一定期間内に整理し黨又は組合の決議及方針として發表するのである。プロレタリアは如何なる暴壓の下でも代表者を集めて非合法的に會議を開くことを習得せねばならぬもので特別の場合以外は文書による會議は許されないのである。

【7】

平價 (ヘイカ)

「爲替相場」の項を見よ。

平均利潤率 (ヘイキンリジユンリツ)

剩餘價値の搾取率は同一であつても、資本の有構的構成(可變資本部分と不變資本部分)を異にする事に依て、利潤率は異なるが、他方資本は利潤率の高い方へ流動し、利潤率低き企業の生産は減少し、高き企業の生産は増大し、そして市場の物價は生産が過剰になれば下落し、生産が過少になれば騰貴するから結局、自由競争の存する限り、各企業とも社會的には略ぼ平均の利潤を得、資本の利潤率は平均される。これを平均利潤率といふ。(剩餘價値の項参照)

平民社 (ハイミンシヤ)

明治三十六年十一月堺、幸徳氏等によつて週刊新聞「平民」を發行し、日露戰爭中非戰論を唱え、自由、平等、階級打破、生産機關の社會化等を主張し三十八年一月發行停止を命ぜられ、直ちに週刊「直言」を發行したが再停止され、十月九日遂に解散の止むなきに至つた。

平和堂議 (ヘイワシユギ)

自由、平等博愛を唱え、人道主義の立場から戰爭にも反對するが階級闘争や革命にも反對する。戰爭によつて最も打撃を受ける輕工業資本家及都市小ブルジョア等の思想である。又、最近では軍縮、平和會議等各國の大資本の代理人達は平和主義の假面の下に資本による侵略戦を開始しつゝある。

ヘゲモニー

覇權又は指導權と譯されてゐる。ヘゲモニーの思想はプロレタリアートの歴史的任務、地位、役割か

ら生れたもので、プロレタリアートこそ、階級闘争に於ける農民、其他被抑壓民衆の指導者であると革命の立役者であり、X X主義社会建設のための指導者であるからである。又、プロレタリアートのヘゲモニーの確立は、プロレタリアートの獨立的革命的闘争によつてのみ確保し、それは共産黨のヘゲモニーを意味する。X Xこそはプロレタリアートの全利害と使命を負担するものであり、プロレタリアートの全利害と解放とは、農民並被抑壓民衆の利害と解放を意味するからである。従てプロレタリアートのヘゲモニーを否定することは、社会民主主義の一特徴であり、ブルジョアジーの代弁者である。

ヘーゲル學派 (——ガクハ)

ヘーゲルの哲學(主として思考の辯證法的发展)を繼承した學派のことで、左派はフオイエルベツハ、シュトラウス、パウエル、ルীগ等であり、右派は

グシニル、ガブレール派であり、中央派はガンス、ローゼンクラツ、フィシャー等である。左派は、唯物論又は感覺論を唱え、右派の有神論、宗教論に對抗したのである。

米價調節 (ペイカチョーセツ)

米は生活必需品であり、米價の騰落は實銀に關係し、且つ米價の騰落は地主の利益を動搖せしむるので、最近政府は外米の輸入、又は米穀買上等によつて米價を調節し、國民生活の安定の名において地主及大資本家の利益を擁護してゐる。特に地主に基礎を多く持つ政友會は、米價調節を政策の一つに掲げてゐる。

米國共産黨、米國労働聯合會 (ペイコクキョーサン)

ト、ペイコクロードローレンゴカイ)「アメリカ共産黨」「アメリカ労働聯合會」の項を見よ。

ベルリン會議 (——カイギ)

一九二二年四月二日より、第三、第二、第二半インターナショナルの共同に依て開催された聯合會議である。會議はヴェルサイユ平和條約放棄の可否、第三の細胞組織及エス・エル黨員逮捕問題、共同職權樹立問題等を討議し、(一)組織委員九名を挙げ、具體的に合同會議の準備をなすこと、(二)同委員會は赤色インターナショナルとアムステルダム、兩インターナショナルの合同による統一インターナショナルの創建を幹旋すること、(三)八時間労働制、失業反對、職權統一、ロシア革命防衛、ロシア飢饉の救済、労働ロシア承認等の爲に國際的に示威運動を行ふことを決議した。併し第二インターナショナルの裏切りによつて、この決議及委員會は放棄された。

便衣隊 (ペンイタイ)

平服隊ともいふ。普通の服裝をした軍隊の一部が

ピストル、バク弾で武装して分らないように敵地に潜入し、一般民衆の中に混入してゐて、内部擾亂、動亂又は大衆の反抗等の煽動を行ふと共に、機を見て一齊に敵を武力攻撃し、主要機關を占領し、内部から敵を撃破する特別軍隊である。支那革命において盛んに活躍してゐる。バルチザンも亦一種の便衣隊であるが、何れも正規軍の補助的部隊である。

辯證法 (ペンシヨウホー)

デアアレクタイークの譯。

辯證法は思考の法則であつて、プラトン、アリストテレス、カント、フイフテ、シェリング等によつて企てられ、ヘーゲルによつて、系統的に完成された。ヘーゲルに従へば、自然と精神は絕對的理念の内部的發展であつて、一體系内に包括され、精神が此絕對的理念を實現するのは、理念の活動及發展の法則によるもので、精神がこれを實現する發展的方法

の原理を辯證法といふのである。即ち、一の思考は自己以外のものを否定して定立し、こゝに自己を否定する反對の思考が顯はれ、この二つの矛盾する思考の對立によつて、兩者は更に高給な新な思考に綜合(統一)されて、矛盾は解決され高き發展を遂げる。かゝる發展過程「正」——「反」——合、言ひ換えれば「肯定——否定——否定の否定」を経て思考は絶えず低きものより高きものへ、不完全なものより完全なものへと發展するのであるといふのである。然るにヘーゲルにあつては、實在の世界は觀念(理念)の顯現であるから、觀念の發展は世界の發展を意味し、ヘーゲルの辯證法は觀念による世界の發展法則だといふことになる。このヘーゲルの唯心的辯證法は、ヘーゲル門下のフオイエルバツハ等の唯物論者に依て否定され、マルクスは更に之を否定し、「ヘーゲルの辯證法を顛倒」して唯物辯證法を發見したのである。

今日吾々が普通辯證法といつた場合、この唯物辯證法を指稱していふのである。(唯物辯證法を参照せよ。

辯證法的唯物論 (ベンシヨールホーテキニブツロン)

「唯物辯證法」を見よ。

【ホ】

ホイットレー式工場委員會(——シキョージョーイイ
ンカイ)

「工場委員會」の項を見よ。

保險 (ホケン)

保險は、人間が自然的、社會的災害の苦痛から脱れるための一種の相互扶助機關であるが、しかし、ブルジョア社會では主として金融資本家が、保險金を取つて貨幣を大衆的に集め、これを資本に轉化して、利潤を獲得する爲の營利的機關である。従つて、今日の保險會社は、金融資本の發達につれて發達したもので、多くは銀行の統制下に立ち、銀行、信託、保險が今日の金融資本の三機關となつてゐる。

保護貿易 (ホゴボーエキ)

自由貿易に對する言葉で、大資本の獨占的利潤を

保證せんがために國家が行ふ保護貿易政策のこと。
(一)輸出品の保護、(二)輸入品の關稅による内地品の保護の二つある。(一)は自國品が外國市場に於て競争に打ち勝つため、政府が其の企業に特別補助金を與へる。(二)は關稅政策(其項を見よ)によつて外國品の輸入を制限する。

保守主義 (ホシユシユギ)

「反動主義」を見よ。

法貨 (ホーカ)

小切手、銀行紙幣の如く、法律によつて保證され、信用を基礎とし、それ自身價值なき通貨を法貨といふ。

法人 (ホージン)

法制上人格を認められ、權利義務の主體となりうる團體又は財團を言ふ。銀行、會社、學校、病院、慈善團體、水利組合、水産組合等は法人であり、政

府は労働組合をも法人たらしめて、政府の監督指揮の下に置かうとしてゐる。

法治國 (ホーテック)

專制國に對立し、憲法を基礎とし、法律によつて政治を行ふ國。近代的ブルジョア政治の三權分立、即ち議會による立法、行政の監督、司法の分立が其代表的な形態である。要するに法治國とはブルジョア獨裁の國家形式である。

法律 (ホーリツ)

人類の社會關係を階級國家が強制的に規定し、強制執行力を要求する所の規則である。社會の經濟的土臺の上に築かれた上層建築にして、ブルジョア社會の法律は私有財産制による搾取制度を保持する作用を持つ。法律は徹頭徹尾階級性を持つものである。

傳給生活者 (ホーキニューセイカツシヤ)

「サラリイメン」を見よ

封建制度 (ホーケンセイド)

土地占有を中心とする中世の社會制度で、國王が全國領土を占有し、自己の直轄地以外の土地を封土又は藩地と稱して之を領主又は藩主に分與し、領主(諸侯)はその封土を更に細分し臣下又は家來に分與し、更に農奴に割當てる。勿論この土地には百姓又は農奴が附屬してをり、農業が社會の基本的生産力であつて、手工業及商業も存在する。土地所有者は君主から臣下に至るまでの連續したる君臣關係によつて繋がれ、上に對して忠義と尊敬を誓ひ、命令には絶対に服従せしめられ、一切の政治、經濟及制度等は土地所有者が專斷に行ひ、農民、町民(職人、商人等)農奴等を搾取し支配しつゝあつた制度で歐洲に於いては九世紀より中世の末葉まで、日本では鎌倉時代より徳川時代末まで存在してゐた。

封建的搾取勢力 (ホーケンテキザンソンセイド)

資本主義社會に於ける封建制度の殘存のこと。政治機關方面では、 $\times\times$ 華族、貴族院、樞密院、軍閥、等であり、經濟的方面では地主對小作人關係(小作制度)、手工業等であり、其他制度としては、家族制度、人身賣買制度、強制結婚制度、婦人の男子への隷屬、徒弟制度、請負賃銀制(半封建的)、イデオロギーとして專制主義、 $\times\times$ 主義、服従主義等である。

補助貨幣 (ホジヨカヘイ)

「貨幣」の項を見よ。

方法論 (ホーホーロン)

科學研究の方法論のこと。在來の論理學に於て思考の基本的要素並形式としての概念、判斷、推論を取扱ふのを原理論といふに對し、原理論に於いて得たる思考形式に基いて、具體的な諸現象間に存する普遍的要素を發見し、これを體系的に組織づけるの

が方法論である。しかし、これはブルジョア學問の仕方であり、これに對立するプロレタリアの研究方法は唯物辯證法である。(其項參照)

本位貨幣 (ホニイカヘイ)

價值尺度の機能を持ち且つ流通用具の機能を持つ所の貨幣で金貨がこれである。「貨幣」の項を見よ。

ポイコツト

不買同盟、非買同盟、排貨などと譯される。ポイコツトの名稱の起りは、一八八〇年頃アイルランドにポイコツトと呼ぶ農場經營者があつたが、小作人を苛酷に搾取したので、小作人及近隣の者は同盟してポイコツトと一切の取引乃至交際關係を絶ち、遂にポイコツトを農場から放逐したことから始まる。

普通今日ではポイコツトの意味を、(一)労働争議の場合、其の資本家に打撃を與えるため、組合員が該資本家の商品に不正票を貼布し、其の商品を一般に

(*)

購求せしめないうようにする。(二)帝國主義の經濟的侵略に反對するため、少國及植民地の民族が、同盟して他國又は本國の商品を一切購入しないこと、(支那に於ける日貨排斥、インドの英貨排斥がこれである)を意味してゐるが、本来、ポイコットは相手方と一切關係を絶つて排斥すること、ブルジョア議會のポイコット、ダラ幹をポイコットせよなどいふ風にも用ひる。

ボス

親方。勞働請負人を親方と呼んだのに始まり、組合のダラ幹及社會民主黨の幹部をボスといふ。

母權制度 (ボケンセイド)

原始社會では集團結婚が行はれ子供は其の父を知らず母親の系統に屬し、且つ女子が農業に携り、男子は戰爭と狩獵に携つてをり、かゝる生産社會では女子の權力が強く、全村落を支配するのは婦人である。

三〇六

つた。かゝる時代を母權制度の時代といふ。

母權保護 (ボセイホゴ)

「婦人勞働者問題」の項を見よ。

暴動 (ボードー)

「モツブ」を見よ。

暴利取締令 (ポリートリシマリレイ)

大正七年八月米騒動に刺戟され、當時の寺内内閣によつて發布された臨時法。

暴力行爲取締法 (ポリーリョクコイトリシマリホー)

勞働者、農民抑壓法の一つで大正十五年四月發布さる。勞働者農民の團體的示威運動を禁壓する事を主要目的とするもので、政府は暴行、脅迫、毀棄、面會強要、強訴威迫を取締るもので暴力團を取締るのだと言つてゐたが、これによつて勞働者小作農其他集團的闘争を處罰するものであることは其後の事實が立證した通りである。最近政府はこれにて

も不充分とし刑法の正當防衛の範圍を擴大し、かゝる威迫を受けた場合對手を死傷せしめても差支へないといふ盜犯防止法を第五十八議會に提案し、これを制定した。

ボリナス

賞與金のこと。日本では習慣上年二回が普通であるが、この賞與金は、会社が賃銀を日頃減額しておいて、これを会社の利潤の一部に加へ高率な重役の配當と賞與を天引きし、餘つた分を従業員に賞與といふ名で支給するのである。従て従業員は不拂賃銀部分を六ヶ月も後に受取るに過ぎないので勞働者並に俸給生活者は賞與金を本給に繰入れさせねばならぬ。

ボル

「ボルシェビイキ」の略。

ボルシェビイキ

(*)

ロシアに於けるマルクス・レーニン主義、即ち共產主義の黨——ロシア社會民主黨の多數派をボルシェビイキと呼んだ。一八九八年に創立されたロシア

社會民主黨は、一九〇三年ブラツセル—ロンドンに於ける第二回大會に於いて、黨規約及組織問題(黨の軍隊的統制と細胞組織)、「イストラ」の編輯問題及戰略に關して論争を起し、黨は軍隊的規律と細胞組織による中央集權組織とし職業的革命家を以つて構成しなければならぬと提議したレーニン派と、之に反對した社會民主主義のマルトフ、ダン、アクセロイド、ブレハノフ派に分れ、レーニン派が勞働者の支持を得た。以來レーニン派をボルシェビイキ(多數派)と呼び、反對派をメンシェビイキ(少數派)と呼んだ。社會民主黨はこれ以來二派に分裂し、一九〇五年にはロンドンでボルシェビイキのみで大會を開催し、機關紙「フベリョフド」(前進)を發行し、

三〇七

メンシェヴィキの日和見主義解黨主義を粉碎し、一九〇五年の革命を指導したが失敗し、其後一度、メンシェヴィキとの共同委員会を作つたことがあつたが如何なる場合でもメンシェヴィキの言葉に妥協することなく、一九一七年の三月革命、及十一月のプロレタリア革命に成功し、遂にプロレタリアの手に政權を獲得し、一九一八年ボルシェヴィキはロシア共産黨と改稱し、翌年創立された第三インターナショナルの指導的地位に立つたのである。

ボルシェイズ

ボルシェヴィキ化ともいふ。共産黨をボルシェイズしなければならぬとか、運動をボルシェヴィキ化せねばならぬなどといふ風に用ひる。黨をボルシェヴィキが會つてやつて来たように強固な工場細胞の上に建設し鐵の如き規律と中央集權的統制を確保し、黨の獨立性とヘゲモニーを確立し大衆の先頭に立つて闘

争し、黨員は黨に絶対に責任を負ひ決闘と規律に服従し獻身的に闘争し、黨は理論的にはマルクス・レーニン主義を以つて武装し、觀念的にも組織的にも黨を強化し、如何なる迫害にも、如何なる困難にも打ち克つて、革命的大衆闘争を遂行するようにすることを旨ふ。其他労働運動においても政治的大衆闘争においてもボルシェヴィキが會つてやつたように合法・非合法を巧に結合して革命的闘争を行ふことをボルシェヴィキ化といふ。

ボリト・ビュロー

共産黨の政治部のこと。黨の政治的政策を立てる部門(委員會)で黨中央委員の互選を以て構成し、黨の實際上の指導的地位に立つ。(オルグ・ビュローの項参照)

[P]

マジオリテイ

「多数派」といふ英語。

マキアヴェリズム

伊太利の政治學者ニコロ・マキアヴェリノの思想及行動を原則とする政治思想をマキアヴェリズムといふ。權謀術策主義とも言ふべきで「君主は國家を維持發展せしむる目的のためには如何なる手段を用ひてもよい」となし、爾來目的は手段を神聖化するもので、目的達成のためには如何なる權謀術策を弄するも正當であると主張した。

特合政治 (マチアイセイジ)

四星半式政治とも言はれ公然と協議し政策を決定するのでなく、政商や大官が特合等で秘密に政策を定め利益の取引を行つて議會等はそこで決定したも

のを形式的に決闘するに過ぎないようなブルジョア政治の現状をいふ。又、此處からダラ幹等が幹部だけで秘密に政策の協議取引など行ふことを特合政治式といふ。

マテリアリズム

「唯物論」を見よ。

マニフエスト (英)

「宣言」のことだが「共産黨宣言」の略稱である。

マニユファクチュア

工場手工業と譯す。ギルド的手工業生産から、資本主義的機械工業に推轉するまでの過渡期——産業革命前に榮えた生産方法である。其の生産技術は手工業であるが、個々の手工業者が獨立的に生産するのでなく賃銀労働者として工場主の下に備はれて生産に従事するのである。マニユファクチュアの特徴は(一)機械工業は未發達で(二)労働者の技術が有力の

生産上の要素であり(三)資本の蓄積は未だ少ない。次に手工業がマニユファクチュアに發展するに至つたことは、分業の發達と共に、協業が行はれ、各部分の生産行程が統一されるに至り、且つ資本の所有者と賃銀労働者とが對立的に存在するに至つたことで、此の時代の賃銀制度は請負賃銀制であつた。

マヌーバ

もと軍事上の用語で動員といふ意味で、階級闘争における大衆動員のことをいふ。

マルキシスト

マルクス主義を信奉する人。

マルキシズム

「マルクス主義」を見よ。

マルクス・エンゲルス研究所 (——ケンキューリョ)

一九二〇年十二月創立。ソビエツト・ロシア國立のマルクス主義研究所で、リヤヂノフが其所長であ

る。研究所は、マルクス・エンゲルスの著書文獻の出版蒐集普及の外、共産主義の理論と實際の發達及普及のために最大の努力を拂つてゐる。「マルクス・エンゲルス・アルヒーフ」を定期刊行し、國際プロレタリアートのために非常に貢献しつゝある。

マルクス主義 (——シユギ)

マルクスの世界觀及學說の全體系をいふ。(一)唯物辯證法、(二)唯物史觀、經濟學批判(資本論)剩餘價值論、(三)階級闘争とプロレタリア革命論が主たる構成要素で、之らの凡てが相互に關係し全體係を形成してゐる。プロレタリアートの革命及實踐に關する理論で、科學的社會主義又は共産主義と呼んでゐる。しかし、共産主義でも歴史的にレーニン主義と區別して言ふ場合は、レーニンの帝國主義論、植民地革命論、プロレタリア獨裁論等を含んでゐない。これは、マルクスの生存した時代は、未だ資本

マルクス記念日 (キネンビ)

マルクス・デー又はマルクス記念祭とも稱し一八一八年五月五日はカール・マルクスの生誕日であるので、コミンタイン及世界のプロレタリアはこの偉大なプロレタリアのXX理論の最初の創設者の事業及マルクス主義の生誕を記念し、且つマルクス主義の理論と實踐とを一層發展せしむるため毎年五月五日を國際的闘争記念日としてゐる。

マルク團體 (——ダンタイ)

中世の後半、ドイツに存在した村落共産團體で、土地(牧場、森林、河川、及或種の耕地)を共有し共同に使用してゐた人々の生産及生活のための社會的團體である。其後人口の増加のため、新移住者には一定の義務と制限が行はれ、且つ生産技術の發達及手工業都市の發達に依つて崩壊するに至つた。

マルサス主義 (——シユギ)

主義の發達期で帝國主義の獨占的金融資本は萌芽の状態にあり、且つマルクスとレーニンの時代の間には第二インターナショナルの日和見主義の全盛期が横はつて居り、従つてマルクス主義はレーニン主義の基礎であつて、マルクスが暗示に留めてゐた點をレーニンが帝國主義時代に適用し更に發展せしめたもので、兩者は一貫してをり本質的には同一の基礎に立つものである。(唯物辯證法、唯物史觀、階級闘争、價值及價值形態、剩餘價值等の項を参照せよ)

マルクス・レーニン主義 (——シユギ)

マルクス・レーニンの世界觀及革命理論の全體系即ち共産主義の全理論と實踐を意味し、國際プロレタリアートの解放理論である。具體的にはコミンタイン及各國共産黨の革命理論、指導理論がこれである。「マルクス主義」「レーニン主義」「共産主義」の項を参照せよ)

「人口論」の項を見よ。

マンチエスター學派 (——ガクハ)

英國のマンチエスター市を中心に、十九世紀前半に唱導された經濟上の自由放任主義、自由貿易論である。アダム・スミスの學說に始まり、コブデン、ブライト等に至つて極端に主張されて頂點に達し、一八五〇年には穀物關稅撤廢運動となり、經濟的自由の旗幟の下に一切の國家的干渉に反對した。これは近世ブルジョア自由主義の盛期を物語るものである。

マンダート

プロレタリアの國際的信任狀のこと。「信任狀」の項を見よ。

マンモニズム

拜金主義。貨幣至上主義と譯す。

【三】

米細糧大衆 (ミソシキタイレユー)

プロレタリア黨及組合に組織されてゐない勞働大衆並に農民大衆をいふ。

身分 (ミブン)

「カスト」の項を見よ。

ミノリテイ

「少數派」の項を見よ。

ミリタリズム

「軍國主義」の項を見よ。

ミール

封建時代のロシアに存存した耕地共有の村落共產體である。ミールは所屬する家族(男子)の勞働力の大小に従つて耕地を割當て、三年乃至六年毎に割換えを行ひ、買納に對してはミールが共同責任を持

(4)

つた。其の起源及性質については原始共產制の殘存したものと言はれてゐたが、實際は中世やツアールの政治の下に於ける租稅制度、體儀制度から生れたもので、ツアール政治の支柱ともなつてゐたのである。ナロードニキヤや社會革命黨は、ロシアはミールを發達さすことによつて、資本主義の段階を經ずして共產社會が實現されると夢想したのであつたが、ロシア資本主義の發達と共に農民はミールを逐はれ大部分は都市プロレタリアと化し、遂にミールは崩壊するに至つたのである。

民主主義 (ミンシユレユギ)

「デモクラシイ」を見よ。

民主主義革命 (ミンシユレユギカクメイ)

「ブルジョア民主主義革命」の項を見よ。

民主的中央黨 (ミンシユレユギチエーオーシユケン) プロレタリアの諸組織(黨、組合、ソビエツト等)

の特徴である。大衆の利益と行動を最も集中的に反映さすため凡ゆる権能を中央に集中し統一するが、中央機關及幹部は大衆によつて選出され、政策規約決議等は大會によつて決定され、中央權力の基礎は大衆の上に置かれてをり、大衆が幹部を任命又は罷免しうるような組織である。ブルジョア及地主等の集権的國家組織等とは全く反對のものである。

民衆 (ミンシユウ)

資本家及社會民主主義者の用語であつて、彼等は労働者、農民、中小商工業者、俸給生活者等を民衆と呼ぶ。労働者の階級的役割を民衆なる概念でゴマ化すために用ひられるのである。

民生主義 (ミンセイシユギ)

「三民主義」を見よ。

民政黨 (ミンセイトウ)

昭和二年六月一日憲政會(前身は改進黨及同志會)

賃銀の低下等を獎勵し、或は反動的労働組合法を提案したり、X、X黨及Xの労働者農民の彈壓等を加えて労働者農民に敵對し、他方では偽稱的に社會政策を高唱し、社會民主主義者を援助してゐる。

民族主義 (ミンゾクシユギ)

ブルジョア學者は人類を體質、言語、信仰、政治的集團等から區別立てして白色、黄色、黒色更に日本民族、支那民族、ドイツ民族等と區別して利害の相違を設けて愛國主義、國家主義、アジア主義等を煽動し、プロレタリアの國際主義に對立せしめてゐる。しかし、人類上の差異といふものは、資本主義社會の下にあつては、階級的利害の差異の下に解消し、プロレタリアートには民族的對立は一切存在しない。従つて、民族主義を唱える者は、資本家地主の利益を代表する「國民主義者」「愛國主義者」であつて反動の流れである。

と改進黨本黨が合同し、立憲民政黨を組織し(本黨系の床次一誠約三十名は翌三年八月脱黨し政友會に復歸して一時動搖を見た)て今日に至つてゐる。濱口雄幸が總裁で、昭和四年七月田中政友會内閣の瓦解によつて濱口民政黨内閣が成立し、昭和五年の總選挙には二百七十一名の議員を選出し、絶對多數黨となつた。此の黨は三菱系の財閥と特殊な關係があるばかりでなく、金融大資本家の利益を最も代表する黨であつて、其の政策は、(一)企業の集中、産業の合理化、(二)財政緊縮、整理、(三)國際貸借金融機關の改善及貿易振興、(四)消費税の減徴、營業税、所得税の免税點引上げ、(五)軍備の制限、(六)義務教育費教員俸給の國庫負擔、(七)共產主義の彈壓及社會民主主義の保護、(八)社會政策の實施等である。濱口内閣はこれらの金融資本家的政策に基いて、金融禁を斷行し、産業合理化を強行し、失業者の増大

民族自決 (ミンゾクジケツ)

歐洲大戰中ウィルソンによつて提唱された主張で各民族は獨立國を立てるか、或はどの國に屬すかは其の民族の意志によつて決すといふのである。しかし其の實は戰爭に敗れた獨塊を分割しチエコ・スロベキアを獨立させ、英米佛等の帝國主義の侵略政策を巧妙に行ふため口實であつたのである。

民族革命 (ミンゾクカクメイ)

植民地及弱小國の被壓迫民族の革命運動のこと。支那國民革命、印度革命等の如く被壓迫民を帝國主義の支配と抑壓から解放せんとする運動であるが、それは必然に國際プロレタリアートのX、X運動と結合され、その指導の下にプロレタリアと貧農の固き同盟の下に遂行されねばならぬ。民族革命はそれ自身は、一種のブルジョア民主主義革命であるが、ブルジョア革命と異なる點は、(一)本國又は他國の帝

國主義を敵としてゐる點。(二)プロレタリアの國際的革命運動がこれを支持し、且つ指導的地位に立つてゐる點であり、プロレタリア革命と異なる點は、(一)資本主義は未發達で未だプロレタリアは未成熟であり人口の大半は農民である、(二)自國のブルジョアジーが擁護するために他國の帝國主義の支配に反對して革命運動に参加してゐることである。

民法 (ミンギー)

資本家及地主の私有財産制を、擁護するための法律。家族親戚關係、物の所有及占有の關係、貸借、交買、損害賠償の關係、財産の相続及買賣關係等を規定したもので財産所有者の利益を保障し、これの侵害を刑法によつて處罰するのである。

民約説 (ミンヤクセツ)

「社會契約説」を見よ。

[4]

無階級社會 (ムカイキニョーシヤカイ)

最高度に發達した共產主義社會のこと。(階級及階級闘争の項を見よ)

無産階級 (ムサンカイキニョー)

「プロレタリア」の項を見よ。

無産階級獨裁 (ムサンカイキニョードクサイ)

「プロレタリア獨裁」の項を見よ。

無産者 (ムサンシヤ)

プロレタリア階級に屬する人。勞働者のこと。

無産者教育 (ムサンシヤキョーイク)

「プロレット・カルト」を見よ。

無産政黨 (ムサンセイトー)

共産黨以外で、勞働者農民を構成要素としてゐる合法政黨を通俗的に無産政黨と言ふ。併し實際は無

(4)

産者の階級的黨は共産黨のみであるから、かゝる合法的な「無産政黨」はブルジョア第三黨であつて勞働者農民の最悪な敵である。(合法主義を見よ)

無産婦人運動 (ムサンフジンウンドー)

會つて山川及資本主義時代には左翼にも無産婦人だけの團體が存し、この運動を無産婦人運動と呼び又國際的にも社會民主主義者は無産婦人の特別の團體を作つて運動をやつてゐる。併し、プロレタリアにとつては無産婦人特有の運動も無ければ特別の無産婦人だけの團體の必要はないのみならず、反つて斯る運動はプロレタリアの障礙物である。重要なことは、勞働婦人を黨及組合等の組織及闘争に積極的に参加せしめ、婦人勞働者の問題をプロレタリアート全體の問題として解決してゆくことである。

無神論 (ムシロン)

神とか佛とかが實在し世界を創つたのでなく反對

に人智の未發達のため人間が神を思作したもので、神の存在及宗教を否定する學說を無神論といふ。唯物論、マルタス主義(共產主義)等はこの立場である。(宗教の項を参照せよ)

無政府主義 (ムセイフシユギ)

ゴトウイン、スチルネル等の極端な個人主義的自由を主張し、一切の權力を否定する思想。(アナキズムを見よ)

無政府共產主義 (ムセイフキョサンシユギ)

ブルードン、バクレーニン等の如く一切の權力を否定するが經濟方面に於いて生産手段を地方分權的に共有しようといふ思想。今日「アナキズム」といふのはこの無政府共產主義が主である。(アナキズムを見よ)

無政府的生産 (ムセイフチカセイサン)

生産及消費を自由放任と獨占の下に無秩序的に行ふ

事で資本制生産の特徴である。生産と消費との間に社會的統制が意識的に行はれず、無政府的に生産されること、即ち、生産力は社會化されてゐるにもかかわらず、生産機關が資本家に獨占され、企業家は營利(利潤の獲得)を目的として生産し、只生産と消費の間を結ぶものは資本家の營利、打算、投機、自由競争であるのみであるから、生産力と購買力が矛盾し、恐慌、戦争、大衆の窮乏、階級闘争の激化等の現象となつて現はれる。(資本制生産の項を見よ)

無抵抗主義 (ムタイコシユギ)

宗教家達が人間の本質は愛であり善であるとなし「人若し汝の右の頬を打たば左をも向けよ」と教説し、或はトルストイが「惡に酬いるに善を以つてせよ、惡に抗する勿れ」と唱え、印度のガンジーが、「無抵抗、不服従」を唱えてゐるのはこれである。

併し何れにしても無抵抗主義は、勞働者に資本家との闘争を止めよ、階級闘争は放棄せよ、革命は破壊で建設ではない等と説教し、プロレタリアートの革命的闘争を抑止せんとする毒藥である。會つて、レーニンはトルストイの無抵抗主義を批判し階級闘争を必然に産出する社會の現状を認めないものであると痛烈に攻撃してゐる。

無新 (ムシン)

無産者新聞の略稱。

無産者新聞 (ムサンシヤシンブン)

大正拾四年末「前衛結成の速進と、プロレタリアの大衆的政治新聞」の任務をもつて佐野學、徳田球一氏等によつて創刊される。日本共產黨の合法的機關紙にして昭和三年三・一五事件當時には約三萬五千部を發行してゐた。檢舉後共產黨の機關紙である事がわかり官憲によつて起訴され、昭和四年八月つい

に停止さる。しかしただちに「第二無産者新聞」として全く非合法的に續刊され極度の暴歴の中に戦つてゐる。三・一五事件以來、無新の従業員はほとんど全部檢舉され又其の後も、再三一齊に檢舉を受け、尙讀者も「無新を以てゐるとだけの理由で二十九日の拘留に處せられてゐる状態であるが、いかなる彈壓にも屈せず配布網を確立し日本プロレタリアートの唯一の言論機關を死守してゐる。」

明治維新 (メイジイシン)

明治革命とも言ひ、徳川の封建社會を顛覆し、明治の資本主義社會を實現した所の日本に於けるブルジョア革命。幕末には(一)徳川幕府並に各藩は多動交替、生活の向上等によつて財政が極度に窮乏し、武士の失業者(浪人)が著しくなり、(二)百姓に對する課税は益々苛酷となり農村は全く疲弊し因循し耕地を捨てて脱出する者が續出し、(三)他方町人は商人壓迫にもかゝらず次第に富を蓄積し、札差、兩替屋、御用商人等の富豪が生じ、遂に財政難の武士階級を叩頭せしむるようになった。従つて幕府の威勢は各藩を充分統制し得ず、浪人の不平、農民の反抗等國內は騒然として、封建社會は内部的崩壊の機運にあつた。かゝる時に歐米の帝國主義は東漸し

嘉永六年米國の軍艦は下田に至り通商を迫り(所謂黒艦來襲)我が國の朝野を震撼せしめ、幕府は伊井大老の方針によつて遂に開港した。この開港政策を中心として國內は開港、攘夷の二論に對立し、攘夷派は國學其他勤王思想と結び、幕府倒壊を企てるに至つた。藤、長、土、肥の藩は朝廷を擁立し、勤王討幕を叫び、こゝに公式の對立、安政の大獄、櫻田の變、公式合體論、蛤門の變を経て、幕府の威望日に日に衰え、幕府は最後に長州征討を企てたが失敗し、又鳥羽伏見の戦に敗れ、十五代將軍慶喜は、土藩の建白を容れ、大政を朝廷に返還し、江戸を引渡し、こゝに徳川三百年の封建政治は顛覆し、政權は明治政府の手に歸すに至つた。維新政府は、奥羽、蝦夷の反亂を鎮定し、江戸を東京と改めて遷都し、五ヶ條の誓文を發し、官制を制定し廢藩置縣を斷行して中央に政權を統一し、税制財政の統一や公議所

の設置或は鐵道、船舶、工業の諸事業を起し、海外貿易を奨励するなど、政治經濟並教育の諸制度を歐米資本主義國に漸次見習ひ、又一般習慣上には歌舞廢刀、仇討禁止、尼僧還俗の許可、太閤層の採用等を行ひ、以つて遂に資本主義の發達に適合さすに至つた。しかし明治維新は、未だ資本主義生産が未發達で新興ブルジョアジの勢力は弱く、依然として半封建的地主及貴族舊藩主が残存し、小作人を封建的に搾取し、農業は資本主義化せられず、明治政府は、藩閥及地主を基礎とする中世的絕對國家として專制政治の特質を保つてゐた。従つて新興ブルジョアジは明治初頭から自由民衆、國會開設を叫び明治政府に反對して立つに至り、政府は明治二十二年憲法を制定し二十三年に國會を開設し、こゝにブルジョアジと封建的勢力とは妥協して政權を維持し今日金融資本はかゝる妥協を通じて其の覇權の下に

地主との反動的プロッタを形成し政權を掌握するに至つた。

名目貨銀 (メイモクテンギン)

貨銀の貨幣名の大小だけを指し、實際に其の貨銀が幾何量の商品量を表示する(購求しうる)かを問はない、單に名目だけの貨銀。「實質貨銀」及「貨銀」の項を見よ。

メカニズム

機械論又は機械と譯す。「機械觀」を見よ。

メタフィジカル

「形而上學」を見よ。

メウセージ

挨拶状と譯す。無産團體が他組織の大衆に對し又は一國の勞働者が他國の勞働者に對して、祝辭、激勵、援助等のために大衆の面前に發表する激勵文である。

メーデー (國際的闘争日)

労働祭と譯され、五月一日は萬國プロレタリアの祝祭日であると共に新しき闘争の首出としての大示威運動の日である。一八八六年五月一日アメリカの労働者が八時間労働制の實施を要求し、ゼネストと大示威運動を全米に亘つて敢行し大成功したに始まり、一八八九年第二インターナショナル大會の決議により、一八九〇年以來毎年五月一日を全世界の労働者が八時間労働制獲得のための國際的示威運動日とした。メーデーの國際的示威運動は歐洲大戦中は各國の社會民主主義者の裏切のために中絶したが、第三インターナショナルの創立と共に復活し年々盛大となり、最近では革命的労働者は、七時間労働制の實施、失業反對、帝國主義戦争反對、ソビエトロシアの防衛、植民地の解放、白色テロル反對等のスローガンを掲げて示威運動を敢行するに至つた。

つた。日本では大正九年東京で五千の労働者が上野公園に集り第一回メーデー大會を開催し、十年には東京、大阪、神戸に示威運動が開始され、大正十一年には東京、横濱、神戸、大阪、京都、尾尾、八幡、名古屋、高松等全國的に舉行され「八時間労働制の即時實施」「労働ロシアの承認」「失業反對」「最低賃銀制の確立」等を叫び、又、昭和四年以來農民もメーデーに参加しメーデーの示威は益々強大となりスローガンも年々新しく革命的なものを掲げるに至つてある。

メンシエビキ

ロシア社會民主労働黨から分離した小ブルジョア的日和見主義の一派。主義はボルシエビキに對する少數派の意味であるが、内容はマルクス主義を是認し乍ら合法主義と議會主義を奉じ、非法法の革命的黨(ボルシエビキ派)の解體を要求し、黨組織に

労働者以外にインタリゲンチヤを多數参加せしめ、黨を中央集權と細胞組織による鐵の如き規律ある革命的組織にすることに反對した解黨派、議會主義の一派である。マルトフ、アクセロッドが首領で後にブレハノフが参加し(トロツキも一時加はつてゐた)一九〇五年にはメンシエビキの全露第一回大會を開催し機關紙「ナチャーロ」を發刊してゐたが一九一七年の革命に際しては、ブレハノフ派(愛國派)とマルトフ派(國際派)とに分裂し、益々少數となり、又トロツキ等はボルシエビキに参加し、裏切、反動の嘲笑のうちに消滅した。今日メンシエビキと言へば、國際的に解黨派、合法主義者の代名詞となり、コンミニストの排撃、嘲罵の的となつてゐる。「ボルシエビキ」「ロシア社會民主労働黨」の項を参照せよ。

免稅點 (メンゼイタン)

今日、日本の法律による租税の免除の限點は、所得税は千二百圓以下、個人企業による營業收益税は純益四百圓未満、相続税にあつては家督相続は五千圓以下、遺産相続は千圓未満となつてゐる。これを免稅點といふ。最近ブルジョア政治家も大衆の力に押され、この免稅點の引上げを主張するに至つてゐる。

メンタル・テスト

智能検査又は精神考査と譯す。思考力、記憶力、注意力、活動力等を検査し、工場、會社等に於いて人員採用の際にこれを行ひ、勞務の目的に適合したるものを採用し以つて能率増進策を講じ、資本家の搾取の増大を計つてゐるのである。

メンデルの法則 (——ホーソック)

奧太利の僧メンデルが一八六五年に發見したる遺傳の法則である。彼は、「植物の雜種の研究」論文で

(一) 雜種には優性と劣性とがあり、優性は劣性を支配して、表面に現はれて現在性となり、劣性は潜在性となつて表面に表はれない、(二) 然るに雜種二代目には優性三、劣性一の割合を以つて兩者共に表面に表はれ、兩親の形質は分離する、(三) 二對以上の對の形質が遺傳されてある場合は、各對は別々に分離し獨立に行動するといふのにある。この法則の發見はそれ以後の遺傳學の發展のために非常に貢獻したものと言はれてゐる。

メンバー (英)

黨員、組合員の如く組織に所屬してゐる人をメンバーと云ふ。尙細胞員は細胞のメンバーである。

メトリーゼ (獨)

方法又は手段と譯す。

團體 (メーキャー)

學生の「同盟休校」の略稱である。

【モ】

目的意識性 (モクテカイシキセイ)

自然成長性に対する用語で、プロレタリアートの歴史的地位、任務、革命的目的、目的達成の手段等を意識して、計劃的に闘争することをいふ。(自然成長性の項を見よ)

目的論 (モクテキロン)

「テレオロジー」を見よ。

モダーニズム

現代主義又は通俗的には現代風の生活様式をいふ現代とは最新の資本主義文化を指すのであつて、この資本主義文化に適合する生活様式をモダーニズムといふ。利潤によつて生活するブルジョアは歴史の將來に對する希望を持つことが出来ず、又山と積まれた利潤を以つて最新の衣、食、住其他の享樂に費

(モ)

し、常に眼前の目新しい感能を刺戟する生活を追ひ又他方では目新しい商品や流行を作つて利潤の集めを事としなければならぬ。斯る資本主義の煽動した類變的、刹那的な文化の發達は資本主義の必然的産物である。又かゝる文化はアメリカが最も進んでゐるので、モダーニズムの代表的なものをアメリカニズムといふ。

モスコイ・インターナショナル

第三インターナショナル及赤色労働組合インターナショナルのことを通俗的に言ふ。

モツブ

群衆が一定の計劃や目的によるのでなく、生活の窮乏又は反感等のために自然發生的に無秩序の暴動や騷擾を起すことをモツブといふ。プロレタリアートは無秩序な暴動には反對するが、しかし時に非常な革命的意識を發揮するもので、自然に起きた暴動

を抑壓すべきでなく、反對に既に起きたものは之を積極的に支持するのである。又プロレタリアートの武装蜂起をモツプと混合してはならぬ。

モツプル

国際赤色教授會のことで、モスコに本部があり第三インターナショナルに直屬し、各國共產黨には教授委員會が存在し、黨の指導の下に赤色教授會が活動し、共產主義運動の犠牲者(及其の家族)の救護を大衆的に行ひ、以つて共產黨及共產主義運動に對する大衆の支持と信頼を強めしめてゐる。モツプルの會員は一九二六年に五百十一萬人餘、基金百二十六萬留に達してゐた。尙モツプルの外廓として國際労働者教授會(其項参照)が存在し、共同して闘争してゐる。

モメント

「契機」を見よ。

モノポリイ

資本家及び地主の經濟的の獨占を意味し次の三種がある。

(一)自然的獨占で、之は土地嶺山の産物を其の所有者が獨占することである。(二)資本家がトラストやカルテルによつて市場及び利潤を獨占することである。(三)關稅政策及特許並商標により特定の資本家を國家が法律的に保護し彼等の企業及利潤の獨占を保障することである。従てモノポリイは自由競争を排除し、大資本の獨占を保護する政策である。

モラトリウム

支拂猶豫(延期)令のこと。金融恐慌、戦争及び非常時等の場合政府は法令を以つて、一定期限の間一切の債務支拂の延期を命ずるのである。しかしこれは、金融界又は大資本家の破産を救済する手段であつて、日本では歐洲戰後銀行の貸付けが回收不能

に陥り、昭和二年春金融恐慌に襲はれ、各種銀行及大企業家が倒壊せんとした時、政府はモラトリウムを發布し、一時銀行其他の支拂を猶豫して之を救ひ且つ、七億からの救済費を大資本家のために支出しこの負擔を労働者農民に轉化したのである。

モンロー主義

(—シユギ)

一八二三年アメリカ大統領モンローによつて主張されたもので米大陸は、自由、獨立の權利を保有するものであるから歐洲及世界の各國は南北米大陸に干渉し、利益を侵害すべからずといふ主張であつた。其後モンロー主義は轉じて、アメリカ帝國主義の自由と獨立の進展のためには他國に對して遂に干渉するに至り、ルーズベルトはベネスエラに、ウイルソンはメキシコに對し干渉し、其他各國に對して資本による侵略を開始し、今日ではモンロー主義は、アメリカ帝國主義の侵略政策を意味するに至つた。

(ヤ)

【ヤ】

ヤング案 (—ア—)

對賠償問題に關し賠償委員會が一九二四年のド
ーズ案を更に再審議訂正したのがヤング案で、ヤン
グ案は一九二九年六月七日パリに於て發表され同年
八月六日よりのヘーグ賠償會議によつて採用された
案である。骨子は、(一)賠償金は現在價格を三百五
十八億マルクとし支拂期日を二期に分ち、第一期は
年額二十億五千マルクとして其期間は向ふ三十六年
七ヶ月、第二期は第一期終了後より一九八八年三月
迄とし第一期の賠償の残額を完了す、(二)毎年の
第一期分の支拂方法は第一部六億五千マルクは無條
件に支拂ひ、殘餘はドイツの財政的破綻を誘致する
ことを避けるため場合によつて猶豫す、猶豫の場合
は列國委員は調査し、善後策を講ず、(三)賠償年金

三二八

は證券化し金融市場に流通することが出来る、(四)
國際決済銀行(資本金一億ドル)を設置し賠償の履
行及圓滑の事務を統轄すといふにある。要するにド
イツを破産せしめないようにして賠償金を取上げ、
且つドイツを一層帝國主義列強の支配下に置かうと
いふのであつて、ヘーグ賠償會議に於いては、この
ヤング案を基礎として開催し、各國委員の激烈な論
争が起きたが遂に可決され、ドイツはこれを承認す
ると共に聯合國軍隊のルール及國境よりの撤退を要
求し之も可決され、こゝに賠償問題は一先づ解決實
施されるに至つた。

團の金曜日 (ヤミノキンヨロビ)

「三角同盟」の項を見よ。

【チ】

友愛會 (ユーアイカイ)

「日本勞働總同盟」の項を見よ。

唯心論 (ユイシンロン)

唯物論に對する語で、種々な色合はあるが、何れ
も根本に於いては世界の本體は精神又は觀念(或は
心)であつて、物質、現象の如きは此の觀念の顯れ
であると主張するのが唯心論である。キリスト教、
佛教等凡ての宗教的立場はこれで、哲學者としては
ライブニッツ、カント、ヘーゲル等は其の代表者で
ある。唯心論が誤謬であることは、精神なるものは
物質世界が頭腦に反映したもので、人類の發生前に
物質世界が存在してゐたことによつても明かである
が更らに、唯心論は常に其の時の支配者の權力を絶
對化する爲の反動哲學であつて革命的、階級に敵對

(チ)

する反動派の理論的基礎をなしてゐる。

唯心史觀 (ユイシンシカン)

史的觀念論ともいふ。唯物史觀に對する語で、歴
史は觀念(心)の發展であつて、觀念によつて歴史
が創造されたと説く説である。即ち唯心論を歴史に
適用したのがこれで、ファイテ、ヘーゲルは其の代
表者であり、ミル、コントも亦さうであり最近では
リフケルト等が其の代表者である。

唯物史觀 (ユイブツシカン)

史的唯物論ともいひ、「歴史及社會の唯物辯證法的
把握」であつて、社會の構成及其の變革過程を體系
づけたプロレタリアートの革命理論でマルクス・エ
ンゲルスの發見にかゝる學説である。マルクスは其
の著「經濟學批判」の序文に於いて、これを次のよ
うに言つてゐる。「人類はその生活の社會的生產に於
いて、特定の必然的な彼等の意志に依存せざる諸關

三二九

係を結び、この生産關係は彼等の物質的生産力の特定の發達段階に對應するものである。これらの生産關係の總體は、社會の經濟的構造を形づくり、これが社會の實在的基礎であつて、この基礎の上に法律的及政治的の上部構造が立ち、其の基礎に相應して特定の社會的、意識形態が存立する。物質的生活の生産方法は、社會的、政治的、および精神的の生活過程一般を制約する。人々の意識が彼等の存在を決定するのでなく、寧ろ反對に、彼等の社會的存在が彼等の意識を決定するのである。社會の物質的生産力は、彼等の發達の或る段階に到ると、それが從來其の内部で活動してゐたところの現存の生産關係、若しくは單にその法律的表現に過ぎない所の所有關係と矛盾衝突するに至る。そして、在來生産の發展形式であつたこれらの關係は、今や其の性格を變ずる。こゝに社會革命の時代が始まる。經濟的

基礎の變化と共に巨大な上部構造の全體が急激に或は徐々に變革される。かゝる變革の考察において、物質的な自然科學的に忠實に確認すべきところの經濟的生產條件における變革と、人々がこの衝突を意識するに至つて、それを戦ひ決せんとするその法律的、政治的、宗教的、藝術的乃至哲學的の、一口に言へば觀念上の階形態とは、常に之を區別せねばならぬ。或る個人を判斷するにその人自身の考へてゐる所に基づいて判斷しないと同様に、かような變革時代を、時代の意識から判斷することは出来ない。却つてこの意識を、物質的生活の諸矛盾から社會的生產諸力と生産關係との現存の衝突から説明しなければならぬ。一の社會構成は、凡ての生産諸力がそこに發展する餘地ある内に破滅することはなく、また新しい一層高級な生産關係は、その物質的存在條件が舊社會の胎内に孕まれない内に出現すること

は決してない。人類は常に自分で解決しうる問題のみを提起する。蓋し當の問題其ものが、その解決にとつての物質的諸條件が既に存在するか、乃至は少くとも生成の過程にある時にのみ發生するからである。大づかみには、アジア的、古代的、封建的、及び近世ブルジョアの生産方法が、經濟的社會構成の前進的諸起源として區別される。ブルジョアの生産關係は、社會的生產過程の最後の敵對的形態であり、(敵對的とは個人的敵對の意味ではなく、階級個人の社會的、生活諸條件から生じ来る敵對の意味である)ブルジョア社會の胎内に發展しつゝある生産諸力は、同時に、此の敵對の解決のための物質的諸條件をつくり出す。従つて、ブルジョア社會と共に人類の社會の歴史が終る。」

以上が唯物史觀の要約で、これを略述すると、(1)社會の眞實の基礎は物質的生產關係(經濟的構造)

唯物辯證法 (ユイブツベンゼンショウホー)

であり、國家とか法律とかの政治過程は上層建築で亦宗教、道徳、藝術、學術、意識過程等の諸觀念形態も生産關係に相應するところの上部構造である。(二)資本制生産關係の基本的要素は勞働と資本との對立的關係であり、こゝに階級闘争が發展し、プロレタリアートの階級意識も、これに相應して發展する。(三)生産諸力が一定の發展段階に至ると現存の政治的組織及法律的所有關係と衝突するに至り、これらが生産諸力の發展性格と變じ、且つ階級闘争は激化し、プロレタリアートの革命的闘争によつてブルジョア社會はXXし去られ、新しい高度の生産關係の社會(XX主義社會)が實現し、人類の歴史は新しい時代に入る、といふにある。

世界(自然並に社會の諸事物)の把握並に其の變革の科學的方法が唯物辯證法で、かゝる方法の理論

的體系が辯證法的唯物論である。マルクス・エングルスによつて發見され、レーニンによつて發展せしめられたところの、プロレタリアの實踐的哲學である。マルクスはヘーゲルの唯心的辯證法的神祕の殻を打ち破り、之を唯物的に顛倒して發見したのであるが、この唯物辯證法は在來の唯心論並に其の否定者であつたホイエルバツハ等の唯物論を更に否定して創見したものである。辯證法的唯物論によれば、「觀念世界なるものは畢竟するところ、人類の頭腦のうちで變更され離棄された物質世界に外ならぬ」もので唯心論の神祕的獨斷に反對すると共に、在來の機械的形而上學的唯物論の如く、事物を因果關係による連続と循環運動によつて單に説明することに反對し、「世界は一個の無限なる實在的總體であつて、其の中で全部の部分が不斷に過程的に流動し不滅の交互作用を行つて」をり、「現存事態に對する肯定的

理解のうち、現存事態に對する否定的の理解をも必然的消滅の理解をも含めて」をるものである。従つて、(一)統一物の中に矛盾が發現し、この矛盾する二要素の對立闘争による量より質への轉化並に對立闘争の發展によるより新しき高度の統一物への發展。(二)各部分は機械的に集まつて部分を構成するのでなく全體性のうちに部分が存在し、普遍的なものは具體的であり、特殊なものも普遍的全體性なものに包含されてゐる。(三)理論と實踐が統一され、即ち革命的理論は革命的階級の物質的諸條件を反映したものであり、同時に革命的行動の指南者となる。斯くの如く唯物辯證法は本質に於いて批判的、革命的、實踐的である。(四)最後にこの哲學は絕對的眞理を認めない。只吾々は夫に接近し低きより高きに發展するのであり、眞理は常に世界の發展と共に發展し常に具體的であると主張する。(レーニン著經驗

批判論と唯物論を参照せよ)次に唯物辯證法的に世界の現實を把握し其の發展の必然性を認識し、プロレタリアートの變革的行動を規定した科學的理論の代表的なものは、會てのマルクスの「共產黨宣言」及今日のコミンタールの戦術並に戰術等であり部分的には一國に於ける共產黨の戦術、戰術の全系列である。又、唯物辯證法を其の時の社會の發展狀態に適用したところの歴史的文獻としてはマルクスの唯物史觀、階級闘争論、資本論、レーニンの帝國主義論及多數の政治理論がある。

唯物論 (ユニフツロン)

宇宙の眞の實體は物質であつて、觀念(精神意識等)は物質の一形態(又は屬性)であると看做す形而上學が唯物論で唯心論に反撥してゐる。唯物論にも色々あつて、精神を物質の屬性とする説、精神を物質の一結果とする説、精神と物質を同一物とする

説、或は物質を二つ假定する説等であるが、古き唯物論の代表者であるデモクリストはアトムなる微粒物質の結合から宇宙は成立すと説き、ヘツケルは原形質モネラから發展し成立すると説いてゐる。何れにしても形而上學的唯物論は、特定の物質を経験と實踐によつて假定し、かゝる物質の種々異つた配合低級より高級への進化、因果關係による機械的作用反作用等によつて事物を説明するのである。これは辯證法的唯物論とは全く異つてをり、全體と部分、量から質への變化、各分の交互作用、矛盾の對立闘争による發展、意識と實踐との統一等を拒否するところの觀念論乃至は經驗論である。尙今日吾々が唯物論と言つた場合は辯證法的唯物論(戰闘的唯物論ともいふ)を指し、在來の唯物論を機械的唯物論、又は形而上學的唯物論、素朴唯物論等と呼び區別して用ひてゐる。(唯物辯證法の項参照)

優生學 (ユーセイガク)

「生存競争」「進化論」の項を見よ。

有價證券 (ユーカレショークケン)

公債證券、大藏省證券、株券、社債券、船荷證券、貨物引換證、倉庫券、爲替手形等の如く一定の貨幣又は物資の取得請求權を表示する證券である。これを又其の經濟的機能から見れば、資金證券と、商業證券とになる。(資金證券は國庫又は有力銀行が發行したときは、貨幣と同様に流通し、又政府は金利を引上げたり、引下げたりするため公債、大藏省證券等を市場に放下し、又は回収を行ふことがしばしばある。)

有産階級 (ユークンカイキユー)

有産者階級のこと。ブルジョア、地主(貴族)などを通俗的に斯く呼ぶのである。

有機體 (ユークタイ)

動物植物其他の生活體を有機體と言ひ石等の無生物を無機體といふ。有機體には動物植物人間等のみに限らず國家、社會、黨、組合等をも含み後者を社會的有機體といふ。有機體は、(一)生活する實體が新陳代謝するに不拘、其の本質的性質が長期間持續し、(二)同類の實體との協同作用によつて、自己と同じ本質を有する新實體を生産する、(三)全體を構成する各部分が、過程的に、内面的相互依存關係に於いて統一され、自己統制的組織體を構成してゐること等が特徴で、社會的有機體たる黨を例にとれば黨の中央集權と細胞組織はかゝる生活的であり、其の闘争は有機體の生活過程であり、其の闘争が最も適切であれば益々擴大強化し、過少又は過大或は誤謬に陥るときは萎縮し衰滅するに至る。

有産階級 (ユークンカイキユー)

「資本家階級」を見よ。

ユース

コンミニスト・ユース・インターナショナルの略稱で、「共産青年インターナショナル」及各國の共産青年同盟を指す。

ユトピア

理想郷と邦譯されるが、それから轉じて日常語としては、空想、夢想、又は空想家のことを指す。著くはプラトンの「理想郷」があつたが一五一年トマス・モリアが「ユトピア」と題する空想的理想社會の物語りを書き、讀いて、モリス、カベール、ウエルス等が夫れ々ユトピアの空想郷を書き、又サン・シモン、フリーリエ、オーエン等は空想的社會主義社會を描き、これの實驗を企て、失敗し、既に空想的社會主義はマルクス主義者の嘲罵の的となつてゐる。日本では矢野龍溪の「新社會」のユトピアがあり武者小路の「新しい村」の實驗がある。

ユニオン・レベル

「組合階級」を見よ。

【三】

揚棄 (ヨーク)

「アウフヘーベン」を見よ。

豫算 (ヨサン)

國家又は地方自治體の政治及事業を運用する上に必要な財政を調節するために、一年間の歳入(收入)及び歳出(支出)を豫測して計劃し算定したところのものが豫算である。豫算は議會(國會又は地方議會)の協賛を経て實施され、其の種類には、(一)總豫算(二)特別(臨時)豫算、(三)追加豫算の別がある。總豫算は繼續的に必要とされる一般の歳出歳入を纏めて計上したものであり、特別(又は臨時)豫算は總豫算から獨立し特別なる行政機關又は臨時の事業、基金等に關する豫算である。追加豫算は議會にて總豫算案が提出された後例外的に提出される豫算である。

豫算返上 (ヨサンヘンジョー)

議會に於いて豫算を審議する際、反對黨が政府の豫算案に對して不信任を表明するため、豫算の賛否又は部分的修正を行はず、政府に一括して返上し、豫算の立て直しを迫ることを云ふ。ブルジョア政黨の議會戰術の一つで日本の議會でも豫算返上の勳績は度々出されたが、可決されたことは未だ一度もない。

ヨダる

出鱈目を言ひ闘争するのでもなく、無責任な言辭を弄して階級運動を毒して歩くこと。

幼少年労働者 (ヨウシヨウネンロードーシヤ)

十六歳未満の男女労働者を指す。婦人労働者と共に幼少年労働者は成年男子労働者と區別して特別な待遇を必要とす。日本の改正工場法及續業法に於いても十六歳未満の労働者に偽装的に形式的には保護

規定が設けられてゐる。更に工業労働者最低年齢法によれば十四歳未満(但等小卒業者は十二歳)の者を工業に使役することを禁じてゐる。従つて、工場法の適用を受けてゐる工場でも、十四歳未満の者を使用してゐるので、特に十四歳以下を幼年工と呼び十四歳より十六歳までの者を少年工と呼ぶ事もある。プロレタリアートは婦人、青少年労働者に對して同一賃銀を要求し且肉體的生理的條件に基づく特別の待遇及設備の規定を力を以つて獲得せねばならぬ。

餘剩價值 (ヨウジヨウカチ)

「利餘價值」の項を見よ。

餘剩利潤 (ヨウジヨウリジユン)

「獨占利潤」の項を見よ。

輿論 (ヨロオン)

或る社會的事實に對する階級的自覺なき多數者の意見を輿論といふ。従つて實際には、階級利害を意

識せる資本家及其の代表者によつて上から作られ民衆によつて唱和せられるものであつて、政府、ブルジョア政黨、新聞、雜誌等によつて唱導される。しかし、輿論は階級間の力關係が、具體的に表はれる場所であつて、プロレタリアートが強力にブルジョアジーに對抗して闘争すればそれに應じて輿論はプロレタリアートに味方するものである。従つて社會民主主義者等が大ストライキの場合などによく「餘り闘争的にすることは輿論の支持を失ふから」と闘争を抑止し、或は放棄して、盛んに市民や輿論の同情を求めてゐるが、これは全く反對である。労働者がストライキ其他の闘争を労働者自身の手で強力に最大のエネルギーを發揮して遂行すればする程輿論を労働者が獲得するもので、社會民主主義者のやり方はブルジョアジーの前に大衆の闘争を屈服せしめる最悪の裏切行爲である。

【ラ】

ライプツツヒ派 (——)

ラッサアル等の獨逸労働者協會の一派を指す。

ラスキン大學 (——ダイガク)

一八九九年二月英國オックスフォードに創立された労働者教育の寄宿大學。オックスフォードの教授連によつて企てられ二ヶ年の修業期間で、一黨一派に扱はれないとの旗標によつて民主主義的教育を行つて来たが、一九〇八年には急進的進歩分子は分離して、別にマルクス主義的教育を旗標としてブレブス・リーグ及労働大學を設けた。しかし、現在ではラスキン大學は労働大學と共に英國労働組合總評議會の管理下に置かれてゐる。

ラディカル

急進的といふ意味だが、階級闘争による革命的と

は異つてゐる。ラディカルの方は急進ブルジョアが觀念的に理想とするところに向つて突進しどしどし改革を行ふ事で、歴史的、客觀的必然性に基づく階級闘争を無視し、プロレタリア的たり得ないのが普通である。

ラディカリズム

「急進主義」と譯す。

ラマルク説 (——セツ)

ラマルクに従へば、凡ての生物は、(一)外界の直接影響による變異、(二)自己の肉體上の必要により器官の發達形成、(三)用不用によつて各器官は發達し退化するもので、斯くの如くして一代で得た生物の變異(進化及退化)は、兩性に共通する場合には生殖によつて、新しい個體に遺傳するといふのである。

ランク・アンド・ファイル

平黨員、平組合員の意。幹部によつて統卒され、指揮命令を受けて活動する一般黨員及組合員をランク・アンド・ファイルといふ。

ラコヴスキー事件 (——ジケン)

駐佛ソビエツト大使ラコヴスキーがコミンテルンの「帝國主義戦争反對、ソビエツト聯邦及支那に對する進軍に反對し、帝國主義國の兵卒を革命化する」宣言に署名した事で、一九二七年十月一日フランス政府は「かゝる大使をフランス駐在せしむること出来ぬ」と其の召還をソビエツト政府に要求した。この問題で兩國間に教度の交渉が開かれ、遂にソビエツト政府はラコヴスキーを巴里から召還し、代りに駐日大使ドブカレフスキーを佛國に駐在せしめて事件は解決された。ブルジョア政府は、常にこんな風にしてソビエツト攻撃に狂奔してゐるのである。

ラボーチエ・デーロ

(ラ)

一八九九年より一九〇二年まで、ロシアの經濟主義者マルチノフ等によつて編輯されてゐたロシア社會民主主義者同盟の機關紙である。「労働者の事業」の意である。經濟主義としてレーニンによつて容赦なく批判され克服された。

ラボーチヤヤ・ムイスリ

ロシア社會民主主義の「經濟派」の機關紙で「労働者の思想」の意。一八九七年に創刊され、三號より外國で發刊され一九〇二年廢刊さる。

【リ】

リアリズム

現実主義又は實在論の意味で、理想主義又は觀念論に對立する。しかし、プロレタリアによつて呼ばれてゐるリアリズムの意味は、ブルジョアの意味の現実主義ではなく、プロレタリア階級の革命的、合理的、現實的行動を指すのである。

利益分配制度 (リエキンプンバイセイド)

資本家が労働者に對し、利潤の一部を分配し(この場合賃金は極めて低劣にし)、之によつて労働者に興味を起させ、忠實に働かせ、且つ損失の場合には責任を労働者に轉化しようとする巧妙な資本の搾取制度である。始めはロバート・オーエンによつて實踐されたものであるが、今日では労働者をゴマ化し組合運動を阻害する手段となつてゐる。

リクイダトールン

解黨派(主義者)又は清算派(主義者)と譯す。「解黨派」を見よ。

釐金税 (リキャンセイ)

支那に於いて、各省の軍閥地方政府が、各省境を通過する貨物に對して課する税金である。

利己主義 (リコシユギ)

「エゴイズム」を見よ。

利子 (リシ)

貨幣所有者が、貨幣を貸與することによつて取得する不勞所得である。貨幣は、生産に投ぜられて資本に轉化し、資本は生産によつて剩餘價值を搾取しこの資本の剩餘價值の一部は資本家(企業者)の利潤となつて企業者に配分され、一部は利子となつて貨幣貸與者に分配される(これらは再び資本に轉化せられるが)。従つて、利子とは、貨幣所有者が取得

する剩餘價值の一部であつて、私有財産制を前提として成立するものである。次に利子率の高低は資本の搾取の大小、及び回収期の長短、回収の確實性の度合等によつて異なるが、一般的には利率は資本の剩餘價值の生産力以上には出でないし、又低下しても貨幣資本が流動しなくなる點までに到れば止まるのである。

利潤 (リジユン)

總資本(不変及可變)が生産によつて搾取する剩餘價值が利潤で、企業の總利得から企業家が取得する不勞所得部分が之である。即ち、企業家が生産行程で労働者から搾取した剩餘價值を貨幣の形を以て企業家の手に取得したものである(この場合企業家が貨幣所有者である場合は利潤のうち利子が包含され、資金を借りて企業した場合には貨幣所有者に支拂ふ利子を除いたもの)。又、利潤は直接生産に關

與してゐる企業家のみを取得されるのでなく、商品の販賣に従事してゐる商業にも分配されるが、この商業利潤も、企業利潤及利子と同様に剩餘價值が分配されたものである。

利潤率 (リジユンリツ)

總資本(不変資本、可變資本)を以つて剩餘價值を割つた比率が利潤率で搾取率(剩餘價值率)とは異つてゐる。資本の有機的構成が高くなるに従つて利潤率は減少するが反對に搾取率は増大するのはこのためである。「剩餘價值率」の項を見よ。

理想社會 (リソシーシャカイ)

「ユトピア」を見よ。

理想主義 (リソシーシユギ)

「アイデアリズム」を見よ。

立憲政治 (リツケンセイジ)

専制政治に對するブルジョア階級の政治形態であ

る。憲法を制定し、議會（立法）司法、行政の三權が分立して行れる形式を持つ政治をいふ。立憲政治には、立憲君主制と、立憲共和制の區別があり前者は封建的要素を持ち後者は近代ブルジョアジーの代表的政治形態である。

立法機關（リップボーヤカン）

資本主義の國家においては、立法機關は議會（衆議院及貴族院）であるが、議會で採決した法律案を裁下するのは日本では天皇であり、法律を運用するのは政府及司法機關である。又、法律によらずして法律と同様の力を持つものに、勅令があり、更にこれに準據して法律と同様の執行力を持つ閣令、省令、府縣令がある。

リベラリズム

「自由主義」を見よ。

流通資本（リニューワーシオン）

資本をブルジョア學者は分けて固定資本（土地、建物、機械、諸設備、運輸機關に投じた資本）に對し、原料品、勞賃に投じた資本部分を流通資本又は流動資本といふ。資本による搾取を曖昧にするためかゝるわけ方をするのである。（不變資本、可變資本の項を参照せよ）

綠色インターナショナル（リョクシヨク）

チエツコ・スロベキヤ、ユーゴスラフ、ポーランド、ブルガリア等に於ける改良主義的農民組合及農民黨のインターナショナルで、共產主義に反對し、中小農民のみによる政權獲得を目標としてプロレタリア革命を否定し、且モスコに於ける國際農民委員會（赤色農民インターナショナル）にも對立してゐる。指導者アレキサンダー・スタンプリスキはブルガリアに世界最初の農民政府を樹立したが、間もなくブルジョアジーに奪はれて失敗し、綠色インターナ

ショナルの運動は必然的に凋落するに至つた。

理論闘争（リロントソー）

マルクス・レーニン主義者が、一切のブルジョアの理論（特にプロレタリア的假面を持つて現はれてゐる所の社會民主主義、經濟主義、日和見主義等）に對して論争し、これを批判し克服することを理論闘争といふ。マルクス主義の理論は、常に非マルクス主義理論に對して闘争すると共に、自己批判し、同一陣營内に絶えず生起する非マルクス主義的要素を容赦なく克服すると共に、且つ此理論を實踐に移し、革命的組織及闘争を擴大強化する過程において發展するのである。次に特殊的には、日本に於いて一九二五年から六年にかけて、福本氏によつて力説され——辯證法的唯物論を高唱し組合主義、折衷主義に對して即ち當時の總同盟、組合同盟の指導精神、山川、藤田、小泉、高田氏等に論争し「理論闘争に

よるマルクス主義意識の結晶」を力説した事を理論闘争全盛時代といふ。しかし、福本氏自身も亦、理論と實踐との辯證法的統一に失敗し、政治的日和見主義、解黨主義の理論に陥り福本主義そのものも亦コミンタン及XX共産黨によつて否定されるに至つた。

リング

人爲的に商品の價格を釣上げ暴利をむさぼる投機的奸商達の團結をリングと言ふ。

臨時議會（リンジギカイ）

「議會」を見よ。

リンチ

私刑のこと。法律によらず勝手に個人が處刑すること、盜犯防止法は一種のリンチの公認である。

關係事業（リンホジギョー）

「セツツルメント」を見よ。

倫理學 (ランリガク)

倫理とはブルジョア學者の用語で、人間の行動の規範を指すのであるが、これは時代と階級に依り異つてゐる。在來此の標準は、善惡、正邪等によつて立てられそこから道徳的行動、良心、義務、克己、勤勉、人格等が説明されて來たが、之らは階級と時代を異にすることによつて異なり、併も支配者は其の時代の搾取者の利益になる行動を以つて倫理とし、以つて彼等の權力を保護して來たのである。だからプロレタリアートは在來の支配階級の倫理を破棄しプロレタリアートのXの實踐理論(辯證法的唯物論)に基づいて行動しなければならぬ。

リーフレット

宣傳用に用ひる一枚ものの印刷物。當面の具體的問題の暴露及其れに對する闘争の理論的根據を宣傳し、煽動を基礎づけるために時に應じて發行する。

【ル】

累進税 (ルイレンゼイ)

「高率累進課税」を見よ。

ルネッサンス

普通文藝復興と譯され、原意は復活又は復歸である。文藝復興とは中世の終から近世への過渡時代に歐洲に於いて、自然科学の勃興、宗教改革、自由貿易等に依り近代ブルジョアジーが擡頭し、それに對して自由主義の文化が繁榮するため、古代ローマギリシャに於けるが如き美術、建築、學術等々を取り入れ斯る文化が復活したことを言ふ。

ルンペン・インタリゲンチヤ

浮浪知識社會層のこと。失業、貧困、又は思想的混亂等から一定の生活條件も目的も失つて、類聚し浮浪してゐるインタリゲンチヤを指す。最近帝國主

(ル)

義は夥しいインタリゲンチヤの失業者、無就職者を出し、ルンペン・インタリゲンチヤの数は益々増大しつゝある。

ルンペン・プロレタリアート

浮浪労働者、被搾労働者と譯さる。資本の極度の壓迫のため、不具、疾病、老衰し労働能力を失ひ、又は失業、怠惰等のため一定の職場と労働の機会を失ひ、生活能力、生産能力、闘争力を失つた最下層の労働者。其の特徴は、(一)永久的失業と貧困に陥り生活の基準がなく其の日の生活のためには手段を選ばない、(二)一定の職場を持たない、(三)無産階級の落伍者で階級意識なく、組織力、闘争力が無く罷業破りや反動に買収される、(四)従つてマルクスは此の層を、プロレタリア革命には反動的勢力としてブルジョアに利用される有害のものであると評してゐる、(五)普通自由労働者をルンペンと呼んでゐる。

三四五

るが、自由労働者の中に最もルンペン・プロレタリアが多いが、自由労働者は凡て浮浪労働者ではない。ルーズ

規律なく、方針なく、だらしない行動を指す。

ルーズ

るが、自由労働者の中に最もルンペン・プロレタリアが多いが、自由労働者は凡て浮浪労働者ではない。ルーズ

[2]

レヴィジヨニズム

「修正派社会主義」を見よ。

歴史哲學 (レキシテツガク)

ブルジョア哲學者が唯物史觀に對立して、歴史を形而上學的に解釋した反動哲學が歴史哲學である。歴史は絶対精神の具體的な自己發展であるとか、歴史的事實の認識は如何にして可能であり、如何なる法則の下に行はれるかを、目的論的に即ち觀念的に論じたもので、ヘーゲル、ワッケルトが其の代表者である。

歴史派經濟學 (レキシヘケイザイガク)

ブルジョア古典經濟學派(スミス、リカルド等)が個人主義、自由主義の經濟學を打ち建てたが資本主義は帝國主義の獨占時代に發展するに至り、二十

(2)

世紀の初頭來獨逸を中心に、帝國主義時代に適合するようブルジョア經濟學——即ち、國家主義的經濟論、保護貿易主義、經濟的活動に對する國家の干渉の必要を唱へる經濟理論が生れた。これを歴史派經濟學といふ。シュモラーの「一般國民經濟學原論」は其の代表的著作で、今日ではカール・デイールが其の繼承者である。

歴史的使命 (レキシテキシメイ)

プロレタリアートが階級闘争により、ブルジョア社會をXし、XX主義社會の實現することを意味す。即ちプロレタリアートが歴史の分析によつて課せられ、歴史を發展(變革)せしむるところの使命である。

レジョナリズム

一種のブルジョア的的地方分權論で、歴史的に境界線を有する地方區域(州)を設け、地方議會に政治

的、経済的、自治権を附與せしめんとする主張。フランス・ブルジョアに依つて唱へられ、イギリス等にもこの運動が存在する。

レフト

左翼といふ言葉であるが、労働組合内に於ける左翼——即ち革命派、赤色派を指す。特殊には、プロヒンタン×××として一九二六年全国の各労働組合の赤色分子が結成され、これを「レフト」と呼び昭和二年の工代会議、五法案要求闘争、太平洋労働會議代表派遣其他労働組合運動等を統一的に革命的に指導したが、昭和三年の三・一五事件以後自ら揚棄し「レフト」の任務を日本労働組合全国協議會が繼承するに至つた。

レファレンダム

一般投票と譯す。法律の制定を議員が行はず直接國民が可否を投票して決定する方法をレファレンダム

ポーターは上層機關の命令によつて動くのが普通である。

レーゼ・フェア

自由放任主義と譯す。其項を見よ。

レーゾン・テートル

存在理由と譯す。

レーパー・カレツチ

「労働大學」の項を見よ。

レーニニズム

「レーニン主義」を見よ。

レーニン主義 (——シニギ)

レーニン主義は帝國主義時代に發展せしめられたマルクス主義で、ニコライ・レーニンによつて深められた共産主義——プロレタリアの革命理論である。スターリンは「レーニン主義とは帝國主義及プロレタリア革命時代のマルクス主義である。それは一般

ムといふ。即ち、議會が或る法案を可決した場合、其法案を實施するや否やを國民の一般投票によつて決定せしむる方法で、これには、(一)議會が可決した法案を國民の再投票に附す方法と、(二)一定数の選舉人が要求した場合に、一般投票を行ふの二種ある。又政黨や組合が重要問題を決定する場合全會員に直接投票せしめて組織大衆の意志を反映せしむることもレファレンダムと言ふ。しかし、支配階級の彈壓を前にしてストライキの可否、闘争をやるか否やを一般會員の投票に待つが如きは、革命的組織の指導部が採用すべきことではない。

レポ

レポト又はレポーターの略稱。無産階級の運動状態、組織状態等の情報、連絡、通信、報告等をレポトと呼び、其の役目をする人をレポーターといふ。レポは多く半秘密に文書又は口頭でなされ、レ

的には無産者革命の理論と戦術であり、特殊的にはプロレタリア獨裁の理論と戦術である」と言つてゐる。即ち、レーニンの時代は、(一)トラスト、カルテル等の獨占資本が支配的地位につき階級闘争が激化し、プロレタリア革命が現實の日常問題となつた(二)帝國主義列強間の競争と對立が激化し、帝國主義戦争が必然となつた、(三)植民地及弱少國に對する帝國主義者の掠奪が一層甚だしくなり之に對して民族革命が必然となつた時代の共産主義である。レーニン主義の具體的理論の方面を指摘すれば、(イ)共産黨の革命的組織論、(ロ)世界革命の戦術、戦術の問題、(ハ)農民との同盟の問題、(ニ)植民地革命の問題、(ホ)第二インターナショナルの日和見主義社會民主主義に對する闘争の問題、(ヘ)プロレタリア獨裁の具體的問題(ソビエツト政權の樹立)等が實際的に論ぜられ、マルクスが暗示に止まつてゐたも

(2)

のを深め發展せしめたのである。次にレーニンの代表的著作としては「國家と革命」「帝國主義論」及革命の實際職務に関する多数の政治理論が主要なものである。(マルクス主義、共産主義、ボルシェビキヤ、ソビエツト、プロレタリア獨裁等を参照せよ)

レーニン・デー (國際的闘争日)

一月二十一日。一九二四年一月二十一日にモスコイ郊外のゴルキ村でレーニンは死んだので、コミンテルンは毎年この日を、偉大な指導者の革命的事業を繼承し、レーニンを記念すると共に、世界革命の實現の爲の闘争に足並を揃へて進出するための國際的記念日とした。

連記投票 (レンキトーヒョー)

「單記投票」を見よ。

聯邦 (レンボー)

數ヶ國が聯合し作った一の國家組織形態が聯邦で

三五〇

これに二種ある。(一)は國家聯合で、これは各加盟邦は獨立の自主權を持ち、聯邦の決議は其の邦の政府の同意を必要とし該政府が採用し實施して始めて効力を持ち、聯邦には執行權が無い。(二)は聯合國家であつて、加盟各邦は共通憲法を持ち聯邦の中央政權の下に屬し、其の執行は中央と各邦とが分擔して行ひ、各邦に或る程度の自治が認められてゐるが中央の方針に従つて行ふ組織である。

[ロ]

ロカルノ條約 (——ジョーヤク)

一九二五年十月、瑞西のロカルノに於いて獨逸と英、佛、白、伊、ポーランド、チェッコ・スロヴァキアの諸國間に締結された平和保證及仲裁裁判に関する條約。これは國際聯盟第五回總會の平和議定書(仲裁裁判、安全保障、軍縮)に基いてなされたもので、其の骨子は、(一)獨逸間、獨逸間の國境の不可侵、侵略的戦争の禁止、(二)これら諸國の紛争の平和的解決法、(三)及右事項遂行の保障方法等で、仲裁裁判條約がこれの實際的方面の一つとなつて現はれたのである。又この條約の結果獨逸は國際聯盟に参加するに至つた。

ロシア革命 (——カクメイ)

一九一七年十一月のプロレタリア革命を指す。し

かし、これは同年三月のブルヂョア革命及一九〇五年の革命の失敗の上に打ち建てられたものであつて十一月革命は必然に三月革命及一九〇五年の革命と關聯してゐる。(十一月革命、三月革命、一九〇五年の項を見よ)

ロシア共産黨 (——キョーサントー)

ロシア共産黨の起源はロシア社會民主労働黨で同黨(ボルシェビキ派)は十一月革命に成功し、一九一八年三月同黨第七回大會に於いて黨名をロシア共産黨と改め、一九一九年三月共産黨第八回大會に於いて、新綱領を決定し第三インターナショナル創立を全世界の革命的プロレタリアに提議しこれを實現し其の最有力の支部としてコミンタインの實質的指導に當つてゐる。ロシア共産黨の歴史はロシア革命の歴史であつて黨は、レーニンの一貫した指導の下に、三月革命、十一月革命、戰時共産主義等の苦難

三五二

時代を経て、一九二〇年には社会主義経済の建設、(工業、農業の電化、コオペレーション等)を進め、一九二一年には新経済政策を採用し、共産主義の建設事業に積極的に努力して来た。新経済政策に對しては「労働者反對派」の運動があり、又トロツキの永久革命論に基づく農民との同盟反對等の極左的反對論もあつたが、レーニンの方針に従つてこれらを克服した。一九二四年一月レーニンの死後、トロツキは黨の民主化を主張し黨内極左的分派を作るに至り、ジノビエフ、ブハーリン、スターリン等の幹部等によつて克服したが、續いて一九二六—八年黨内に右翼傾向が生じ先づジノビエフ、カリーメネフ等が幹部の地位を追はれ、一九二八年にはブハーリン亦追はれ、スターリンがレーニン主義の忠實な繼承者として指導の地位に立つてゐる。(尙一九二六年黨はソビエト全聯邦共産黨と改稱した。)ロシア共

産黨は、革命前より幾度か困難と危険に遭遇したが、常に困難と危機に打ち勝つて其の度毎に強化され、黨が革命に全く成功した後に於いても、右翼的、極左的傾向を常に克服し、黨は理論的にも組織的にも統一性を保持して強化し國際プロレタリアートのために貢献しつゝ、他方ソビエト政權(政府)を指導し一九二八年には經濟五ヶ年計劃を立て今日既に豫期以上の成功を収め、大機械工業の發展、農業の機械化と共産主義的集團經營等に成功し、生産力は既に大戦前に比し一五〇に増大し、一九二九年には七時間労働制を實施せしむるに至つた。

ロシア共産黨の組織は工場、農村並に軍隊等の細胞を單位とし、年一回大會が召集される。大會は最高機關で六十三名(候補三十四名)の中央委員と、一六三名の中央統制委員、六名の中央審査委員とを選出する。六十三名の中央委員に中央審査委員、中

中央統制委員の常任幹部とが加はつて、中央評議員會(Plenum)を構成し、評議員會は九名の政治部長(候補八名)、十三名の政治部長(八名の候補)、五名の書記局長と一名の書記長を選出し、更に黨機關紙主筆、機關新聞代表者、第三インターナショナル執行委員會への黨代表委員を選出する。黨規律は嚴格で鐵の如き統制を持ち、黨員は大會に於いて自己の意見を積極的に述べるが、一度決定したことは一切反對を許さない。且つ黨員である限り上層機關の命令には絶対に服従すべき義務を持つてゐる。黨員数は革命直後約二十萬人であつたが、一九二二年に七十二萬五千人に達し、同年不良黨員を淘汰して五十四萬九千人に減少し黨の構成を労働者四八%、農民及職人一%、インテリゲンチヤ二五%、其他四%となし、革命的労働者を主要構成要素としてをり、一九二九年再び清黨(淘汰)を斷行し現在革命的労働

者が五七%に達してゐる。現在黨員数は百三十餘萬人で内十五萬は婦人の黨員であり、中央機關紙「プラウダ」は百數十萬部發刊されてゐる。(ロシア社会民主労働黨の項を参照。)

ロシア社会民主労働黨(——シヤカイミンシユロイド——)

ロシア共産黨の前身でロシア社会民主黨と略稱す一八八三年ブレハーノフ、ザスリツチ、アクセロド等がスイスで組織したマルクス主義の「労働者解放團」が「ロシア社会民主労働黨は資本主義に壓迫されてゐる労働者の完全な解放を期す」と宣言したに始まり、正式には、ブレハーノフ、レーニン等によつて一八九八年三月モンスタにロシア社会民主労働黨創立大會を開催して建設された。當時ロシアを吹き捲つてゐた「經濟主義」に對する闘争の中に結黨したもので、大會に出席した者は、「労働者解放團